

シラバス（論文コース）目次

科目名	頁	科目名	頁
保健医療福祉特論	30	生体防御・感染看護学特論Ⅱ（生体防御機能）	57
保健統計学	31	シミュレーション教育論	58
看護研究Ⅰ（概論）	32	基盤・機能看護学演習Ⅰ	59
看護研究Ⅱ（量的・質的研究）	33	基盤・機能看護学演習Ⅱ	62
看護管理・政策論	35	女性健康看護学特論	65
看護情報科学特論	37	小児看護学特論	66
生命倫理	38	慢性看護学特論Ⅰ（セルフケアの再獲得）	68
看護倫理	40	慢性看護学特論Ⅱ（セルフマネジメント）	70
看護理論	41	がん看護学特論	71
行動理論	43	がん終末期看護特論	72
看護教育学	45	老年看護学特論Ⅰ（老年病看護学）	73
コンサルテーション論	46	老年看護学特論Ⅱ（認知症高齢者看護）	74
フィジカルアセスメント	47	老年施設看護特論	75
臨床看護病態生理学	48	地域看護学特論	76
臨床看護薬理学	49	在宅看護学特論	77
遺伝子診断と疾患の分子生物学	51	精神看護学特論	79
国際医療保健論	52	実践看護学演習Ⅰ	80
国際言語文化論入門（英語分野）	53	実践看護学演習Ⅱ	95
基礎看護学特論	54	特別研究Ⅰ	108
看護管理学特論	56	特別研究Ⅱ	122

科目名・英名	保健医療福祉特論 Advanced Public Health Services Administration		科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	山口久美子、後藤 勝		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306 講義室		
科目概要	<p>質の高い保健医療福祉を提供するには、行政側が現場のニーズを吸い上げ、政策に反映させることが重要である。看護職者は、関連分野に従事する関係者と連携し、行政側に現場のニーズを伝え、保健医療福祉活動の実施とその質の向上のための要請をする。すなわち、行政と現場を結ぶパイプ役の一端を担うことが期待される。関連分野に従事する関係者、さらに行政側と効果的に連携するには、それぞれの活動の実態を知り理解することが不可欠である。</p> <p>本科目は、看護職者の役割を明確にするとともに、臨床および行政担当者から直接情報を得て実情を知り、看護職者として保健医療福祉に有効に機能するための基盤をつくることを目的とする。</p>					
授業目的	総合的に看護ケアをマネジメントし、保健医療福祉チームにおいては多職者と連携・協力・調整するための知識を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民を対象とした保健医療福祉の施策の実情と課題を理解する。 2. 地域住民の保健医療福祉のニーズを理解する。 3. 地域の保健医療福祉の質の向上を図るための看護職独自の役割について考える。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	・保健医療福祉行政における看護職の役割			山口久美子
	2	国における保健医療行政の実態と課題	・保健医療福祉行政における国の立場から			後藤 勝
	3	保健医療福祉行政の実態と課題①	・保健医療福祉行政における県の立場から			山口久美子 (ゲストスピーカー)
	4	保健医療福祉行政の実態と課題②	・栃木県の医療福祉行政における看護職の立場から			
	5	保健医療福祉行政の実態と課題③	・市町村および保健所の立場から			
	6	県行政に協力する本学の立場から	・保健医療福祉における大学（大学病院）の役割			山口久美子 (ゲストスピーカー)
	7	看護職能団体の実態と課題	・保健医療福祉行政における職能団体の立場から			山口久美子 (ゲストスピーカー)
	8	まとめ	・自己の課題と保健医療福祉行政の視点から課題を明らかにする。			山口久美子
授業外における学習・時間	事後レポートの作成（課題については授業内で提示する）					1 コマ/30 分
評価方法	授業への参加度（準備・積極性）30%、レポート70%で評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡本全勝（2005）：新 地方自治入門 行政の現在と未来（第4刷），時事通信社。 2. 佐藤 進（1996）：福祉と保健・医療の連携の法政策（新版第1刷），信山社。 3. ジュリアン・ルグラン 著、郡司篤晃 監訳（2008）：公共政策と人間，聖学院大学出版会。 4. 健康支援と社会保障制度④関係法規，メジカルフレンド社，2013。 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	メールもしくはオフィスアワーに研究室で対応する。(17:00~18:00) yama-k@dokkyomed.ac.jp					

科目名・英名	保健統計学 Health statistics		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	小橋 元、春山康夫、梅澤光政、西連地利己		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306 教室		
科目概要	疫学は、「人間集団を対象として、その健康および健康障害の頻度と分布を明らかにし、それらに関連する要因とその交絡状況を包括的に研究して、より良い社会、暮らしに還元する学問」であり、統計学は、「多くのデータを要約し、中に含まれている情報を把握しやすくする手段であると同時に、要約された事実に基づいて、別の場面（対象）あるいは将来にどのような結果が得られるかを推定、あるいは予測する学問」である。したがって、疫学と統計学は、車の両輪のような関係であり、さまざまな研究においてはもちろん、日常の業務や生活においても重要な学問である。					
授業目的	疫学研究デザイン的能力を養い、統計解析の考え方を理解する。					
到達目標	看護研究や看護職実務上で必要な統計知識の修得を目標とする。内容としては、データの収集、データの種類、代表値、データのばらつき、集計、推定、検定、メタアナリシスなどの理論を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	疫学とは何か	疫学研究についての概説			小橋 元
	2	疫学研究デザイン	疫学研究の種類について			春山康夫
	3	バイアスと交絡	バイアス、交絡とその制御方法について			西連地利己
	4	EBM・EBN	EBM、EBN とは科学的思考の基礎の理解			梅澤光政
	5	統計とは何か、データの整理、分布とばらつきについて	統計解析についての概説、データ整理、分布、代表値（中央値、最頻値、平均値）ばらつき（分散、標準偏差）			小橋 元
	6	変数の種類と相関、関連、因果関係	独立変数と従属変数、相関（散布図、相関係数）、2群の平均値の比較、カテゴリー分析、因果関係			梅澤光政
	7	確率	確率・確率分布、推定（区間推定）			西連地利己
	8	検定	検定（分散の検定、平均値の差の検定、独立性の検定）			春山康夫
	9	検定：ノンパラメトリック	ノンパラメトリック検定 ノンパラメトリックとは何かを理解する			小橋 元
	10	分散分析	分散分析（一元配置分散分析）、回帰分析（単回帰分析）			西連地利己
	11	検定	リスク比、オッズ比、生命表			梅澤光政
	12	多変量解析	多変量解析とは			春山康夫
	13	回帰分析・成分分析	重回帰分析、判別分析、主成分分析、因子分析			西連地利己
	14	統計解析演習	SPSS を用いて実際に統計解析の演習を行う			春山康夫
15	疫学、統計解析の応用	研究における疫学研究デザイン、統計解析の事例論文を通して理解する			小橋 元	
授業外における学習・時間	既講義内容の疑問点を確認する。				1 コマ/30 分	
評価方法	授業への参加度（予習、復習、発言等で 50%）、レポートまたは小テスト（50%）とする。					
テキスト・参考書	教科書：何冊か紹介する。授業資料はその都度配布する。					
履修上の注意						
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	講義中、またはメール（y-imai@dokkyomed.ac.jp、kantarou@dokkyomed.ac.jp）にて対応いたします。					

科目名・英名	看護研究 I (概論) Nursing Research I				科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	島田 三恵子				必修・選択	必修	開講年次	1 年次
							開講学期	前期
授業形態	講義				曜日時限	受講生との協議により決定する		
					教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	看護研究論文の作成には、研究の方法論および論文の作成に関する基礎知識を理解することが必要である。 本科目では、看護研究論文の作成に必要な基礎知識として、研究の種類、研究デザイン、研究プロセス、研究課題の明確化、文献検討、量的研究方法、質問紙作成、データ収集と分析、研究計画書の作成方法、研究倫理と倫理審査申請書の作成方法、研究発表と討論、研究成果の活用、および論文投稿などについて学修する。							
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力の基盤を培う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の科学的探究と看護実践との関係を説明する。 2. 看護研究を進めるプロセスと各々の段階の具体例、及び研究倫理を説明する。 3. 自分の臨床疑問を文献検索につなげるプロセスを説明できる。 3. 論文クリティークを行い、看護研究の成果活用方法を説明する。 4. 量的研究：調査研究のプロセスと質問紙作成の要点を説明できる。 5. 研究論文の作成と発表方法の要領と留意点を説明する。 6. 研究課題(案)を念頭に、研究計画書、倫理審査申請書(案)の作成を試みる。 							
授業内容	回	月	日	曜	限	授業計画	授業外学習	担当者
	1	4	17	火	5	研究の概念枠組みと意義、研究のプロセス、	配布資料復習	島田三恵子
	2				6	リサーチクエスションと PICO	同上	
	3	5	15	火	5	文献検索と文献検討のまとめ方	構造化抄録	
	4				6	論文のクリティークの基本：STROBE、サブストラクション	論文選定	
	5	5	29	火	5	調査研究の特徴とプロセス、研究の種類(質の研究との違い)	配布資料復習	
	6				6	質問紙作成の基本とプロセス	テキスト①該	
	7	6	5	火	5	測定尺度の信頼性と妥当性	当章予習	
	8				6	文献クリティーク ① ②	発表者が 2 週以	
	9	6	19	火	5	文献クリティーク ③ ④	前に文献配布、各	
	10				6	文献クリティーク ⑤ ⑥		
	11	7	3	火	5	研究計画書の書き方	案作成	
	12				6	研究倫理ガイドライン、倫理審査申請書の書き方	案作成	
	13	7	17	火	5	論文のまとめ方(原著論文の作成方法)、	テキスト②、他	
	14				6	論文のまとめ方(論文投稿、査読の要点)、研究の不正行為		
15	7	24	火	5	学会発表とプレゼンテーション技術、研究指導の受け方	配布資料復習		
授業外における学習・時間	前期中に e-learning で①研究者の倫理(CITI)と②ICR 臨床研究入門を行い、pass する。							1 コマ/30 分
評価方法	授業全般に関わる参加度(準備性・積極性)10%、プレゼンテーション20% 討論の参加度と発言の適切性20%、CITI と ICR 受講50%で評価する。							
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> ① 石井京子、他：ナースのための質問紙調査とデータ分析、医学書院 2002. ② アメリカ心理学会、APA 論文作成マニュアル〔第2版〕、医学書院 ③ 大木秀一：文献レビューのきほん、医歯薬出版 2013. 							
履修上の注意	テキストは、自己学習し参加する。研究方法を理解するために、文献クリティークを行う。							
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	Email:shimadam@dokkyomed.ac.jp、オフィスアワー：水曜 12～13 時 にて対応いたします。							

科目名・英名	看護研究Ⅱ（量的・質的研究） Nursing Research II		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	栗生田友子、春山康夫、大久保功子		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	後期
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護学の体系化には、量的研究と質的研究の両方の研究方法論が必要である。しかしそれぞれのパラダイムが異なるため、各々の研究方法論を理解し、看護学の今後の発展に必要な研究方法論について理解することは重要である。</p> <p>本科目では、看護研究Ⅰで学修した研究の基礎知識をふまえ、看護領域でよく用いられている研究方法として、量的研究では疫学的調査法、質的研究では内容分析、Grounded Theory Approach、解釈学的アプローチについて学び、各々の方法論の特徴と限界について理解する。</p>					
授業目的	「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を培うために、看護研究の方法について質的・量的な探究方法を学修する。					
到達目標	一般学習目標					
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究と質的研究の相違点を理解する。 2. 疫学的調査法を理解する。 3. 内容分析と grounded theory approach の研究方法を理解する。 4. 現象学的アプローチについて理解する。 					
到達目標	行動目標					
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究と質的研究の相違点を挙げて説明する。 2. 疫学的調査法：仮説の設定、研究デザイン、仮説の検定方法、疫学と EBN との関係を説明する。 3. 内容分析と grounded theory approach の研究方法を説明する。 4. 現象学的アプローチについて説明する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	疫学概論	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疫学とは 2) 疫学の基本指標 3) 疫学と Evidence-Based Nursing (EBN) 			春山康夫
	2	研究調査の考え方と進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究課題の抽出 2) 文献検索 3) 看護研究目的と仮説 4) 看護研究デザイン 			
	3	研究目的と仮説	<ol style="list-style-type: none"> 1) 記述疫学 2) 分析疫学 1（生態学的研究） 			
	4	研究デザイン 1：横断研究	<ol style="list-style-type: none"> 1) 分析疫学 2（横断研究と縦断研究） 2) 介入研究 			
	5	研究デザイン 2：縦断研究	<ol style="list-style-type: none"> 1) SPSS のデータベース作成 2) 変数の計算、再カテゴリー化、新変数の作成 3) 正規分布と基本統計量 			
	6	仮説検定（単変量と多変量解析）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対応のない t 検定、対応のある t 検定 2) 分散分析 (ANOVA) 3) カイ二乗検定、マクネマー検定 4) マン・ホイットニー検定、ウィルコクソン検定 			
	7	疫学と Evidence-Based Nursing (EBN)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 一般線形モデル（共分散分析 (ANCOVA)） 2) 重回帰モデル 3) 多重ロジスティック回帰モデル 			
	8	質的研究概論	<ul style="list-style-type: none"> ・探求レベルから見た質的研究と量的研究の関係 ・質的研究の特徴と課題 ・看護で多用されている質的研究方法論 			栗生田友子

	9	内容分析について①	<ul style="list-style-type: none"> 内容分析と内容の分析の違い（既存の方法論とそうでない方法の特徴と課題） Bernard Berelson, Ole R. Holsti, Klaus Krippendorff の各々が開発した方法論の特徴と課題について、論文を通して概説する。 	
	10	内容分析について②	前回に続く。	
	11	Grounded theory approach (GTA と略す) について①	<ul style="list-style-type: none"> Glaser と Strauss がGTA を開発した社会的背景(相互作用論の概説) →予習してきた内容のプレゼンをもとに、看護における GTA の有効性を考察する。 その後の両者の意見の相違による方法論上の混乱 木下康仁による M-GTA の方法論上の課題の改善策 看護で用いられている研究例による GTA の有効性と課題 	
	12	Grounded theory approach について②	前回に続く。	
	13 14	現象学的アプローチ	解釈学的アプローチについて学び、その特徴と限界について理解する。	大久保功子
	15	まとめ		栗生田友子
授業外における学習・時間	自ら取り組んできた研究実績を踏まえて、再学習する機会として授業を効果的に活用できるよう、事前準備をして授業に臨むことを基本とする。授業ごとに1時間程度を確保する。			
評価方法	評価基準の割合は、①第1回講義から第7回講義までの内容を50%、②第8回から第15回までの評価を50%として、①と②を合算して最終評価を出す。それぞれの評価基準は、授業参加の状況10%、授業中で課したレポート40%、最終レポート50%とする。			
テキスト・参考書	教科書：日本疫学会 編集(2009)：疫学—基礎から学ぶために(第11刷), 南江堂. 参考書：N. K. デンゾン 他 編, 平山満義 監訳(2006)：質的研究ハンドブック1～3巻, 北大路書房. その他、随時紹介する。			
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：12時～13時 E-mail：aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。			

科目名・英名	看護管理・政策論 Nursing Administration・Nursing Policy		科目区分	共通科目	単位数	2単位
教員名	山口久美子、佐山静江		必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306教室		
科目概要	<p>本科目では、保健医療福祉分野に従事する諸専門職との連携をとりながら、看護職者が仕事をしていくための看護管理に関する諸理論、概念について概観する。また、保健・医療・福祉施設における看護組織のあり方、看護職者の業務運営・管理のあり方、看護業務と政策との関連について学習し、質の高い看護を提供できるシステムを構築することについて学習する。</p> <p>具体的には、看護管理を科学的に考究するための基礎として、まず、ものの見方、考え方について講じ、そのうえで、看護管理に関する諸概念や諸理論および技法について学ぶ。また、看護業務と政策との関連を歴史の視点から概観し、現況と今日的課題について探究する。さらに、看護政策の変遷と現状、行政組織の構造と機能を学び、課題を見極める方法と政策策定について教授する。他方、臨床現場からの視点で、経営学での学習及びトップマネジメント・ミドルマネジメントとしての実務経験をもとに、病院組織および看護組織の実情、課題、展望について講義を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念を説明する。 2. 看護サービスの概念について例を挙げて説明する。 3. 自己変革し、創造的な看護管理者のあり方を説明する。 4. 大学病院の看護管理の実態と課題を説明する。 5. 看護管理と看護政策の関係を説明する。 6. わが国の看護政策の形成プロセスを説明する。 7. わが国の看護政策の変遷と課題を論述する。 8. 看護政策の方法と評価を論述する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				山口久美子
	2	看護管理概説①	「看護管理者になるということ」「看護管理者に必要な知識体系」について学び、看護管理の意義と役割について理解する。			
	3	看護管理概説②	「看護管理の歴史的」変遷を概観し、看護管理の歴史を学ぶ意義を理解する。			
	4	看護管理概説③	「組織化とマネジメント」について、組織論のおおまかな流れとマネジメントのプロセスを理解する。			
	5	看護管理概説④	「人的資源活用と情報システム」として、リーダーシップとマネジメント、キャリア開発と継続教育、看護管理を支援する情報システムを理解する。			
	6	看護管理概説⑤	「制度・政策と医療経済」について理解し、制度と看護の関係について看護管理の課題への応用的視点を理解する。			山口久美子
	7	看護管理の現状と課題①	看護管理の視点から診療報酬について概観し、看護管理の課題への応用的視点を理解する。			山口久美子
	8	看護管理の現状と課題②	保健医療行政の地域移行、地域包括ケアについて看護管理の課題への応用的視点を理解する。			
	9	看護管理の実際①	病院管理の実際を理解する。(トップマネジメント)			獨協医科大学 統括看護部長
	10	看護管理の実際②	病院管理の実際を理解する。(ミドルマネジメント)			佐山 静江 山口久美子
11-14	演習	それぞれが課題についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。			山口久美子	

			==== 事前学習：発表する各領域の対応困難事例のレポートを作成する。	
	15	まとめ	自己の課題と看護管理の課題を明らかにする。	
授業外における 学習・時間	11-14 回目の講義に向けて、自らの課題について討議するレポートの作成、及びレポート作成に向けた文献検索等			1コマ/30分
評価方法	講義への出席状況、レポートの内容を考慮して総合的に評価を決定する。 講義への参加状況 (40%) レポート (60%)			
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 沢田允茂 (1976) : 考え方の論理 第50刷 講談社学術文庫45, 講談社 2. 高根正昭 (1979) : 創造の方法学 講談社現代新書553, 講談社 3. 草刈淳子 (1992) : 看護管理における研究の現状と展望 看護Mook40, 金原出版, 東京. 4. 清水嘉与子 他 (2009) : 保健師助産師看護師法60年史 : 看護行政の歩みと看護の発展, 日本看護協会出版会. 5. 日本看護歴史学会 編集, 川嶋みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子 監修 (2008) : 日本の看護120年 歴史をつくるあなたへ, 日本看護協会出版会. 6. 見藤隆子, 石田昌宏, 大串正樹, 北浦暁子, 伊勢田暁子 (2007) : 看護職者のための政策過程入門, 日本看護協会出版会. 7. 日本看護協会出版会 編集(2010) : 看護におけるケアとキュア、そして看護の役割—裁量権拡大の本質論—, インターナショナルナーシングレビュー33(1), 日本看護協会出版会. 			
履修上の注意	主体的学修を望む。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体に関わる質問は講義時間で対応する。 2. オフィスアワーに研究室で対応する。 オフィスアワー：水曜日 17:00~18:00 研究室NO.11 Email : yama-k@dokkyomed.ac.jp			

科目名・英名	看護情報科学特論 Advanced Nursing Informatics		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	坂田信裕、山下真幸、坂東宏和、上西秀和		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	教室棟 A102 PC 教室		
科目概要	<p>看護情報科学特論 (Advanced Nursing Informatics) では、情報化社会の変革とともに変化を続ける医療・看護における情報化に関する内容について、概念とともに実践的な活用をするための知識や技能、さらには研究的な取り組みも含む将来的な展開について学ぶ。</p> <p>その内容としては、個人情報の保護に関する法律やガイドラインに基づく適切な情報の取り扱いなどの情報倫理、電子的なシステムを用いたデータ取り扱いの特性や活用手法、さらには適切な情報セキュリティの概念や実践など、看護管理及び看護実践において、知識や技能が求められている領域を網羅する。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力を身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報・データの基本概念について理解する。 2. 情報管理・情報セキュリティについて理解する。 3. 高度情報化社会と医療・看護の関わりについて理解する。 4. 医療・看護で取り扱う情報の保護に関する法律やガイドライン等について理解する。 5. 医療・看護における情報・データ活用手法について理解する。 6. 高度化・複雑化する保健医療福祉分野における情報システムの現状と課題を理解する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス/ICT 活用学修環境の活用	演習：PC 教室・LMS・Office365 操作			坂田信裕 山下真幸 坂東宏和 上西秀和
	2	医療・看護における情報・データと活用手法 I	演習：アンケート調査実践 (概論、テーマ決定)			
	3	高度情報化社会と医療・看護	講義：病院等における情報化			
	4	情報セキュリティ	講義：情報セキュリティの現状と課題			
	5	医療・看護における情報・データと活用手法 II	演習：アンケート調査実践 (質問項目等の検討)			
	6	保健医療福祉分野における情報通信技術の活用 I	講義：ロボットなど、テクノロジーの進展			
	7	医療・看護における情報・データと活用手法 III	演習：アンケート調査実践 (質問紙の作成)			
	8	保健医療福祉分野における情報通信技術の活用 II	講義：地域医療における ICT 活用			
	9	医療・看護における情報・データと活用手法 IV	演習：アンケート調査実践 (調査結果の入力)			
	10	保健医療福祉分野における情報通信技術の活用 III	演習：看護領域におけるプレゼンテーション			
	11	医療・看護における情報・データと活用手法 V	演習：データの集計・可視化			
	12	医療・看護における情報・データと活用手法 VI	演習：統計解析 (1)			
	13	医療・看護における情報・データと活用手法 VII	演習：統計解析 (2)			
	14	医療・看護における情報・データと活用手法 VIII	演習：アンケート分析			
15	総括	講義：全体の振り返りとまとめ				
授業外における学習・時間	各回の授業において提示される、事前学習または事後学習への取り組みが必要となり、LMS を用いた課題確認および作成ファイルの提出が求められます。					90 分
評価方法	授業準備 10%、討論の参加度と発言の適切性 40%、レポート 50% で評価する。					
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石村 貞夫, 劉晨, 石村友二郎, 加藤千恵子 (2015) : 『SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 (第 4 版)』, 東京図書. 2. 樋口耕一 (2014) : 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』, ナカニシヤ出版. 3. 他の参考書については授業内で示す。 					
履修上の注意	講義だけでなく、授業時間中に討論を行うため、事前学習および事後学習が必要となります。					
質問への対応 (Web/メール・Email)	質問は、教室棟 A101 もしくは A105 にて、担当教員が随時対応する。ただし、都合によって、調整を行う場合がある。電子メール (johoc1s@dokkyomed.ac.jp) の場合は、メールを教員が受信後、質問内容を確認し、適切な方法により対応する。					

科目名・英名	生命倫理 Bioethics		科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	北澤正文、黒須明、黒須三恵、山内忍		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306 教室		
科目概要	<p>今日、医療技術の急速な発展に伴い、医療を取り巻く環境において、生命倫理の問題がますます重要になってきている。また、生命倫理は、看護倫理の基礎として欠くことのできないものである。</p> <p>本科目では、生命倫理の基礎的、専門的知識を学修すると共に、現在議論されている生命倫理問題の動向と現状を理解して、医療場面での倫理的諸問題への応用倫理的なアプローチを試みることで、倫理的な判断能力、実践能力の向上を図ることを目的に学修する。</p>					
授業目的	高い倫理観に基づいた看護行動をとることができ、複雑な倫理的課題に対応できる調整能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の原則、背景について理解する。 2. 医学研究における倫理学について理解する。 3. 患者の基本的権利を認知し、これらに関する現状の問題点を理解する。 4. 生殖医療や末期医療、先端医療の倫理学について理解する。 5. 医療事故が発生した場合の対処などについて理解する。 6. 行政と医療との関連を学び、医療関係法規について理解する。 					
授業 内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	医の倫理	生命倫理の成立とその背景、歴史を学び、国際看護師協会（ICN）の看護師倫理綱領を理解する。倫理の4原則について学び、ユネスコの「生命倫理と人権に関する世界宣言」の内容について理解し、議論を深めていく。			黒須三恵
	2	患者の権利・インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの成立には患者の自律性や人格尊重が重要であるが、随伴する医学的適応や予後、社会的環境など周囲の状況も大きな影響がある。患者の権利を中心に倫理的側面から問題点を考えてみたい。			黒須 明
	3	生殖医療と倫理	生殖医療は人の生命の誕生にかかわる医療であることから、通常の臨床医学とは本質的に異なった倫理観が必要となる。生殖医療の対象は、クライアントと生まれてくる子供を含む家族と第三者であり、これらを含め通常の臨床医学と異なる倫理観を考えてみたい。			北澤正文
	4	再生医療と倫理	再生医療、および再生医療関連技術の基礎的知識とその現状を学ぶとともに、再生医療の実現に向けた研究開発の進歩がもたらす倫理的、社会的問題点について考える。			山内 忍
	5	臨床研究と倫理	医学の進歩は人間を対象とする諸試験を要する研究に根本的に基づくものである。現在の動向を踏まえ原則や規制など諸問題について検討する。			山内 忍
	6	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死の違いを歴史的背景を含めて学ぶ。近年議論され、法制化の働きかけもある尊厳死についての議論を各々の感想を含めて議論していきたい。			黒須 明
	7	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植についてはいわゆる「臓器移植法」成立後徐々に行われるようになりつつあるが、脳死を人の死として受容しにくい国民感情もあり、まだまだ一般的とは言えない状況にある。			
	8	裁判判例	看護師が主体となる医療事故である「療養上の医療事故」は比較的少ない。看護師の法的責任が問われた実例を提示し、その判決内容を含めて議論を行う。			
授業外における 学習・時間	第三者が介入する生殖医療には、どのようなものがあるか考えておいてほしい。 医療現場における倫理的問題点について考える。				90分	
評価方法	授業への参加度（準備性・積極性）20%、客観的評価80%とする。					

<p>テキスト・参考書</p>	<p>講義は基本的にPower Pointで行い、資料を配付する。下記を参考書として挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理Q&A 刊行委員会 編：医療倫理Q&A, 太陽出版 2. 生命倫理と法編集委員会 編：資料集 生命倫理と法, 太陽出版 3. 金川 琢雄(2008)：実践 医事法学(増補新訂版), 金原出版 4. 中島 和江 他：ヘルスケアリスクマネジメント, 医学書院 5. 江川 寛 他：医療科学, 医学書院 6. 臓器移植制度研究会 監修：脳死判定・臓器移植マニュアル, 日本医事新報社 7. 森岡 恭彦：医の倫理と法, 南江堂
<p>履修上の注意</p>	<p>主体的学修を望む。</p>
<p>質問への対応 (オフィス・Email)</p>	<p>講義終了後に質問するか、後日法医学講座（内線 2132）まで連絡を取ること。</p>

科目名・英名	看護倫理 Nursing Ethics	科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	長尾式子	必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
				開講学期	後期
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	N306 教室		
科目概要	<p>近年、社会の人々の価値観が多様化し、医療への期待や権利意識が高まる一方で、急速に進展高度化する医療技術に伴うさまざまな新たな倫理的問題が生じている。これに対して、患者の擁護者である看護職は倫理的感受性と調整力が求められる。</p> <p>本科目では、このような状況下において、看護職はどのように考え、判断、対応したらよいか、看護専門職に求められる倫理的問題への対応について探究することを目的とする。具体的には、倫理的問題への対応のために必要な基礎的知識について講義し、医療現場やライフサイクルで看護職が直面する葛藤やジレンマを感じる場面を取り上げ、検討する。</p>				
授業目的	高い倫理観に基づいた看護実践や、複雑な倫理的問題をめぐって当事者間で調整する能力、科学的及び倫理的側面の配慮に基づく研究能力に関する知識、態度を修得し、創造できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の変遷を理解する。 2. 看護倫理に関する基礎知識を理解する。 3. 倫理的意思決定モデルを用いた看護への活用を理解する。 4. ライフサイクル（出生から終末まで）における倫理的問題を理解する。 5. 専門職看護師に求められる倫理的役割と責任を理解する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	看護倫理の変遷とその動向	医療で倫理が問われるようになった歴史的背景 今日の医療ケア、医療系研究の倫理の動向	長尾式子	
	2	道徳倫理とケア倫理の諸理論	看護実践における価値基準（行為）と倫理理論		
	3	看護師の倫理規定と看護専門職としてのあり方	専門職倫理 看護研究と倫理		
	4	ライフサイクルに関する倫理的問題	出生をめぐる倫理的問題 終末期における倫理的問題		
	5	倫理的問題：個別的事例検討① 非配偶者間体外受精・胚移植—妻の妹を用いた場合	生殖補助医療をめぐる倫理的問題 生物学的な母と出産した母		
	6	倫理的問題：個別的事例検討② 代理母：代理妊産婦	生殖補助医療をめぐる倫理的問題 生物学的な女性が母か、出産した女性が母か		
	7	倫理的意思決定モデルの活用と事例検討 看護場面事例— インフォームド・コンセント、ケア拒否、家族への対応— その1	患者の権利とインフォームド・コンセント 意思決定における看護の視点と医師の視点		
	8	倫理的意思決定モデルの活用と事例検討 看護場面事例— インフォームド・コンセント、ケア拒否、家族への対応— その2	患者の権利とインフォームド・コンセント 患者の自律尊重と善行・無危害との対立		
授業外における 学習・時間	受講者は各人、パワーポイントで道徳的に葛藤を感じる場面や、医療現場や社会で生じる倫理的問題を含む事例について紹介するスライドをご準備ください。			1 コマ/30 分	
評価方法	授業全般に関わる参加度 10%、プレゼンテーション 20%、討論の参加度と発言の適切性 20%、レポート 50% で評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Sara T. Fry & Megan-Jane Johnstone, 片田範子, 山本あい子訳(2005) : 看護実践の倫理, 日本看護協会出版会. 2. Gladys L Husted & James H. Husted, 藤村龍子, 樽井正義 監訳 : 臨床実践のための看護倫理, 医学書院. 3. Anne J. Davis & Verena Tschudin& Louise de Raeve(2008) ; 小西恵美子監訳 : 看護倫理を教える・学ぶ, 日本看護協会出版会. 4. 石井トク(2008) : 看護の倫理学, 丸善株式会社. 5. アン・J・デービス 他(2007) : 看護倫理～日本文化に根ざした看護倫理とは～, 医学映像教育センター. 6. 赤林 朗 他(2005) : 入門・医療倫理 I, 株式会社 勁草書房. 				
履修上の注意	生命倫理を履修することが望ましい。授業のテーマについて積極的に質問議論に参加することを望む。全授業を通して看護倫理に関する最終課題レポートを提出すること。最終レポートに対しては、コメントを返します。				
質問への対応 (ワイズワ－・Email)	平日は、メールにて対応可能です。メールアドレスは以下の通り。 長尾式子 : n-nagao@nrs.kitasato-u.ac.jp				

科目名・英名	看護理論 Nursing Theory	科目区分	共通科目	単位数	2単位
教員名	菊池麻由美	必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
				開講学期	後期
授業形態	講義	曜日時限	受講者との協議により決定する		
		教室	受講者との協議により決定する		
科目概要	<p>高度な実践能力を育成するにあたり、看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する理論枠組として価値づけられる。</p> <p>本科目では、代表的な「ドロセア・オレムのセルフケア理論」「ジーン・ワトソンのケアリング理論」「パトリシア・ベナーの看護理論」などについて論及し、理論の看護事象への活用法を示す。また、1つの理論について検討した結果をプレゼンテーションする。</p>				
授業目的	高度専門職業人としての看護実践者、看護管理者、看護教育・研究者育成の為に、実践・管理・教育・研究の基礎と発展にとって重要な看護理論の理解を深める。				
到達目標	<p>1. 看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。看護実践の基盤となる諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用を検討する。</p> <p>1) 看護学の理論体系の発展経緯を説明する。</p> <p>2) いくつかの看護論の背景、主要概念、枠組みを説明する。</p> <p>3) 理論に基づく事例検討を行い、課題解決に看護理論を用いる方法を説明する。</p> <p>4) 1つの看護理論について背景、主要概念、枠組み、事例への活用方法をプレゼンテーションする。</p>				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性	看護における理論開発の歴史 看護理論の概観と看護科学、看護学との関連	菊池麻由美	
	2		・看護理論の諸概念、看護実践・教育・研究における重要性 ・卓越した看護実践への看護理論の活用 ・看護実践の質を維持・発展させるための理論構築		
	3		・理論と概念、理論の評価(分析とクリティーク)		
	4	ドロセア・オレムのセルフケア理論	理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題		
	5		課題を含んだ実践事例への看護理論の活用		
	6	課題:看護実践の中に看護理論を捉える①			
	7	パトリシア・ベナーの看護理論 または ジーン・ワトソンのケアリング理論	理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題		
	8		課題を含んだ実践事例への看護理論の活用		
	9	課題:看護実践の中に看護理論を捉える②			
	10	中範囲理論: 病みの軌跡理論 または パートナシップ理論	理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題		
	11		課題を含んだ実践事例への看護理論の活用		
	12	課題:看護実践の中に看護理論を捉える③			
	13	看護実践の中に看護理論を捉える	課題発表		
	14		看護理論の看護実践への活用 -その実際と課題-		
15	看護理論の看護実践への活用を支援する				
授業外における学習・時間	事前に『筒井真優美編集(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院』の[序] および[第一部:看護理論の発展と理論評価の基本となるもの]を読んで授業に臨むことが好ましい。			1コマ/30分	
評価方法	プレゼンテーション60%、グループ討議への参加40%等を総合評価する。				
テキスト・参考書	<p>1. 筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院.</p> <p>2. 筒井真優美編(2008), 看護理論 看護理論20の理解と実践への応用, 南江堂.</p> <p>3. 野川道子(2016), 看護実践に活かす中範囲理論, メヂカルフレンド社.</p> <p>その他、担当教員より随時に明示する。</p>				

履修上の注意	討議形式の授業・課題検討・課題発表をするので積極的参加を期待します。
質問への対応 (オフィスワーカー・Email)	E-mail twinpeaks9@outlook.jp

科目名・英名	行動理論 Behavior Analysis		科目区分	共通科目	単位数	2単位
教員名	森山哲美		必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
					開講学期	後期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306教室		
科目概要	<p>行動の理論として、行動分析学という学問を紹介する。行動分析学は、実験的行動分析学と応用行動分析学からなる。実験的行動分析学は、行動の実験的基礎科学で、行動についての法則（行動の原理）を明らかにする学問である。実験的行動分析学によって明らかにされた「行動の原理」を基にして、私たちの行動を環境に適した方向に改変するための方法論が応用行動分析学である。その意味で、行動分析学の知見は、医療や看護、あるいは福祉に活かすことができる。本科目では、基礎と応用の行動分析学を紹介しながら、どのようにすれば私たちの行動の問題（行動変容等）を解決していくことができるのかについて講義する。</p>					
授業目的	<p>適切な看護を実践するには、看護にかかわる行動のマネジメントが必要です。やみくもに行動すればいいというわけではありません。科学的な視点に立って、患者様はなぜこのように行動するのか、また医療関係者は、どのように行動すれば望ましい医療を実践できるのか、それらの問題について考える必要があります。そのためにも「行動の科学」を学ぶことは重要です。</p> <p>本講座の目的は、看護実践を科学的に分析・評価し、高度な看護実践に繋がる行動の科学である「行動分析学」の理論と研究方法を学ぶことです。すなわち、人の行動を望ましい方向に変容させるための視点と方法を学ぶことが目的となります。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの行動をきちんと説明することができる。 2. 日常生活や医療、看護の場面に関係する人達の行動を理解することができる。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	行動の科学としての心理学	心理学が「心の学問」ではなく、「行動の科学」である理由とその必要性について講義します。			森山哲美
	2	行動理論とは（行動分析学とは）	「行動の科学」としての行動分析学の考え方について講義します。行動分析学が実験的行動分析学と応用行動分析学からなることも説明します。			
	3	オペラント条件づけ（4つの随伴性）	行動に随伴して生起する環境の変化によって行動そのものが変化するオペラント条件づけについて説明します。4つの随伴性（正の強化、負の強化、正の弱化、負の弱化）について説明します。			
	4	オペラント条件づけ（強化スケジュール）	同じ行動に対して同じ強化子で強化しても、その強化の仕方（強化スケジュール）を変えるだけで行動に特有の変化をもたらすことができるということを説明します。			
	5	行動の原理	基礎的な実験的行動分析学の研究によって明らかになった「行動の原理」について説明します。行動は、「行動の原理」にしたがって変容します。			
	6	言語行動（基本的言語行動）	人の言語行動もオペラント条件づけによって強化され維持されている行動であること、そしてその基本的な言語行動について説明します。			
	7	ルール支配と随伴性制御	随伴性を言語化してできた刺激をルールといいます。「～すれば・・・」という形式の言語刺激です。人の行動は、このルールによって強く制御されます。一方、ルールではなく、行動に随伴した環境の変化によっても行動は制御されます。ルールによる制御をルール支配といい、行動に随伴した結果による制御を随伴性制御と言います。それぞれの制御を理解することで人間の行動は理解されます。			
8	行動の制御と応用行動分析学	行動の制御について学ぶことで、行動を適切な行動へと変容することが出来ます。適切な行動を獲得したり、不適切な行動を低減したりすることができるようになります。				

			ます。その方法について研究する応用行動分析学について講義します。	
	9	行動の観察と記録	行動分析学では行動を理解するために行動を観察して記録することが重要視されています。その方法について説明します。	
	10	実験計画法	行動を改変するための研究方法を紹介します。	
	11	オペラント条件づけ (形成化、促進化、連鎖化)	行動を望ましい方向に変容するための具体的な方法について説明します。	
	12	レスポナント条件づけ	行動に先行する環境事象によってもっぱら制御されるレスポナント行動の学習であるレスポナント条件づけについて説明します。この条件づけは、パブロフの条件反射という学習です。	
	13	情動条件づけ	なんでもなかった事柄に対して快や不快といった情動を感じるようになるメカニズムについて説明します。	
	14	徹底的行動主義	実験的行動分析学と応用行動分析学の哲学的基盤である徹底的行動主義について講義します。行動分析学の祖であるスキナーは、この視点にもとづいた「行動の科学」を提唱しました。	
	15	まとめ	「行動の科学」である行動分析学について、行動の予測と制御の視点からその全体のまとめをします。	
授業外における学習・時間		テキストはウィリアム・M・ボーム 著 森山哲美 訳の『行動主義を理解する—行動・文化・進化』です。この本を授業と並行して必ず読んでください。そして、適切な看護を实践するには、「行動の科学」の知見 (主に「行動の原理」) をどのように応用したらよいか、いつも考えるようにしてください。		1コマ/30分
評価方法	授業への参加状況、ならびにレポートの成績の両方で評価する。配点はそれぞれ50点とする。合わせて100点となる。			
テキスト・参考書	<p>テキスト</p> <p>ウィリアム・M・ボーム著 森山哲美訳 (2016). 『行動主義を理解する—行動・文化・進化』 二瓶社</p> <p>参考書</p> <p>河合伊六・辻下守弘・小林和彦 著 (2009). 『リハビリテーションのための行動分析学入門』 医歯薬出版</p> <p>杉山尚子 著 (2005). 『行動分析学入門』 集英社新書</p>			
履修上の注意	授業では、テキストや参考書に即して講義が必ずしも行われるわけではありません。しかし、テキストは必ず授業に並行して読み進めてください。不明な点があれば、遠慮なく質問してください。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	質問等の連絡先は、CBM14246@nifty.com です。 特にオフィスアワーがあるわけではないので、いつでも質問してください。			

科目名・英名	看護教育学 Nursing Education	科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	金子昌子	必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
				開講学期	前期
授業形態	講義・演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	N306 教室		
科目概要	看護専門職こととしての教育的役割は、看護実践や後輩育成において重要不可欠である。 本科目では、教育の定義や本質、教育学における基本概念や理論を学ぶ。さらに、医学教育の現況を参考に、基礎教育、継続教育、卒後教育の関連およびこれらの現状と課題、看護管理における看護教育の位置づけを理解し、看護専門職業人としてのキャリア開発のあり方について探求する。				
授業目的	看護や教育の実際の場面で教育活動に活用するため、看護教育の変遷や教育理論、教育方法について理解する。				
到達目標	1. 看護教育の歴史の変遷を理解する。 2. 教育心理学、学習心理学における学習理論を理解する。 3. 医学教育・看護学教育の現況と課題を理解する。 4. 専門職のキャリア発達における教育について理解する。				
授業 内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	看護教育制度の変遷	看護教育の歴史的な変遷、指定規則と大学設置基準及びカリキュラムの変遷を紹介する。	金子昌子	
	2	学習理論①	学習理論の自己学修を通して理解を深め、ディスカッションに臨む。 自己学習課題		
	3	学習理論②	教育心理・学習心理における学習理論：連合理論、ピアジェの発達理論、社会構成理論、状況の基づく学習理論、情報論的学習理論、組織学習論について、事前学修する。		
	4.5	授業展開の基本（1）	授業の形態、教育方法、教授方略、授業設計と指導計画：指導計画を作成し模擬授業を展開する準備を行う。		
	6	授業展開の基本（2）			
	7.8	成人教育	成人教育について、発達を通して探求する。ペタゴジーとアンドラゴジーの看護ケアとクライアント教育 ケアとしての教育		
	9.10.	現任教育、継続教育、卒後教育の現状と課題	現任教育、継続教育、卒後教育の現状と課題を学習者個々の立場で提示する。 Patricia Benner の Dreyfus Model を参考に、基礎教育からの看護専門職のキャリア発達における教育について探求する。		
	11	継続教育	継続教育の取り組みの実際と課題		
	12.13	医学教育の現況と今後	基礎教育、専門医教育の医学教育の現状を理解し、専門職教育についての課題や対策を探求する。	ゲストスピーカー 北村 聖 (国際医療福祉大学)	
14.15	まとめ	模擬講義のプレゼンテーション	金子昌子		
授業外における 学習・時間	教育心理・学習心理における学習理論：連合理論、ピアジェの発達理論、社会構成理論、状況の基づく学習理論、情報論的学習理論、組織学習論について、事前学修する。 看護教育学に関する基礎的な理解が本履修には不可欠であるため、以下の参考書を読んでおく。			1 コマ/30 分	
評価方法	授業への参加度（準備性・積極性）50%、レポート50%の割合で評価する。				
テキスト・参考書	1. 杉森みどり 他(2006)：看護教育学，医学書院。 2. 堀 薫夫他 (2008)：成人教育の現代的実践，鳳書房。 3. パトリシア ベナー他、早野 ZITO 真佐子訳(2011)：ベナー ナースを育てる，医学書院。 4. 藤岡完治(1994)：授業設計ワークブック，医学書院。 5. 梶田徹一(1993)：教育評価，有斐閣双書。 6. 中原 淳 (2010)：職場学修論 東京大学出版会。 7. 目黒悟 (2010)：看護教育を拓く授業リフレクション，メヂカルフレンド社。 その他、随時紹介する。				
履修上の注意	講義形式の授業にも積極的に質問、討議に参加することを望む。				
質問への対応 (Web/メール)	フィスアワー：原則として毎週水曜 12 時 10 分～13 時 E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。				

科目名・英名	コンサルテーション論 consultation		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	天賀谷隆、小西敏子、岸田さな江		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	N306 教室			
科目概要	<p>コンサルテーションの基本理論、プロセス、役割機能、ならびに看護学領域におけるコンサルテーションの実際を学ぶ。これらを通して、患者やその家族、看護職が抱える課題や問題解決のプロセスを共有し、有効な援助が行なわれる資源として活用されるコンサルタントの役割を理解する。</p> <p>また、事例検討やロールプレイなどの学習方法を駆使して、患者や家族へのケアや組織的な課題を明確化し、具体的なケアに関する助言などのコンサルテーションのプロセスを学び、適切な援助ができることを目指す。そして看護におけるコンサルテーションに有用な対人関係スキルを学び、さまざまな健康問題において適確な判断、指導、対処ができる能力を習得する。</p>					
授業目的	コンサルテーションに関する最新の知識と複雑な倫理的問題に対応できる調整能力を学修する。					
到達目標	<p>1) コンサルテーションに関する基本理論と方法を理解するとともに、コンサルテーションに必要な技術を習得する。</p> <p>2) 精神看護、がん看護、慢性疾患や感染領域等における専門看護師が行うコンサルテーションの実際を学ぶ。</p> <p>3) 自らの専門領域におけるコンサルテーション技法の活用方策、および今後の課題について、考察する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1-2	1) コンサルテーションの理論 (カウンセリングの基礎を含む) 2) コンサルテーションの基本理論	コンサルテーションの概念、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割の紹介と専門看護への応用的視点を理解する。			天賀谷隆
	3-4	がん看護領域におけるコンサルテーションについて	がん看護領域におけるコンサルテーションの実際を紹介し、援助プロセスにおける援助者の役割・課題を理解する。			天賀谷隆 小西敏子
	5-9	1) 精神科領域 (リエゾンなど) におけるコンサルテーションについて 2) カウンセリングの実際	生活習慣病を中心に、依存の概念、タイプ、プロセスを紹介し、専門看護への応用的視点を理解する。カウンセリングの実際を紹介し、援助プロセスにおける援助者の役割・課題を理解する。			天賀谷隆
	10-11	精神科リエゾン領域におけるコンサルテーションの実際	リエゾン精神看護およびがん・慢性疾患・感染領域におけるコンサルテーションの実際を紹介し、専門看護への応用的視点を理解する。			天賀谷隆 ゲストスピーカー: 加藤郁子
	12-13	がん・慢性疾患・感染領域におけるコンサルテーションの実際	リエゾン精神看護およびがん・慢性疾患・感染領域におけるコンサルテーションの実際を紹介し、専門看護への応用的視点を理解する。			天賀谷隆 岸田さな江
	14-15	各領域におけるコンサルテーション技法の活用と課題	各自の看護領域におけるコンサルテーション技法の活用及び課題についての発表し、討議をおこなう。 ==== 事前学習:発表する各領域の対応困難事例のレポートを作成する。			天賀谷隆 小西敏子
授業外における学習・時間	14-15 回目の講義に向けて、各領域の対応困難事例について討議するレポートを作成すること。授業外学習は、1~2 時間程度、配布資料を基に講義内容を整理すること。					1~2 時間
評価方法	講義への参加状況 (60%) とレポート (40%) で評価する。					
テキスト・参考書	E. H. シヤイン著: プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと。					
履修上の注意	講義形式の授業にも積極的に、討議に参加することを望む。 発表する各領域の対応困難事例は、A4 用紙 2 枚程度のレポートを作成する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー: 水曜日 12 時から 13 時</p> <p>Eメール: amagaya@dokkyomed.ac.jp</p> <p>研究室: 4 階研究室 30 にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	フィジカルアセスメント (Physical Assessment)		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	板倉朋世、杉木大輔、茂呂悦子、吉田弘毅		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義 20% (2 コマ)・演習 80% (13 コマ)		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306 教室		
科目概要	生理的および病態学的徴候に関する高度実践看護師の備えるべきフィジカルアセスメントの技能を効果的な学習法によって習得する。					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力に関する知識・技能・態度を修得するとともに、看護職者及び関連する多職者の中で専門的な役割を發揮し、教育的役割を担う指導能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	1. 呼吸器系の異常の有無がアセスメントできる。 2. 循環器系、腎臓機能、末梢血管の異常の有無がアセスメントできる。 3. 消化器系、泌尿器系、内分泌・代謝系の異常の有無がアセスメントできる。 4. 脳神経系・末梢神経系、骨・軟部組織の異常の有無がアセスメントできる。					
授業 内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	CNS の役割				板倉朋世 杉木大輔
	2	学習のガイダンス 前提テスト・事前テスト	シミュレーション学習のゴールと合格条件 学習要素 (学習方法と学習ツール) シミュレーション演習の学習目的 基本的なフィジカルアセスメント能力をチェックする。 模擬患者・シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント能力を診断する。 テスト結果に合わせて、学習者の学習目標を設定する。			杉木大輔 板倉朋世
	3・4	呼吸器系のアセスメント	シミュレーション学習			茂呂悦子
	5・6	循環器系、腎臓機能のアセスメント	シミュレーション学習			茂呂悦子
	7・8	消化器系、泌尿器系、内分泌・代謝系のアセスメント	シミュレーション学習			吉田弘毅
	9・10	脳神経系のアセスメント	シミュレーション学習			吉田弘毅
	11・12	内科疾患 (意識障害、呼吸器症状、循環器症状、腹部症状、腎・泌尿器症状) が疑われる患者のフィジカルアセスメント	シミュレーション学習			杉木大輔
	13・14	外傷患者のフィジカルアセスメント	シミュレーション学習			杉木大輔
	15	最終テストとフィードバック	課題シナリオに示された情報から異常を判断する論理式 (プログラム) を描く。 判断の根拠を明確にし、行動に移る。 推論した結果を SBAR で報告する。 CNS に必要なフィジカルアセスメントと自分自身のギャップについて記述する。			杉木大輔 板倉朋世
授業外における 学習・時間	初回授業までに基本的なフィジカルイグザミネーションをマスターしておくこと。 各回に学ぶ器官系統の病態に関する知識を復習しておくこと。				2 時間 各 1 時間	
評価方法	11-14 回で実施するシナリオの作成と臨床推論過程に関するレポート (30%) 最終試験は、提示されたシナリオに対する臨床推論過程とフィジカルイグザミネーションにより評価する。(70%)					
テキスト・参考書	適宜紹介する。					
履修上の注意	全授業に出席することを原則とする。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー : 16 時~18 時 メール (itakura@dokkyoumed.ac.jp) にて対応いたします。					

科目名	臨床看護病態生理学 clinical pathophysiology		科目区分	共通科目	単位数	2 単位
教員名	藤野彰子、栗生田友子、金子昌子、六角僚子、倉沢和宏、知花和行、上嶋 亨、辰元宗人		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	前期
科目概要	<p>病態生理学は人体の正常な機能が異常をきたしたり、調節機能が破綻することによる疾病のメカニズムと身体の状態を理解し、診断や治療に応用することを目的としている。</p> <p>本科目では、正常な臓器や組織・細胞の機能をもとに、疾病の発症から進行あるいは回復、さらに治療による病像の推移などを理解する。また、地域や臨床で遭遇する頻度の高い疾患の病態生理の理解とエビデンスに基づいたアセスメント能力を高めることによって、高度な看護実践のための基盤を築く。</p>					
授業目的	高度な病態生理の理解とエビデンスに基づいたアセスメント能力を高めることにより、専門看護師としての高度な実践能力を高める基礎を学修することを目的とする。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の病態を説明する。 2. 各疾患の検査と診断基準、症状と予後を説明する。 3. 各疾患の基本的な治療法の特徴を理解する。 4. 各疾患の課題と看護アプローチの可能性を探究する。 5. 授業に参加する領域の院生による事例を用いたグループワークを通して、エビデンスに基づいた看護アセスメント、看護診断能力を修得する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名		
	1	免疫学 (1)	基礎疾患の解説及び事例検討等	内科学 [リウマチ・膠原病]	倉沢和宏	
	2	免疫学 (2)	〃	内科学 [リウマチ・膠原病]	倉沢和宏	
	3	免疫学のまとめ	患者事例を用いたディスカッション形式の授業	内科学 [リウマチ・膠原病]	倉沢和宏	
	4	呼吸器疾患 (1)	基礎疾患の解説及び事例検討等	内科学 [呼吸器・アレルギー]	知花和行	
	5	呼吸器疾患・アレルギー疾患 (2)	〃	内科学 [呼吸器・アレルギー]	知花和行	
	6	呼吸器疾患のまとめ	患者事例を用いたディスカッション形式の授業	内科学 [呼吸器・アレルギー]	知花和行	
	7	循環器疾患 (1)	基礎疾患の解説及び事例検討等	内科学 [心臓・血管]	上嶋 亨	
	8	循環器疾患 (2)	〃	内科学 [心臓・血管]	上嶋 亨	
	9	循環器疾患のまとめ	患者事例を用いたディスカッション形式の授業	内科学 [心臓・血管]	上嶋 亨	
	10	消化器疾患 (1)	基礎疾患の解説及び事例検討等	内科学 [消化器] 教員		
	11	消化器疾患 (2)	〃	内科学 [消化器] 教員		
	12	消化器疾患のまとめ	患者事例を用いたディスカッション形式の授業	内科学 [消化器] 教員		
	13	神経疾患 (1)	基礎疾患の解説及び事例検討等	内科学 [神経]	辰元宗人	
	14	神経疾患 (2)	〃	内科学 [神経]	辰元宗人	
	15	神経疾患のまとめ	患者事例を用いたディスカッション形式の授業	内科学 [神経]	辰元宗人	
	16～ 18	まとめ	授業に参加領域の院生による事例を用いたグループ学習	藤野彰子、金子昌子、栗生田友子、六角僚子 他		
授業外における 学習・時間	患者事例を用いたディスカッションのための事例の準備 まとめの事例を用いたグループ学習のための事例の準備				1 コマ/30 分	
評価方法	出席状況と授業の参加度と事例を用いたグループ学習によって総合的に評価する。詳細については授業時に説明する。					
テキスト・参考書	適宜紹介する。					
履修上の注意	授業計画の 16～18 は CNS コース領域合同の授業とする。授業方法は後日別紙により告知する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：水曜日午後。適宜 fujino@dokkymed.ac.jp へ連絡ください。					

科目名・英名	臨床看護薬理学 Clinical Pharmacology for Nursing		科目区分	共通科目	単位数	2単位
教員名	内田幸介		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	N306 教室		
科目概要	<p>薬物は、生物が本来有している生体機能を促進するかあるいは抑制するかである。これは、薬理学の基本的概念であり、薬物療法における「薬によって、回復力を促進する」ことに繋がる考え方である。</p> <p>臨床看護薬理学では、体内薬物動態や病態生理に基づく薬物治療の科学的根拠および臨床応用について解説し、治療効果の評価や有害作用発現の機序についての理解を深める。</p> <p>さらに、主要病態における薬物動態の変化を解説し、薬物反応の変化、薬物相互作用、薬物中毒などに関する理解を深め、薬物使用の判断やアドヒアランスの向上を図るためのより高い専門知識を学修する。</p>					
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護」を実践するための知識・科学的思考を修得し、「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を培う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な薬物作用のしくみを解説できる。 2. 体内薬物動態、薬物相互作用、薬物中毒、アドヒアランスについて説明できる。 3. 主要病態における薬物治療の科学的根拠、治療効果、有害作用を説明できる。 4. 主要病態での薬物動態の変化を説明できる。 					
授業計画	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	薬理学序論・医薬品情報	生体に対する薬物の作用のしくみ（機序）について概説し、受容体理論と用量反応曲線について論ずる。			内田幸介
	2	体内薬物動態	臨床薬理学の基本となる生体内薬物処理機構（薬物の吸収・体内分布・代謝・排泄）と血中濃度との関係について解説する。			
	3	薬物相互作用・有害作用	特徴的な有害作用について解説し、多剤併用との関連について考察する。			
	4	病態薬理	主な病態における薬物の体内動態の特徴を解説し、薬理作用の変化について論ずる。			
	5	狭心症治療薬・高血圧治療薬	高血圧・虚血性心疾患の病態に基づき、治療薬の科学的根拠を解説する。			
	6	心不全治療薬	心不全の病態、急性心不全・慢性心不全の治療方針・治療目標について解説し、治療薬の理論的背景を論ずる。			
	7	呼吸器疾患治療薬（気管支喘息・COPD）	閉塞性肺疾患の病態に基づき、治療薬の科学的根拠、作用機序、治療薬の選択について解説する。			
	8	消化器作用薬（抗潰瘍薬・制吐薬・止瀉薬・瀉下薬）	消化器症状の背景となる病態について触れ、治療薬の科学的根拠、作用機序について解説する。			
	9	代謝性疾患治療薬（糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症）	各代謝障害とその弊害について概説し、治療薬の科学的根拠、治療方針・目標について論ずる。			
	10	化学療法薬概説（抗腫瘍薬・抗菌薬）	抗腫瘍薬・抗菌薬の主な種類と作用機序、適応、有害作用について概説する。			
	11	抗炎症薬（ステロイド・NSAID）	炎症のメカニズムについて概説し、ステロイドやNSAIDの作用機序、それぞれの適応症や特徴的な有害作用について論ずる。			
12	中枢作用薬（抗不安薬・催眠薬・パーキンソン病治療薬・アルツハイマー治療薬）	各疾患の神経病理学的背景を概説し、それぞれの治療薬の作用機序、有害作用、長期使用上の問題点について論ずる。				

	13	麻薬性鎮痛薬・疼痛管理	モルヒネを代表とするオピオイド鎮痛薬の基本的作用機序および多彩な薬理作用について論じ、臨床応用としての疼痛管理について解説する。	
	14	臨床薬理学演習（救急治療・シミュレーション体験）	主な救急医薬品に対する生体反応、ショックや心停止時の使用法、作用機序について考察する。	
	15	臨床薬理学演習（症例検討・ロールプレイ実習）	様々な合併症を有する症例における治療薬（処方薬）について検討し、相互作用や有害作用について考察する。	
授業外における学習・時間	事前に配布した資料および参考図書等に目を通し、次回の講義内容についての概要を理解しておくこと。			各1-2時間程度
評価方法	参加度（講義中の質疑応答による主体性・積極性）40%、 レポート提出2回（講義時に症例に関連した課題を提示）60%			
テキスト・参考図書	1. 日本臨床薬理学会 編：臨床薬理学，医学書院 2. 越前宏俊・鈴木 孝 編：薬物治療学，医学書院 3. 渡邊裕司 監訳：ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 原書3版，丸善出版 4. Ramachandran A, edited: Pharmacology Recall, 2 nd ed. Lippincott William & Wilkins			
履修上の注意	病態生理と連動させ、主体的・積極的に学修することを期待する。 提出されたレポートについては、講義時に各自に解説してもらい、質疑応答を行う。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：金曜日午後3時～4時 Email：k-uchida@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。			

科目名・英名	遺伝子診断と疾患の分子生物学 Molecular Biology of Genetic Diagnoses and Disorders		科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	藤澤隆一		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	種々の疾患の病理・病態を正確に捉えることは重要である。これらの疾患は近年の基礎・臨床医学の進歩により、病理・病態を分子レベルで理解することが肝要になっている。そこで本科目では、分子生物学の基礎知識を習得し、生体の構造や機能を規定している DNA に対する興味関心を養うとともに、疾患に関連した遺伝子の機能および遺伝子診断の原理や問題点について考究する。					
授業目的	看護学の基盤となる種々の疾患を分子生物学的に理解し、根拠に基づいた高度な看護実践の礎を学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の基本構造を説明できる。 2. 遺伝情報の伝達様式を説明できる。 3. 細胞間・細胞内情報伝達機構を説明できる。 4. 分子・遺伝子検査の原理について説明できる。 5. 分子・遺伝子診断の原理や問題点について説明できる。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	分子生物学序論	分子生物学の幕開けと遺伝子、遺伝子発現の中心教義			藤澤隆一
	2	分子細胞生物学	微生物遺伝子の基本構造、核酸・タンパク質の化学、生体膜の分子生物学、細胞内小器官・小胞輸送、情報伝達、細胞の増殖と分化の概要			
	3					
	4					
	5	DNA 診断法の基本原理	制限酵素地図、PCR、RFLP DNA 多型解析、			
	6	遺伝と遺伝子、遺伝疾患	遺伝の概念、ゲノム、遺伝形式、疾患、遺伝病の遺伝子検査			
	7	感染症、悪性腫瘍の遺伝子検査	がん関連遺伝子、腫瘍の発生機構、遺伝性腫瘍、がん抑制遺伝子、臨床遺伝子学的診察、診断			
8	まとめ	遺伝子診断と疾患の分子生物学の現状と未来				
授業外における学習・時間	講義の進行に合わせて、参考書や授業で配布する参考資料などを読んで復習すること。					1 コマ/30 分
評価方法	授業への参加度 (70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。					
テキスト・参考書	参考書：エッセンシャル細胞生物学 細胞の分子生物学 (中村、ほか) ニュートンプレス					
履修上の注意	履修生には積極的な授業参加を希望します。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<ol style="list-style-type: none"> ① 不明の点については、授業中及び講義終了直後などに積極的に質問してください。 ② 講義時間以外でも、随時受け付けます (オフィスアワー：月～金 16:30～18:00)。 ③ e-mail を用いた質問も可能です。具体的な手法について、初回の講義時に説明します。 					

科目名・英名	国際医療保健論 International health care and health promotion		科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	齋藤ゆみ、会沢紀子 (ゲストスピーカー)		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	後期
授業形態	講義		曜日時限	月曜日 2, 3 限		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>社会のグローバル化を背景として、災害や感染などの健康課題に関して国際的な対応が必要となる場面が増加している。本教科では特に国内外の自然災害や紛争、パンデミックな感染症発症の歴史的背景やWHOの機能と課題などの現実を学ぶ。授業の方法としては専門看護師として国際的にも役割機能を果たせる実践的な力を涵養するために、学生の討議形式による授業を展開する。</p>					
授業目的	専門看護師としての保健と疾病に関する国際的視野と現実的課題に関する実践力を涵養すること。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パンデミックな感染症の歴史を学習する。 2. 国内外での災害や感染の事例を学習する。 3. 国際的な感染症制御とWHOの役割について理解できる。 4. 国際看護における専門看護師としての機能が理解できる。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	授業ガイダンス	授業内容と方法の概説			齋藤ゆみ
	2	パンデミックな感染症発症の歴史	参考文献を用いて、人類における国際的なパンデミック事例を学ぶ。			
	3	パンデミックな感染症発症の歴史				
	4	国内外での災害や感染の事例	国内外での災害や感染症の発生事例から、その対策やグローバルヘルスの課題について学ぶ。			齋藤ゆみ (ゲストスピーカー) 会沢紀子
	5	国内外での災害や感染の事例				
	6	国際的な健康・保健の課題とWHOの役割	国際社会における健康や疾病、保健の課題などについてのWHOの機能と成果、今後の展望などを学ぶ。			齋藤ゆみ
	7	国際的な健康・保健の課題とWHOの役割				
8	学習成果の発表とまとめ	国際看護・保健における専門看護師の役割機能と課題、および今後の展望				
授業外における学習・時間	指定された参考書の事前学習および授業に必要な資料集めとしての主体的な文献検索					1 コマ/30 分
評価方法	授業への参加度、およびレポート内容で評価する。詳細については講義時に説明する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加藤重孝 (2013) 人類と感染症の歴史 丸善出版 2. 尾身 茂 (2011) WHO をゆく 医学書院 3. そのほか参考書として授業で紹介する。 					
履修上の注意	積極的な討論参加のために前もってテーマに関連する資料を読んでおくこと。					
質問への対応 (ワイヤール・Email)	月曜日午後					

科目名・英名	国際言語文化論入門（英語分野） ABC's of English Language and Linguistics		科目区分	共通科目	単位数	1 単位
教員名	藤澤隆一	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	後期	
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	国際化が進む現代に於いて、国内における外国人患者のケアおよび海外での医療協力活動異文化コミュニケーションに必要ななど、医療従事者にも英語の運用力が求められている。本科目では、国際共通語である英語を駆使し、外国に対して日本人と同様に看護に必要なコミュニケーションが出来る事を目的とする。そのためには英語表現のみならず、主に英米文化圏と日本の国民性、文化の相違、異文化コミュニケーションにおける誤解例などを通して、多様な価値観を理解し、豊かな教養を身につけてもらいたい。					
授業目的	英語圏で出版される看護学雑誌から、最新の知見や技術に関する情報を効率よく自分のものとして活用出来るコツを理解する。また、異文化コミュニケーションの向上により、総合的に看護ケアをマネジメントする一助とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場で必要とされる英語表現を学ぶ。 2. 診察に伴う英語によるコミュニケーション力を養う。 3. 症例・医療情報に関する英文を読解する英文法力を習得する。 4. 諸外国の文化背景を理解する。 5. 外国文化について学ぶことを通じて日本文化を再認識する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	Introduction to health care	配布資料に基づいて講義を展開する。 範囲・進度については担当教員が指示する。			藤澤隆一
	2	Nursing Skills and Professions				
	3	Hospital Setting				
	4	Community Setting				
	5	Reliable Web Sites for Nursing				
	6	Wellness				
	7	Dealing with Dementia				
	8	Disasters and Diseases				
授業外における学習・時間	講義の進行に合わせて、参考書や授業で配布する参考資料などを必ず復習すること。				1 コマ/30 分	
評価方法	授業への参加度（50%）、小テスト及びレポート（50%）で総合的に評価する。 レポート課題については授業時に提示する。					
テキスト・参考書	看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット ほか					
履修上の注意	課題文を正確に読むための英語表現、文法について学び、また、異文化や背景にある多様な価値観も学びます。また、英語で書かれた最新の看護・医療情報が読めるように、信頼できる海外の医療サイトを参照しながら学習します。従って、履修生には積極的な授業参加を希望します。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<ol style="list-style-type: none"> ① 不明の点については、授業中及び講義終了直後などに積極的に質問してください。 ② 講義時間以外でも、随時受け付けます（オフィスアワー：月～金 16:30～18:00）。 ③ e-mail を用いた質問も可能です。具体的な手法について、初回の講義時に説明します。 					

科目名・英名	基礎看護学特論 Fundamental care of Nursing		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	板倉朋世・齋藤ゆみ		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護の質の向上には、エビデンスに基づいた質の高い看護ケアの実践が不可欠である。</p> <p>本科目では、看護の基礎的概念や理論を理解し、それらの概念に基づいたさまざまな看護技術のエビデンスを検証するための方法論を学び、創造的で新たな技術開発の可能性について探求する。また、看護技術提供に潜む倫理的問題と配慮について考える。</p>					
授業目的	看護学の基盤となる学識を養い、看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基礎研究の現状とその動向について考察する。 2. 科学としての看護技術について考察する。 3. 看護技術のエビデンスについて具体的看護技術を取り上げ考察する。 4. エビデンスに基づいた看護技術開発の方法を検討する。 5. 看護技術提供に伴う倫理的問題・配慮について理解する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス・看護の基礎研究の変遷と現状				齋藤ゆみ
	2	看護の基礎理論と看護の方法論および技術開発の探求	(1) 心身関連の理論			
	3	看護の基礎理論と看護の方法論および技術開発の探求	(2) レジリエンス理論			
	4	看護の基礎理論と看護の方法論および技術開発の探求	(3) ストレス理論			
	5	看護技術のエビデンスの検証	(1) 身体と精神に働きかける援助技術			
	6	看護技術のエビデンスの検証	(2) 治癒力と生きる力を引き出す援助技術			
	7	看護技術のエビデンスの検証	(3) ストレスコーピング力を高める援助技術			
	8	看護技術のエビデンスと方法論および技術開発の探求	(4) 療養環境の快適性を高める技術① 臭気の特徴と評価方 法療養環境における臭気の問題 病院・病室の建築計画との関連 看護現場で実践できる臭気の評価方法について			板倉朋世
	9	看護技術のエビデンスと方法論および技術開発の探求	(5) 療養環境の快適性を高める技術② 臭気の制御方法 看護者が実践する臭気の制御 消臭臭機器を用いた臭気の制御			
	10	看護技術のエビデンスと方法論および技術開発の探求	(6) 療養環境の快適性を高める技術③ 空間認識と環境への働きかけ 療養空間の調整（プライバシー・テリトリー）における課題 病院・病室の建築計画との関連			
	11	看護技術のエビデンスの検証	(4) におい・かおりの評価方法、測定方法 療養空間の調整（かおり）における課題 アロマセラピー、芳香技術の実践			
	12	看護技術のエビデンスの検証	(5) 消臭臭技術と芳香技術 排泄ケアにおける臭気の制御			
	13	看護技術のエビデンスの検証	(6) 視環境と光環境の評価 療養空間の調整（光・色）における課題 高齢者の色の認識、光と睡眠・回復の関連			
14	看護技術提供時の看護倫理的問題への対応	看護ケア実践におけるジレンマについてディスカッ				

			ションし、解決方法についてレポートする。	
	15	まとめ	看護技術のエビデンスについてプレゼンテーションする。	
授業外における 学習・時間		毎回提示される課題について、文献学習、臨地での調査等を行い、プレゼンテーションできるように準備する。		各2時間
評価方法		授業準備 10%、プレゼンテーション 20%、討論での参加度と発言の適切性 20% レポート 50%で評価する。レポート課題については講義時に提示する。		
テキスト・参考書		<参考図書> 1. 菱沼典子, 小松浩子(2007) : Evidence-Based Nursing 看護実践の根拠を問う、南江堂. 2. 川島みどり(2002) : 看護技術と教育、勁草書房. 3. 小西恵美子 編(2007) : 看護倫理、南江堂. 4. 堀内哲嗣郎 著(2006) : においかおり 〈実践的な知識と技術〉, フレグランスジャーナル社. 5. においかおり環境協会編(2010) : 5訂版ハンドブック悪臭防止法, ぎょうせい. 6. 川口孝泰(1998) : ベッドまわりの環境学, 医学書院.		
履修上の注意		主体的学修を望む。		
質問への対応 (オフィス・Email)		オフィスアワー : 16時~18時 メール (itakura@dokkyoumed.ac.jp) にて対応いたします。		

科目名・英名	看護管理学特論 Advanced Nursing administration		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	山口久美子、後藤 勝		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	看護組織における看護サービスを質的に保証し、均質に提供するためには、看護業務の標準化を図り、変化する社会情勢や保健・医療・福祉における技術的变化や制度的変化に対応し、変革を繰り返し、継続的に業務の刷新を図る必要がある。 本科目では、組織が発展し機能するための看護マネジメントについて、看護管理の歴史の変遷と看護サービスに関連する保健医療制度、看護政策、マネジメントの概念や理論について学修し、マネジメント機能やマネジメント能力について探求する。					
授業目的	看護職者及び関連する多職者の中で専門的役割を發揮し、教育的役割を担う指導能力について、知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	1. 変貌する医療環境における看護管理の課題とマネジメントの重要性を明らかにする。 2. 組織と看護管理の関連を理解する。 3. 看護サービスの評価とマネジメントを理解する。 4. 看護職者のライフサイクルを視点に人材育成法を探る。 5. 看護管理における安全確保の方法を理解する。 6. 医療における看護の法的責任を明らかにする。 7. 看護現場で生じた問題を解決する技法を理解する。 8. 看護管理サービスと経済性を理解する。 9. 看護政策と看護管理の関係を理解し、改善のための方策を探る。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1-2	看護マネジメントの基本理論①	看護管理に必要な組織の概念と組織文化・組織倫理について理解する。			山口久美子
	3-4	看護マネジメントの基本理論②	目標管理について概説し、マネジメントに必要な変革やシステムに関する理論を理解する。			山口久美子 ゲストスピーカー
	5-6	看護サービス管理の質保証と評価・改善	看護サービス管理の特性、管理プロセス、看護サービスの質評価の枠組みを理解する。			山口久美子
	7・8	組織分析 (バランス・スコアカード: B S C)	医療経営における経営戦略の必要性和組織分析の手法を学ぶ。			
	9-13	診療報酬と経営	診療報酬の概要と看護マネジメントに求められる視点を理解する。			後藤 勝
	14・15	演習	それぞれが課題についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 ==== 事前学習: 発表する各領域の対応困難事例のレポートを作成する。			山口久美子
授業外における学習・時間	12-15 回目の講義に向けて、自らの課題について討議するレポートを作成すること。					1 コマ/30 分
評価方法	講義への出席状況、レポートの内容を考慮して総合的に評価を決定する。 講義への参加状況 (40%) レポート (60%)					
テキスト・参考書	1. American Nurses Association (2003) : Nursing's Social Policy Statement (2ed ed) , American Nurses Association. 2. 日本看護歴史学会 編: 日本の看護 120 年史 歴史をつくるあなたへ, 日本看護協会出版会. 3. E. J. Sullivan, P. J. Decker (2008) : Effective Leadership and Management In Nursing, (7th ed), Pearson Prentice Hall. 4. D. E. オレム(2005) : オレム看護論 看護実践における基本概念 (第4版) , 医学書院 5. 金井寿宏(1999) : 経営組織—経営学入門シリーズ, 日経文庫 6. 滝谷敬一: 見えない問題解決法, 日本経済新聞社 7. P. F. ドラッカー(2001) : マネジメント—基本と原則, ダイアモンド社					
履修上の注意	主体的な学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	1. 全体に関わる質問は講義時間に対応する。 2. オフィスアワーに研究室で対応する。 オフィスアワー: 水曜日 17:00~18:00 研究室 NO. 11 Email: yama-k@dokkyomed.ac.jp					

科目名・英名	生体防御・感染看護学特論Ⅱ（生体防御機能） Nursing care of body defense and Infection controlⅡ		科目区分	専門科目	単位数	2単位
教員名	藤澤隆一		必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>21世紀は“感染症時代の再来”といわれるように、感染症は診療科や専門分野を問わず、医療従事者に共通した問題である。感染症患者に対する医療や院内感染対策などにおいて看護職の果たす役割は大きく、学術的基盤の理解は重要である。</p> <p>本科目では、細菌、真菌、ウイルスといった病原微生物の生物学的特徴と感染経路、感染症の症候に関する基礎について学ぶ。また、感染症に対する生体防御反応（免疫）や免疫・抗菌薬療法の基礎を学び、感染症の診断、治療法の基礎についても理解する。</p>					
授業目的	感染症の原因となる微生物に関する最新の知見を習得し、根拠に基づいた高度な看護を実践する能力を育成する。また、院内感染やパンデミックとその対策について理解を深め、関連する多職者と連携・協力を調整し、その中で専門的役割を發揮する管理について学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の原因となる微生物の生物学的特性を理解する。 2. 感染の成立と宿主病原体関係について理解する。 3. 感染症に対する生体防御反応および、免疫・抗菌薬療法を理解する。 4. 院内感染を起こしやすい微生物と易感染宿主の特徴を理解する。 5. 感染症の症状・診断・治療のプロセスを理解する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	感染性病原体の生物学的特性Ⅰ	病原細菌学概論			藤澤隆一
	2	感染性病原体の生物学的特性Ⅱ	病原ウイルス学概論			
	3	感染性病原体の生物学的特性Ⅲ	真菌学、原虫学概論			
	4	感染と感染症	感染の成立にかかわる因子			
	5	感染源と感染経路	感染因子と感染伝播経路			
	6	感染制御の基礎	滅菌法・消毒法			
	7	生体防御反応の基礎：免疫学序論	自然免疫、獲得免疫概論			
	8	感染と生体防御機能Ⅰ	MHCⅠ・Ⅱ反応、トレランス			
	9	感染と生体防御機能Ⅱ	免疫記憶、ワクチン、アレルギー			
	10	易感染性と感染防御	免疫不全・移植と感染症、GVHD			
	11	感染症の診断法	感染症診断の基礎			
	12	感染症に対する化学療法	抗菌薬の特性と選択、TDM			
	13	薬剤耐性菌・院内感染の現状と対策	耐性化のメカニズムと主な耐性菌			
	14	症例から学ぶ感染症	感染症治療の症例分析			
15						
授業外における学習・時間	講義の進行に合わせて、参考書や授業で配布する参考資料などを読んで復習すること。					1コマ/30分
評価方法	授業への参加度50%、レポート50%で評価する。レポート課題については授業時に提示する。					
テキスト・参考書	<p>(参考書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Medical Microbiology (7th ed.), Murray, P.R. et al., Elsevier. 2. 戸田新細菌学 34版 南山堂 <p>(WWW)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国立感染症研究所（感染症、微生物に関する情報全般） http://www.nih.go.jp/niid/ja/index.html 2. FORTH：厚生労働省検疫所 HP（海外で流行している感染症に関する情報） http://www.forth.go.jp/index.html 3. 世界の医療情報（外務省・在外公館医務情報） http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html 4. 厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/ 5. 世界保健機関（WHO） http://www.who.int/en/ 6. アメリカ疾病予防センター（CDC） http://www.cdc.gov/ 					
履修上の注意	履修生には積極的な授業参加を希望します。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<ol style="list-style-type: none"> ① 不明の点については、授業中及び講義終了直後などに積極的に質問してください。 ② 講義時間以外でも、随時受け付けます（オフィスアワー：月～金 16:30～18:00）。 ③ e-mailを用いた質問も可能です。具体的な手法について、初回の講義時に説明します。 					

科目名・英名	シミュレーション教育論 Principle and methods of simulation-based education in healthcare	科目区分	専門科目	単位数	2単位
教員名	松島久雄、浅香えみ子、杉木大輔	共通科目	選択	開講年次	1・2年次
授業形態	講義・演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	N306教室		
科目概要	シミュレーション教育論では、おもにインストラクショナル・デザインの理論・モデルを用いて、看護基礎教育および看護職員研修を有益なものに改善するスキルについて演習を通じて修得する。				
授業目的	看護職者及び関連する多職者の中で専門的な役割を發揮し、教育的役割を担う指導能力及び創造的な実践を開発する研究能力を養い、シミュレーション教育に関する知識、技能を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者が担当する教育・研修成果をインストラクショナル・デザインの理論・モデルを用いて改善する。 2. 改善する作業・学習を通してインストラクショナル・デザインとその背景にあるサイエンスを学習する。 3. 教育・研修で使用する各種シミュレータの特徴を理解する。 4. シミュレーション教育の具体的手法について学習する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	オリエンテーション	演習課題の設定	松島久雄 12月4日(火) 2限目	
	2	教材作りをイメージする	教材の4条件・Plan-Do-See	浅香えみ子	
	3	教材の責任範囲を明らかにする	学習目標の明確化	12月11日	
	4	テストを作成する	相対評価と絶対評価	(火)	
	5	教材の構造を見きわめる	課題分析図	1～4限目	
	6	問題の同定とニーズ分析	目標、対象者、技術、実施等の分析	杉木大輔	
	7	研修の構造	構造化と系列化	12月19日	
	8	方略	学習支援の作戦	(水)	
	9	学習環境	メディアとサポート	1～4限目	
	10	シミュレータの基礎 (各種シミュレータについて)	シミュレータの特徴を理解し、教育・研修に取り入れる	松島久雄 12月20日	
	11	シミュレータの応用 (高機能シミュレータについて)	高機能シミュレータを活用した教育・研修を設計する	(木)	
	12	ファシリテーションの基礎	ファシリテーションスキルの理解	1～4限目	
	13	デブリーフィングの基礎	デブリーフィングの重要性と活用		
	14	課題発表	課題のプレゼンテーション	松島久雄	
15	課題評価	グループディスカッション	1月10日(木) 5～6限目		
授業外における学習・時間	インストラクショナル・デザインの基礎を理解するため、以下の参考書を読んでおく。			1コマ/30分	
評価方法	受講者が担当する、あるいは計画しているシミュレーション教育の課題を素材に、授業の学習成果を応用しながら教材としての完成度を高めていく。学習成果をどのように活用したかをプレゼンテーション・レポートとして具体的に示し、その内容を評価する。最終的には課題の完成度をどのように改善したかを含めプレゼンテーションし、教材の完成度を評価する。				
テキスト・参考書	鈴木克明「教材設計マニュアル」北大路書房、2002				
履修上の注意	全授業を通して各自検討した課題について、授業後の修正レポートとして提出すること				
質問への対応 (Webページ・Email)	E-mail m-hisao@dokkyomed.ac.jp				

科目名・英名	基盤・機能看護学演習 I (看護管理) Seminar in Nursing Administration I		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	山口久美子	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、現場における看護管理（リーダーシップ、マネジメント、看護管理者としてのあり方、診療報酬と部署運営、人材育成、看護提供体制、ベッドコントロールなど）に関する事例を対象とし検討する。</p>					
授業目的	高い倫理感に基づいた看護行動をとることができ、複雑な倫理的課題について対応できる調整能力を修得する。					
到達目標	現場で生じている看護管理上の問題を取り上げ、看護過程に沿って分析・評価し、事例の分析・評価方法を習得するとともに、自己の課題と看護管理上の課題を見出す。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				山口久美子
	2-3	看護看護学における看護管理判断に関わる事例分析の方法	看護過程に沿って、アセスメントや臨床判断に関わる分析方法を理解する。			
	4-5	研究のための文献検索	文献検索のおよび文献概観について学ぶ			
	6-59	関心領域の事例検討	<ol style="list-style-type: none"> 履修者は看護管理上の事例を取りまとめ、参加者全員で検討する。現場の出来事や事象を自分の言葉を使い文章化し、他者に理解できるように表現することにより不明瞭だったことや疑問を顕在化させる。事実やデータに基づきその現象が生じた真の原因を究明する。他者の事例を通して、自分の問題として学ぶことが個々の看護管理の問題解決に活かされることを期待する。 看護過程に基づく事例検討 <ol style="list-style-type: none"> 現象から課題を抽出 課題を分類整理（文献検索） 課題の目標 課題の方策 評価 プレゼンテーション、参加者と討論 自己課題の発表 			
60	総括	事例検討を通して、自己の研究課題を明瞭にする。				
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					
評価方法	提出事例の選択の妥当性 10%、看護過程の展開の妥当性 40%、討論の内容と適切性 20% 課題レポート 30%で評価する。（レポート課題については授業内で提示する。）					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 陣田泰子編集(2009)：看護現象学の方法と効果 いのちの学びのマネジメント, 医学書院 徳岡晃一郎, 舞田竜宣(2013)：MMB：「思い」のマネジメント実践ハンドブック, 東洋経済新報社 野中郁次郎, 紺野登 (2002)：知識経営のすすめ—ナレッジマネジメントとその時代, ちくま新書 225 他、学生の課題に応じて適宜紹介する。 					
履修上の注意	自己の看護管理の問題を言語化する。さらに看護管理の課題を、実践を通して確認する授業であるため、主体的・積極的に、教員を活用し、施設との調整を図り、学習計画を立案することが求められる。					
質問への対応 (オフィスワーカー・Email)	オフィスワーカー：水曜日 17:00~18:00 研究室N0.11 Email：yama-k@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	基盤・機能看護学演習 I (療養環境) Seminar in Medical treatment environment I		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	板倉朋世	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びについて討論などを通してさらに理解を深める。</p> <p>ここでは、療養環境における「におい」(排せに伴う尿臭・便臭、体臭、食事のにおい、アロマ等)の成分分析・特性・心身への影響、更には病状への影響に関するテーマを対象とし検討する。</p>					
授業目的	看護学の基盤となる学識を養い、最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	環境調整技術のエビデンスについて、現状と課題を明確にし、その検証方法を探求する。また、快適な療養環境創出に向けて、独創的で価値の高い研究実践を探求し、実験・調査研究を企画・実施・評価できる能力を修得する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス 療養環境調整に関わる研究の動向	本科目の進め方			板倉朋世
	2-4	看護実践における環境調整に関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 医療施設での調査により環境調整の課題を明らかにする。			
	5・6	環境調整に関わる介護・福祉機器に関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 介護・福祉機器メーカーでの調査			
	7-9	環境調整に関わる看護用具に関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 看護用品・介護用品メーカーでの調査			
	10	課題発表	第2回～9回の調査で明らかになった課題をプレゼンテーションする。			
	11-15	環境調整に関わる看護技術に関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 医療施設・高齢者施設での調査 看護実践に直接携わる看護師や管理者とのディスカッション			
	16-19	環境調整に関わる看護ケア、看護倫理に関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 医療施設・高齢者施設での調査 看護実践に直接携わる看護師や管理者とのディスカッション			
	20	課題発表	第11回～19回の調査で明らかになった課題をプレゼンテーションする。			
	21-25	医療施設、高齢者施設における療養環境のにおいに関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 医療施設・高齢者施設での調査 看護実践に直接携わる看護師や管理者とにおいの問題に関してディスカッションする。			
	26-29	在宅における療養環境のにおいに関する課題	フィールドワークによる課題の明確化 訪問看護・介護担当者への調査 看護実践に直接携わる訪問看護師や介護士とにおいの問題に関してディスカッションする。			
30	課題発表	第21回～29回の調査で明らかになった課題をプレゼンテーションする。				

	31-35	療養環境評価手法①	臭気の測定方法 前時までに明らかになった臭気に対する測定方法を検討し、測定を行う。	板倉朋世
	36-40	療養環境評価手法②	臭気の評価方法 前時までに明らかになった臭気に対する評価方法を検討し、評価を行う。	
	41-43	臭気の特徴	臭気分析結果から臭気の特徴について考察する。	
	44-46	臭気的心身への影響	臭気分析結果から臭気的心身への影響について考察する。	
	47-49	臭気の病状への影響	臭気分析結果から臭気有病への影響について考察する。	
	50-52	快適な療養環境創出に向けた技術開発①	臭気分析結果、臭気の特徴から消臭可能な技術を検討する。	
	53-55	快適な療養環境創出に向けた技術開発②	臭気分析結果、臭気の特徴から芳香による臭気低減技術を検討する。	
	56-59	快適な療養環境創出に向けた技術開発③	臭気分析結果、臭気の特徴から看護ケアによる臭気低減方法について検討する。	
	60	まとめ	演習結果についてのプレゼンテーションとレポート提出	
授業外における 学習・時間	毎回提示される課題について、文献学習およびフィールドワークを行い、プレゼンテーションできるように準備する。			各2時間
評価方法	提出事例の選択の妥当性10%、作成した資料の適切性30%、討論の内容20%、参加度20%、レポート20%で評価する。			
テキスト・参考書	<テキスト> 1. においかおり環境協会 編(2010):5訂版 ハンドブック悪臭防止法, ぎょうせい. 2. 川崎通昭, 堀内哲嗣郎 著(2005):嗅覚とにおい物質, 社団法人においかおり環境協会.			
履修上の注意	事例のまとめや検証のために、複数の施設を訪問し調査するが、主体的・積極的に演習に取り組むことを期待する。教員と連携して施設との調整を図り、学習計画を立案し実践することを期待する。			
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィスアワー: 16時~18時 メール (itakura@dokkyoumed.ac.jp) にて対応いたします。			

科目名・英名	基盤・機能看護学演習Ⅱ（看護管理） Seminar in Nursing AdministrationⅡ		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	山口久美子	必修・選択	選択	開講年次	1年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に解説するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が解説する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、現場における看護管理（リーダーシップ、マネジメント、看護管理者としてのあり方、診療報酬と部署運営、人材育成、看護提供体制、ベッドコントロールなど）に関する事例を対象とし検討する。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に必要な知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	看護管理に関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造や書き方を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				山口久美子
	2-30	研究論文のクリティークに必要な基礎知識	研究論文のクリティークに必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。			
	31-50	文献講読の内容と方法	<ol style="list-style-type: none"> 履修者の関心に沿って、看護管理に関する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。 			
	51-59	学会への参加	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。（2～3回程度）			
	60	まとめ	クリティークを通して、自己の研究課題を明らかにする。			
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。（レポート課題については授業内で提示する。）					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> D. F. ポーリット&C. T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 高木廣文 他：看護研究の読み方・進め方 中山書店 <p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood 著：Basic step in planning nursing research (4th ed), Jones and Bartlett. P. Benner, P. L. Hooper 他；井上智子 監訳：看護ケアの臨床知 医学書院。 <p>その他、適宜授業内に紹介する。</p>					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<ol style="list-style-type: none"> 全体に関わる質問は講義時間に対応する。 メール、FAX、電話等に対応する。 <p>オフィスアワー：水曜日 17：00～18：00 研究室NO.11 Email：yama-k@dokkyomed.ac.jp</p>					

科目名・英名	基盤・機能看護学演習Ⅱ（療養環境） Seminar in Medical treatment environmentⅡ		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	板倉朋世		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できること、②その領域やテーマに関する最新の知見を得ること、③研究テーマを見いだすこと、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目では、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、療養環境における「におい」（排泄に伴う尿臭・便臭、体臭、食事のにおい、アロマ等）の成分分析・特性・心身への影響、更には病状への影響に関するテーマを対象とし検討する。</p>					
授業目的	看護学の基盤となる学識を養い、最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力に関する知識・技能・態度を修得する。また、看護減少を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	環境調整技術に関する国内外の文献講読を通して、最新の知見を得るとともに、文献の読解・クリティークの方法、研究課題の焦点化やデータ収集・分析の方法について理解する。また、環境調整技術の現状と課題について、その検証方法を実践し、快適な療養環境創出に関する独創的な手法の開発できる能力を修得する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の進め方 文献検索とクリティーク 文献カードの作成			板倉朋世
	2-5	国内における環境調整技術に関する現状と課題	文献の購読とクリティーク プレゼンテーションとディスカッション			
	6-10	海外における療養環境の問題	海外文献の購読とクリティーク プレゼンテーションとディスカッション			
	11	課題発表	第10回までのクリティークの結果から、国内と海外における療養環境の問題を比較しプレゼンテーションする。			
	12・13	医療施設における療養環境の課題①	文献購読から明らかになった医療施設における療養環境の課題を調査する。 調査施設の選定と依頼			
	14	医療施設における療養環境の課題②	調査に必要な準備をすすめる。			
	15-18	医療施設における療養環境の課題③	実態調査の実施			
	19	調査結果のまとめ	調査結果をまとめる。			
	20	調査結果の発表	調査結果の発表とレポート提出			
	21・22	高齢者施設における療養環境の課題①	文献購読から明らかになった高齢者施設における療養環境の課題を調査する。 調査施設の選定と依頼			
	23	高齢者施設における療養環境の課題② 調査準備	調査に必要な準備をすすめる。			
	24-27	高齢者施設における療養環境の課題③ 実態調査	実態調査の実施			
	28	調査結果のまとめ	調査結果をまとめる。			
	29	調査結果の発表	調査結果の発表とレポート提出			
	30・31	在宅における療養環境の課題① 調査場所の選定と依頼	文献購読から明らかになった在宅における療養環境の課題を調査する。 調査施設の選定と依頼			
	32	在宅における療養環境の課題② 調査準備	調査に必要な準備をすすめる。			
33-36	在宅における療養環境の課題③ 実態調査	実態調査の実施				

	37	調査結果のまとめ	調査結果をまとめる。	板倉朋世
	38	調査結果の発表	調査結果の発表とレポート提出	
	39・40	医療施設・高齢者施設・在宅における療養環境の実態報告	医療施設・高齢者施設・在宅における療養環境の実態を報告し、最も問題となっていること、解決を必要としていることを明らかにする。	
	41-45	快適な療養環境創出にむけた実験的検証①	消臭技術の適用 消臭技術に関する演習（大同大学）	
	46-50	快適な療養環境創出にむけた実験的検証②	芳香技術の適用 芳香技術に関する演習（大同大学）	
	51-55	快適な療養環境創出にむけた実験的検証③	ケア技術の適用 看護技術の検討	
	56-58	実験結果のデータ分析・考察	調査データ・分析データのまとめ	
	59	実験結果の発表	実験結果の発表	
	60	まとめ		
授業外における 学習・時間	消臭技術・芳香技術に関する学習			各2時間
評価方法	提出した事例(20%)、作成した資料(20%)、討論の内容(30%)、演習への参加度(30%)で評価する。			
テキスト・参考書	1. 川崎通昭、堀内哲嗣郎 (2005) : 嗅覚とにおい物質、社団法人におい・かおり環境協会。 2. ポーリット, D. F, ベック, C. T, 近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院。			
履修上の注意	主体的学修を望む。			
質問への対応 (ワイズワ-・Email)	オフィスアワー : 16時~18時 メール (itakura@dokkyomed.ac.jp) にて対応いたします。			

科目名・英名	女性健康看護学特論 Advanced topics in Women's Health Nursing	科目区分	専門科目	単位数	2単位
教員名	島田三恵子	必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
				開講学期	前期
授業形態	講義・演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、性と生殖に関する女性の健康と人権について探求する。また、女性のQOLにおけるライフサイクル各期の健康支援にむけて、効果的な女性の健康支援と支援のために必要な能力、および看護専門職の役割について探求する。				
授業目的	女性保健および母子保健に関する国内外の最新の知見を広く学習し、科学的根拠や問題の原因と解決策について論議、考察する。その結果を、今後の研究、女性の健康支援、および望ましい妊娠・出産・育児ケアの実践に繋げる能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの理念と歴史的背景と世界的潮流を理解し、その視点から女性の健康をとらえる。 2. 性と生殖に関連する概念や理論を理解し、性差を考慮した看護課題について探求する。 3. 海外および我が国におけるウィメンズヘルスの課題を理解する。 4. 女性の健康支援のための基礎理論を理解する。 5. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康との関連要因について理解する。 6. 取り上げた論文から、女性の健康、妊娠・出産・育児ケアの実践に役立つ新しい知見を紹介できる。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	オリエンテーション セクシャリティ		島田三恵子	
	2	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	WHO, ICM 文書から見る世界的な動向		
	3	海外および我が国におけるウィメンズヘルス	国内外の女性の健康に関する課題		
	4	女性および母子の健康支援のための基礎理論			
	5	女性・母子の健康支援のサービスの仕組みや政策	関連資料のプレゼンと討議		
	6	ライフサイクルにおける女性の健康1 思春期	関連文献・資料のプレゼンと討議		
	7	ライフサイクルにおける女性の健康2 成熟期	同上		
	8	ライフサイクルにおける女性の健康3 更年期	同上		
	9	ライフサイクルにおける女性の健康4 老年期	同上		
	10	ライフサイクルにおける女性の健康5 メンタルヘルス	同上		
	11	マタニティサイクルにおける母子の健康1 妊娠期	関連文献・資料のプレゼンと討議		
	12	マタニティサイクルにおける母子の健康2 分娩期	同上		
	13	マタニティサイクルにおける母子の健康3 産褥期	同上		
	14	女性の健康支援のための看護専門職の役割			
15	まとめ				
授業外における学習・時間	各自が関心のあるユニットを担当し、国内外の関連資料・文献を選択して予習して、発表の2週間前にゼミ参加者に配布し、学習目標に沿った事前学習の資料を全員が作成して出席すること。			1コマ/30分	
評価方法	参加度(授業への主体性と積極性) 30% 課題レポート(理解度とレポート内容及び完成度) 70%				
テキスト・参考書	(参考書) 1. Steven R. Cummings, 木原正博監訳: 医学的研究のデザイン、メディカルサイエンス・インターナショナル2004. 2. 石井京子、他: ナースのための質問紙調査とデータ分析、医学書院2002. 3. 久米美代子他(2007): ウーマンズヘルス—女性のライフステージとヘルスケア、医歯薬出版. その他、参考文献および資料を適宜提示する。				
履修上の注意	ゼミ形式で行う。第1回のゼミで、各学生が関心のある論文を選択して発表する順番・日程を決定する。2回目以降は隔週に2コマ続きで授業を行う予定。				
質問への対応(ワイヤー・Email)	授業時に提示する。				

科目名・英名	小児看護学特論 Child and Family Nursing		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	井上 ひとみ		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	この科目では、子どもと家族の健康な成長・発達と健康及び健康障害を支援するために、子どもの人権擁護と生涯発達の視点に立ち、子どもの成長・発達、子どもと家族に関する基盤となる理論を学修する。また、子供と家族が生活している、自然環境、社会・文化的な環境とそれらの変化に応じて生じる健康課題を探究する。					
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力」をもって、子どもと家族の成長発達と健康障害を支援することができるように、基本的能力を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども観の変遷と子どもの人権の擁護について理解する。 2. 子どもの成長発達に必要な育児支援の前提となる育児観に関する多様な視点を理解する。 3. 子どもと家族を理解する視点として、子どもの心理社会的発達、親子関係に関する理論を理解する。 4. Life-Span Development の視点から、子どもと子どもを育てる家族を理解する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族を理解するための学修の進め方について、学習者の学修経験などをふまえ、個々の学習計画を立てる。 ・生涯発達の視点（発達過程・発達段階）、看護学に影響をもつ心理学・教育学・社会学等の主な理論や概念意義について等、書籍や情報アクセスの方法等を紹介する。 			井上ひとみ
	2～6	<ol style="list-style-type: none"> ①子ども観の変遷と子どもの人権 ②母性という神話および育児言説 ③家族に関する諸理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・管轄領域によって異なる子どもの定義を整理する ・子ども観は（西洋諸国/我が国）、当該時代の社会的背景や思想・哲学に影響され変遷してきたことを基盤に、子どもの人権・小児看護における子どもにとっての最善の利益について考える。 ・育児支援を行う基盤として、看護者の育児観が問われる。「母性」「3 歳児神話」「ジェンダー」をキーワードに、育児言説 childrearing discourse が、人々の思考や行為を明示的・暗示的に統制する作用について考える（フーコーの言説論・バーンステインの教育言説論、批判的言説分析の例で説明する）。 家族の定義と多様な家族、家族に関する諸理論、小児の家族（ケース検討）について考える。 			
	7～11	③子どもと家族を理解するために必要な心理・社会的理論	<ul style="list-style-type: none"> ・自我の発達・発達課題（フロイト、エリクソン、ハビーガースト） ・親子関係の理論（ボウルビィ、マラー、ウィニコット、ボーエン、ミニューチン等） ・認知発達理論（ピアジェ、ビゴツキー、バンデューラなど） ・心の理論（サイモン・バロン・コーエン） 			
	12～14	④Life-Span Development（小児期）について	A Topical Approach to Life-Span Development を精読する。読み進める過程で、各 life-span において、取り上げられた研究と理論を検討し、深める。			
15	統括				討議	

授業外における 学習・時間	各テーマについては、各自自分なりに調べて講義に臨む。John W. Santrock, A Topical Approach to Life-Span Development, を精読して、参加する。毎回、講義前に1時間の予習は必要である。	1コマ/1時間
評価方法	レポート80% (紹介した図書より2冊選び、クリティカル・リーディングし、各レポートを15回終了までに提出する)、講義時間内のディスカッション20%により評価する。レポート提出期限は、15回目の講義終了後1週間以内とする。	
参考書	① 子どもの誕生 (アリエス) ②子どもの社会化 (T. パーソンス) ③母子関係入門 (ボウルビー) ④心の理論 (サイモン・バロン・コーエン) ⑤子ども相談の実際 (井原成男) ⑥母性という神話 (エリザベス・バダンテール) ⑦育児言説の社会学 (天童睦子) ⑧しつけの社会学 (柴野昌山) ⑨変わる家族変わる食卓 (岩村暢子) ⑩保護と遺棄の子ども史 (沢山美果子) ⑪家族看護学 (第2版)、小島操子、中央法規、2016	
教員から学生へのメッセージ	紹介する参考書は、研究室13にて、閲覧できます。開講期間中にできるだけ読んで、子どもに関し、多角的な視点による知識と思考を修めてください。(貸出ノートに記載し、読後返却してください。)	
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：月～金 12時10分～13時 Email:hitomi-i@dokkyomed.ac.jpにて対応いたします。	

科目名・英名	慢性看護学特論 I (セルフケアの再獲得) Advanced Lecture of Chronic Illness and Conditions Nursing I (Regaining Self-Care)	科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	粟生田友子、西村 ユミ	必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目では、内部障害あるいは外部障害を抱えながら、社会復帰する慢性疾患患者を支援するために、セルフケアを再獲得しなければならない個人・家族の心身の特徴と健康や生活に及ぼす影響の理解と支援に有効な概念と理論を学修する。</p> <p>具体的には、障害を抱えている慢性疾患患者を理解するための哲学的視座をふまえ、生活機能の視点で障害を理解・支援する ICF (International Classification of Functioning, Disability, and Health) モデル、ノーマライゼーションやリハビリテーションなどの基本概念の理解を深める。また、障がい者の体験を理解し、その人らしい生き方を探索する。さらに、行動理論を援用し、新たなセルフケアの再獲得について創造的に探求する。</p>				
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力」をもって障害のある人のセルフケアの再獲得を支援することができる基礎的能力を培う。				
到達目標	<p>病者や障がい者を理解する哲学的視点を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICFモデルと内部障害・外部障害を理解する。 2. 中途障がい者の体験を理解する。 3. 中途障がい者とその家族のQOLを高める行動理論を用いたアプローチを理解する。 4. 中途障がい者の支援に伴う倫理的問題を理解する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1・2	慢性病者や障がい者を理解するための哲学的視点	・現象学の立場から慢性病者をどのように理解するかについて学修する。	西村ユミ	
	3	ICFと内部障がい・外部障がい	・ICF モデルに立脚した慢性病者・障がい者を理解しノーマライゼーションを実現するために、身体機能に加え、生活機能を視野に治療・ケアを含めた人的・物的環境の整備の意義について学修する。	粟生田友子	
	4-5	内部障がい者の体験:クローン病者を対象とした研究成果を通して 内部障がい者の体験:神経難病病者を対象とした研究成果を通して 外部障がい者の体験:脳卒中患者を対象とした研究成果を通して	・内部障がい者、外部障がい者の体験を学修する。		
	6	スティグマとレジリエンス、そして障がいとの共存へ	・慢性病者の体験を学修する。		
	7	ノーマライゼーションとリハビリテーション看護	・ノーマライゼーションを実現するために、身体機能に加え、生活機能を視野に治療・ケアを含めた人的・物的環境の整備の意義について学修する。		
	8	セルフケアの再獲得①: 栄養、清潔	・慢性病者のセルフケアに関する看護支援について学修する。		
	9	セルフケアの再獲得②: 排泄、可動性と不動	・慢性病者のセルフケアに関する看護支援について学修する。		
	10	セルフケアの形成と維持①—行動分析を援用した脳卒中患者へのアプローチ	・慢性病者の理解に向けた看護理論を学修する。		
	11	セルフケアの形成と維持②—行動分析を援用した腎透析患者の運動の習慣化	・慢性病者の理解に向けた看護理論を学修する。		
	12	セルフケアの形成と維持③—行動分析を援用した腎透析患者の運動の習慣化	・慢性病者の理解に向けた看護理論を学修する。		
	13	中途障がい者とその家族のケアニーズと支援	・慢性病者や中途障がい者の家族が直面する問題を理解し、援助課題を探求する。		

授業 内容	14	中途障がい者とその家族への支援に伴う倫理的課題	・慢性病者や中途障がい者の家族が直面する問題を理解し、援助課題を探求する。	粟生田友子
	15	中途障がい者に対する高度レベルの看護実践の探求	・慢性病者への高度な看護実践力の習得と看護師として自己成長するために役立つ省察的实践について学修する。	
授業外における 学習・時間	障害の概念と障がいのある人の生活を支援するために必要となる基本的な概念について、授業の前に事前学習をして臨むこと。授業ごとに1時間程度を確保する。			1コマ/1時間程度
評価方法	プレゼンテーション、レジュメ、参加態度、最終レポートを各25%で評価する。 レポート課題については授業時に提示する。			
テキスト・参考書	1. ARN, 奥宮暁子 監訳(2005) : リハビリテーション看護の実践 概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム, 日本看護協会出版会. 2. Malott, RW et al, 杉山尚子 他 訳(1998) : 行動分析入門, 産業図書. 3. Alberto, PA et al., 佐久間徹 他 訳(2004) : はじめての応用行動分析, 二瓶社.			
履修上の注意	履修者は、共通科目の「行動理論」を履修することが望ましい。			
質問への対応 (Webサイト・Email)	オフィスアワー : 12時~13時 E-mail : aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。			

科目名・英名	慢性看護学特論Ⅱ (セルフマネジメント) Advanced Lecture of Chronic Illness and Conditions Nursing Ⅱ (Self-management)		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	栗生田友子、西村ユミ		必修・選択	選択	開講年次	1・2年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	慢性疾患が個人とその家族の健康や生活に及ぼす影響と、それに対する個人の反応、療養行動特性の理解及び看護に有用な理論と概念について学修し、これらを踏まえセルフマネジメントの視点から慢性疾患患者への援助方法について探求する。					
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力」をもって障害のある人のセルフマネージメントを支援することができる基礎的能力を培う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患と生きる個人とその家族を理解する上で基盤となる哲学及び概念を理解する。 慢性疾患患者の体験を理解する。 セルフマネジメントを支える諸理論を理解する。 慢性疾患患者のセルフマネジメントを推進する看護方法について探求する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1・2	病むことの哲学的理解	現象学的視点から、患者を見る視点を学修する。			西村ユミ
	3・4・5	慢性疾患患者の体験理解	糖尿病看護の研究成果 慢性呼吸不全看護の研究成果 慢性腎不全看護の研究成果			栗生田友子
	6・7・8	慢性疾患と生きる個人を理解する上で基盤となる概念	病み軌跡、コンプライアンス・アドヒアランス、セルフケア、保健信念モデル			
	9.10.11	セルフマネジメントを支える諸理論	自己効力感、エンパワーメント、ソーシャルサポート			
	12	成人教育	成人学習の概念、慢性疾患患者の看護への応用			
	13・14・15	セルフマネジメントを推進する看護方法	コミュニケーション理論 生活者としての対象者理解 症状マネジメント			
授業外における学習・時間	障害の概念と障がいのある人の生活を支援するために必要となる基本的な概念について授業の前に事前学習をして臨むこと。授業ごとに1時間程度を確保する。					1コマ/1時間程度
評価方法	プレゼンテーション40%、討論への参加度(積極性)10%、レポート50%で評価する。 レポート課題については授業時に提示する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> アンセルム・ストラウス(1987)：慢性疾患を生きる，医学書院 ピエール・ウグ(1995)：慢性疾患の病みの軌跡，医学書院 アイリーン・モロフ・ラブキン，パラマDラーセン(2007)：クロニックイルネス，医学書院 ジェイムス・オー・プロチャスカ 他(2005)：チェンジング・フォー・グッド―ステージ変容理論で上手に行動を変える，法研 アーロン・アントノフスキー(2001)：健康の謎を解く―ストレス対処と健康保持のメカニズム，有信堂高文社 ドナルド・A・ショーン(2003)：省察的実践とは何か―プロフェッショナルの行為と思考，鳳書房 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：12時～13時 E-mail：aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	がん終末期看護特論 End of Life Care for Cancer Patients		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	小西敏子・藤野彰子		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	がん終末期患者およびその家族の抱える苦痛や症状を緩和するために、緩和ケアにおける諸理論・諸概念と最近の研究動向を学び、患者と家族のQOL を高めていくための看護支援の方法論を探求する。具体的には、がん終末期患者と家族が抱えるトータルペインに対する苦痛緩和の技術、患者が満足感を抱きながら自分らしく生き抜くことができるための看護を探求する。さらに、ギアチェンジ期以降の患者が緩和ケアを受ける状況で、複雑で困難な問題を抱える患者と家族への支援方法、患者と家族の生きる希望を支え、QOL を維持・向上するための看護ならびに実践に応用する方法を探求する。これらを踏まえて、がん終末期看護の独自の役割を開拓していく能力を育成する。					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた看護実践力を養うため、がん終末期患者およびその家族の抱える苦痛や症状を緩和し、患者と家族のQOL を高めていくための看護支援の方法論を探求する。					
到達目標	1. 最新のがん終末期看護に関わる高度な知識と技術の現状と課題、がん終末期看護に適用される概念・理論について理解を深める。 2. 講義、プレゼンテーションや討議などを通して苦痛緩和のための技術を学び、患者およびその家族を支援するためのがん終末期看護について探求する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	がん終末期看護に関わる現状と課題、がん終末期看護に適用される概念・理論について				藤野彰子
	2～3	ストレスコーピングの理解と活用	ストレスに関する概念 ストレス・対処理論（ラザルス、フォルクマン） 看護実践への理論の活用			藤野彰子 小西敏子
	4～5	危機理論の理解と活用	危機理論とは 危機理論モデルとは キャプランの危機理論 アギュララとメズニックの危機介入理論 看護実践へのモデルや理論の活用			藤野彰子 小西敏子
	6～7	ケアリングの理解と活用	メイヤロフのケアの基本となるもの ローチのケアの要素 ワトソンのケアリング理論 看護実践への理論の応用と活用			藤野彰子 小西敏子
	8～9	悲嘆と喪失の理解と活用	悲嘆とは ウォールデン、ニューマイヤーの悲嘆の理論 パークス、リンデルマンの遺族のグリーフワーク 看護実践への理論の活用			藤野彰子 小西敏子
	10～11	がん終末期看護を展開するために必要な患者と家族への支援	終末期の体験の理解、がん終末期患者の生き抜くことへの意味を見出すことに向けた支援について			小西敏子
	12～13	緩和ケアにおける看護支援方法	症状管理・援助技術について 死別後の家族の理解と悲嘆理論の実践への適用に関する検討			小西敏子
	14～15	現在のがん終末期看護の実践を変革するための具体的方策の探求				藤野彰子
授業外における学習・時間	各授業のテーマに沿って、授業でのプレゼンテーションの準備を行う。					1 コマ/30 分
評価方法	①授業全般に関わる参加度（10%） ②プレゼンテーション（20%） ③討論での発言の適切性(20%) ④課題レポート（50%）（講義の中で提示する。）					
テキスト・参考書	1.佐藤栄子(2009)中範囲理論入門,日総研出版. 2.R.Twycross & A.Wilcock 武田文和監訳(2010)：がん患者の症状マネジメント.第2版,医学書院					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスワーカー・Email)	質問への対応は、授業日(水、木曜日)の17時から18時 もしくはEメール(小西：konishit@dokkyomed.ac.jp、藤野：fujino@dokkyomed.ac.jp)にて対応する。					

科目名・英名	老年看護学特論Ⅰ（老年病看護学） Advanced Lecture of Gerontological Nursing I		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	金子昌子		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義・演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>わが国の超高齢化社会及び医療の高度化が急速に進展する中、入院患者の大半が老年者である現状をふまえて、成人の延長線上とは異なる老年患者の特徴を理解し、QOLを考慮した看護方法や支援システムを確立することが急務である。</p> <p>本科目では、入院治療を受ける老年者の加齢と疾病・治療による生体反応と身体・心理・社会的変化による生活反応を理解し、入院中に生じやすい、せん妄や寝たきり状態に陥退する肺炎、転倒骨折などの二次障害を予防し、回復を促進する急性期からのリハビリテーション看護アプローチについて探求する。また、老年患者が入院している病棟管理とスタッフ教育について考究する。</p>					
授業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院治療を受ける老年者の加齢と疾病・治療による生体反応と身体・心理・社会的変化による生活反応を学修する。 2. 入院中に生じやすい、せん妄や寝たきり状態に陥退する肺炎、転倒骨折などの二次障害を予防し、回復を促進する急性期からのリハビリテーション看護アプローチについて探求する。 3. 老年患者が入院している病棟管理とスタッフ教育について考究する。 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に関する知識を深め、老年者の健康と健康を評価する概念や理論を理解する。 2. 急性・回復期にある老年者の健康障害に関する知識を深め、治療や健康障害が老年者の生活・精神機能に及ぼす影響を理解する。 3. 急性・回復期にある老年者の、生命と生活の質を保証する援助方法を理解する。 4. 老年者や急性・回復期看護の概念や理論をふまえ、老年看護学について探求する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業概要と展開方法を説明し、授業計画を学生と共に立案する。			金子昌子
	2	高齢者看護学の変遷と課題	加齢に関する概念と老年看護学に関する概念			
	3	加齢のアセスメント	老年者の健康の定義と老年者総合機能評価			
	4	治療を必要とする高齢者のアセスメント	入院治療に伴う老年者の生活・精神機能のアセスメントと看護ケア			
	5.6	治療を必要とする高齢者に特徴的な看護上の問題	老年者総合機能評価：急性混乱・せん妄の診断と薬物療法			
	7.8	活動の制限による二次障害のアセスメント	入院治療に伴う二次障害のアセスメントと二次障害の予防的看護			
	9.10. 11.12	【在宅・施設療養老年者と社会保障制度】 老年急性・回復期看護管理（1）安全管理	クリティカルケアを受ける高齢者と家族の事例検討：同一事例を持ちより事例を展開し、看護ケアに関するディスカッションを行うと共に、ケアのエビデンスを説明する。 病院内・施設内で発生するインシデントに着目し、その発生要因を個人的要因と環境的要因から検討し、インシデントを予防する対策について探究する。			
	13.14. 15.	老年急性・回復期看護管理（2）スタッフ教育	コンフォート理論を通して、老年看護学における看護師の役割を考察する。			
	15	まとめ	学修成果をプレゼンテーションする。			
授業外における学習・時間	加齢について復習しておく。さらに高齢者の身体機能・能力評価に関する様々な方法を学修しておく。				1 コマ/30 分	
評価方法	授業参加度：自主学習・発言・質問など(30%) レポート：単元終了後の課題に関するレポート(50%) 科目終了後の課題に関するレポート(20%)					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鳥羽研二 編集(2010)：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版。 2. Lazarus RS、本間寛 監訳(2004)：ストレスと情動の心理学—ナティブの研究の視点から—実務教育出版。 3. 深井喜代子：ケア技術のエビデンスⅠ・Ⅱ，へるす出版。 4. 竹中晃：身体活動とメンタルヘルス，大隆創書店。 					
履修上の注意	質問はメール・オフィスアワーで対応する。					
質問への対応 (ウェブサイト・Email)	オフィスアワー：原則として毎週水曜 12 時 10 分～13 時 E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	老年看護学特論Ⅱ（認知症高齢者看護） Advanced Lecture of Gerontological Nursing II (Nursing for Older People with Dementia)		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	丸井 明美	必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次	
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	認知症は超高齢社会であるわが国の大きな健康問題のひとつで、認知症の人と家族への支援方法の確立と普及、支援システムの確立が急がれている。本科目では、疾患としての認知症と認知症を病む人を、専門知識に加えて患者自身や家族の手記、ケア理論等を用いて広く理解を深める。また、その人を尊重した認知症高齢者と家族への支援について学修し、認知症を病む人と家族の支援についての課題を展望する。					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症と認知症ケアの基本的な考え方を理解する。 2. 認知症の人の体験を文献を通して理解する。 3. 認知症の非薬物療法、予防的介入について理解する。 4. 生活の場に合わせた認知症高齢者を尊重した支援について学修する。 5. 認知症ケアにかかわる倫理的課題について学修する。 6. 認知症高齢者と家族への看護と研究の今後の課題について考察できる。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	認知症、認知症ケアの基礎的理解	認知症の疫学、症状、診断、治療、また社会的な健康問題としての認知症、認知症ケアの基本的な考え方について学修する。			丸井明美
	2	認知症の人の理解	文献を読んで、認知症の人を「人」として理解していくために必要な人間についての見方について議論する。			
	3	認知症の人と家族の体験の理解	手記や研究論文から、認知症の人と家族の体験を理解する。			
	4-5	認知症高齢者を尊重したケア提供のための理論	これまでの経験事例の振り返りをプレゼンテーションし、その人を尊重したケア提供、パーソンセンタードケアの理解を深める。			
	6-7	周辺症状の理解とケア	周辺症状の生じる要因と対応困難な症状への対応を学習し、生活環境を整える視点を経験事例を基に検討する。			
	8-9	認知症の非薬物療法、認知症の予防的介入とその効果	回想法、リアリティオリエンテーション、バリデーションセラピーについて、履修者の関心のある非薬物療法についてプレゼンテーションし議論する。			
	10-11	認知症高齢者の家族への支援	研究論文の抄読と討論により、認知症高齢者の家族への支援について学修する。			
	12-13	進行した認知症高齢者と家族への支援	研究論文の抄読と討論により、進行した認知症高齢者の家族への支援について学修する。			
14-15	認知症高齢者と家族への看護の倫理的課題と今後の課題	研究論文の抄読と討論により、認知症高齢者の家族への看護の倫理的課題と今後の研究の課題について学修する。				
授業外における学習・時間	各授業におけるプレゼンテーションの準備				1 コマ/30 分	
評価方法	授業への参加状況、各回の課題への取り組み (50%)、プレゼンテーション (10%) 課題レポート (40%)					
テキスト・参考書	<p>参考書</p> <p>中島 紀恵子編著 (2013) : 新版認知症の人々の看護・医歯薬出版.</p> <p>服部英幸編 (2012) : BPSD 初期対応ガイドライン. ライフ・サイエンス.</p> <p>トム・キットウッド (1997). 認知症のパーソンセンタードケア. 筒井書房.</p> <p>Souren L. & Franssen E. (2003). アルツハイマー病—患者の世界—. じほう.</p> <p>クリスティーン・ボーデン (1998). 私はだれになっていくの?アルツハイマー病者からみた世界. クリエイトかもがわ.</p> <p>小沢勲 (2003) 痴呆を生きるということ. 岩波新書.</p> <p>他適宜提示する。</p>					
履修上の注意	積極的にプレゼンテーションし、討議へ参加することを望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー：水曜日 12：00～13：00</p> <p>E-mail：marui@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	老年施設看護特論 Lecture of the nursing in elderly person facilities		科目区分	専門科目	単位数	1 単位
教員名	金子昌子		必修・選択	選択	開講年次	1.2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
授業目的	保健・医療・福祉チームの中で看護の役割を実践するために、施設における課題を取り上げ、解決方法を学ぶ。					
科目概要	我が国の保健医療福祉システムの中で、高齢者は健康問題によって自宅を離れざるを得なくなり、生活の場を変えながら最期の時を迎える者も増えている。高齢者の QOL を尊重した継続的な支援のために、看護職には生活の場のひとつである施設ケアの理解と、施設間あるいは他職種との連携・協働の能力が求められる。 本科目では長期ケア施設における看護、専門職種間連携についての理解と課題解決のための研究について文献の抄読、討議を通して学修する。					
到達目標	1. 我が国の高齢者保健医療システムと高齢者の生活、施設の果たしている役割を理解する。 2. 施設高齢者の抱える健康課題と施設ケアの現状について理解する。 3. 高齢者を介護する家族と家族への支援について理解する。 4. 研究論文の検討から施設ケア、施設看護にかかわる研究の知見、研究課題について理解する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	高齢者保健医療福祉システムの現状と課題	高齢者の健康と生活を支える保健医療システムの現状の理解を深め、高齢者施設ケアの課題について討議する。			金子昌子
	2	施設看護の現状と課題	施設で生活する高齢者の健康課題および特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の看護の現状について文献を用いて理解を深め、高齢者の QOL の視点から施設看護について討議する。			
	3	施設で生活する高齢者の重要な健康課題: 認知症	認知症の人と家族について論文や闘病記から理解を深め、認知症の人への生活支援、家族への支援について討議する。			
	4	高齢者の家族支援	家族の介護負担や認知症者の家族の受容段階を論文や闘病記から理解を深め、家族への支援について討議する。			
	5	施設で生活する高齢者の安全管理: 転倒予防	高齢者の転倒予防を例に、高齢者の尊厳が守られた安全管理について理解を深め、管理的視点を含めた予防策と看護の役割を討議する。			
	6	他職種との連携・協働と高齢者の QOL	施設ケアでの他職種との連携・協働、医療機関や在宅ケアの職種との連携について、文献等を用いて理解を深め、高齢者の QOL の維持・向上にむけた連携・協働について討議する。			
	7	施設の運営とケアの質保証: 認知症高齢者グループホームを例に	施設運営、ケアの質向上にむけた取り組みについての現状と課題について理解を深め、高齢者の生活を支える施設の在り方について、討議する。			ゲストスピーカー 佐藤利弘
	8	施設で生活する高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	エンド・オブ・ライフ・ケアについて学修し、高齢者の人生の最後の時の過ごし方、最期の迎え方について、看護職の役割やケアを含めて討議する。			金子昌子
授業外における学習・時間					1 コマ/30 分	
評価方法	授業への参加状況、各回の課題への取り組み (50%)、プレゼンテーション (30%) 課題レポート (20%) レポート課題は授業内で提示する。					
テキスト・参考書	関連文献をその都度提示する。					
履修上の注意	積極的にプレゼンテーションし、討議へ参加することを望む。					
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィスアワー: 原則として毎週水曜 12 時 10 分～13 時 E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	地域看護学特論 Advanced Lecture of Community Health Nursing		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	板垣昭代		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>地域住民全体あるいは特定集団を対象に、健康の維持増進、疾病予防、組織づくりに焦点をあてた公衆衛生看護活動に主眼をおき、授業を展開する。</p> <p>具体的には、個人・家族、集団、地域全体を対象にしたヘルスケアニーズの分析・診断方法やケアシステムの構築を含む具体的な支援方法等、地域看護を構成する基本概念や理論を学修する。</p> <p>また、それらの特徴的な活動方法・技術を明確にすることにより、地域で生活する人々の健康を守るためのしくみづくりにかかわる看護職の専門性について探求するとともに、実践活動の質の向上と、その活動を担う看護職の専門的能力の向上を図る。</p>					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた地域看護の実践能力を有するための手法を学ぶ。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護学の基本概念と理論を理解する。 2. 個人および家族のヘルスケアニーズの分析・診断に基づいた効果的な支援方法を検討する。 3. 特定集団、地域のヘルスケアニーズの分析・診断に基づいた効果的な支援方法を検討する。 4. 地域看護学で特徴的な活動技術について実践例を通して探求する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	オリエンテーション	授業の進め方			板垣昭代
	2-3	地域看護活動関連事項	地域看護活動に関連した保健医療福祉の動向と現状 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション			板垣昭代 (ゲストスピーカー)
	4	個人及び家族へのケア	①概念、理論			板垣昭代
	5	個人及び家族へのケア	②支援方法			
	6	個人及び家族へのケア	③支援方法の実際			板垣昭代 (ゲストスピーカー)
	7	グループへのケア	グループ支援の理論と方法論			
	8	地域へのケア	地域へのケアに関する概念、理論			板垣昭代
	9-10	地域(集団)診断の理論と方法論	①情報収集の方法			
			②情報の分析			
	11	地域(集団)診断	地域(集団)診断に基づく活動展開(計画立案・実施・評価)			板垣昭代 (ゲストスピーカー)
	12	地域(集団)診断	地域(集団)診断に基づく地域看護活動の実際			
	13	地域ケアシステム	地域ケアシステムの構築			
	14	地域看護管理	地域看護管理に関する概念、理論、方法論			
	15	まとめ	地域看護学の今後の課題とまとめ			
時間外学習における学習・時間	毎回の授業につき3時間の学習を要する。					1 コマ/3 時間
評価方法	プレゼンテーションの適切な準備、実施評価 40%、ディスカッションへの参加度評価 30%、レポート評価 30%とする。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Karen Saucier Lundy, Sharyn Janes (2005) : Community Health Nursing - Caring for the Public's Health, Janes and Bartlett Publishers. 2. エリザベス・T・アンダーソン, ジュディ・マクファーレン, 金川克子, 早川和夫 監訳 (2007) : コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際(第2版), 医学書院. 3. 平野かよ子, 尾崎米厚 編集(2001) : 事例から学ぶ保健活動の評価, 医学書院. <p>その他、授業中、随時紹介する。</p>					
履修上の注意	質問はメール・オフィスアワーで対応する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー : 12 時~13 時 (水曜日)</p> <p>Email : itagaki@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	在宅看護学特論 Advanced Lecture of Home Care Nursing		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	六角僚子、種市ひろみ、熊倉みつ子、鮎澤みどり		必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次
					開講学期	前期
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>この科目では、在宅看護について学び、わが国の訪問看護の現状を看護実践、倫理的課題、ステーションの管理運営などから俯瞰し、諸外国における在宅看護を理解し、今後の在宅看護のあり方について展望する。</p> <p>主には、我が国における在宅看護の歴史と、訪問看護師に求められる専門的能力について、在宅での看取りを取り上げ教授する。また、諸外国との訪問看護の比較を通して、我が国における特徴と課題を理解するために、オーストラリアの訪問看護に関する実態及び課題についても教授する。</p> <p>更に、在宅看護に関する制度や現状を概観し、在宅看護における課題と今後を展望する。</p>					
授業目的	在宅看護領域における看護現象を科学的に分析・評価するため、関連項目である変遷や制度、海外の動向、今後の展望を理解する。					
到達目標	<p>1. わが国の在宅看護の歴史を学び、諸外国の在宅看護との比較の中でその特性を理解する。</p> <p>2. わが国の保健医療福祉制度とその活用実態を理解する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	わが国の在宅看護の変遷	<p>以下の 3 期に大別してわが国の訪問看護の歴史を講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治以降の訪問看護の歴史 ・1970 年代から訪問看護が制度化されるまでの流れ ・2000 年の介護保険法他の在宅療養支援制度の成立と整備状況 			六角 僚子 種市ひろみ
	2 ・ 3	訪問看護師に必要な能力	在宅療養者と家族にとって、身近な医療職として活動できるために、対象を生活者としてとらえ、生活の視点から療養を支援する総合力、観察力、アセスメント力、コミュニケーション能力、調整力等について講義する。			
	4	在宅看護における倫理的課題・対応 (1)	倫理的課題をもつ事例を提示し、対応策について検討する。			
	5	在宅看護における倫理的課題・対応 (2)	学生の考えた対応策を発表し、教員を交えて、討議する。			
	6	在宅看護に関する保健医療福祉制度	2025 年を目標に国の目指す「地域包括ケアシステム」の構築について、その基本理念と地域に期待される役割(システムの構築と運営) について講義する。在宅看護に関連する保健医療福祉制度が、対象別に分断されていることや、医療と福祉の 2 本立てになっている現況の問題について討議する。			ゲストスピーカー 角田 直枝
	7・8	海外における訪問看護サービスの 実態と課題	オーストラリアにおける在宅看護実践のシステムと看護実践			六角 僚子 種市ひろみ
	9	わが国における訪問看護制度の 現状と課題 (1)	医療保険等と介護保険の訪問看護制度、ステーションからの訪問看護と医療機関が行う訪問看護、看護職とその他の職種の提供するケア、ヘルパーステーションとの協働等について講義する。			六角 僚子 種市ひろみ
	10	わが国における訪問看護制度の 現状と課題 (2)	上記の課題について、学生の体験から感じている課題について発表し、教員を交えて討議する。			
	11・12	訪問看護ステーションの管理・運営	訪問看護ステーションの設立・運営の実践者の立場から、事業計画・予算管理・人事管理・看護サービスの質保証・情報管理の実際について講義する。			鮎澤みどり
	13	在宅看護の展望 (1)	認知症患者の在宅療養支援 メモリークリニックを通して、在宅における認知症患者と家族の支援について講義する。			六角 僚子
	14	在宅看護の展望 (2)	難病患者の在宅療養支援			熊倉みつ子

			在宅療養を続ける神経難病患者と家族対象に展開した事例を紹介し、地域の多職種連携と、生きる意欲への支援について講義する。	熊倉みつ子
	15	在宅看護の展望 (3)	独居がん終末期患者の看取りの事例を紹介し、在宅における終末期支援の可能性について、討議し、本科目のまとめとする。	熊倉みつ子 六角 僚子
授業外における 学習・時間	在宅看護に関する文献より、レポートを作成する。			1コマ 60～90分
評価方法	授業への参加度（授業準備・積極性）50%、授業中の取り組みや態度 30%、レポート 20%（レポート課題については授業時に提示する）			
テキスト・参考書	特定のテキストは使用しないが、参考文献および資料は適宜指示する。			
履修上の注意	ゼミ形式で行う。主体的な取り組みを期待する。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：9～12時（水曜日） E-mail rrokkaku@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。			

科目名・英名	精神看護学特論 mental health - psychiatric nursing		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	天賀谷 隆	必修・選択	選択	開講年次	1・2 年次	
授業形態	講義	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	精神保健医療における障がい者の生活に関連する事柄を専門的知識や理論を用いて総合的にアセスメントする。看護が障がい者の療養や在宅の生活に与える影響を理解し、問題解決に向けた適切な障がい者支援のための技能を習得することができるようにする。また精神保健医療の現状を踏まえ、精神保健医療施策や支援システムにおける看護の在り方を探求する。					
授業目的	精神保健医療福祉に関する最新の知見と、根拠に基づいた高度な技術を修得する。					
到達目標	1. 精神看護実践の基盤となる理論を理解する。 2. 精神保健医療福祉制度について理解を深める。 3. DSM に基づき、主な精神疾患の診断と病態について理解する。 4. 困難例について、問題解決法を用いて改善策を明らかにする。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			天賀谷隆
	1	ガイダンス				
	2	精神看護理論①	トラベルビーの看護論を紹介し、人間関係の前提となる基本的な考えを理解する。			
	3	精神看護理論②	人間関係の看護論（ペプロウ）を紹介し、患者－看護師関係の前提となる基本的な考えを理解する。			
	4	精神看護理論③	セルフケアの看護論（オレム・アンダーウッド）を紹介し、セルフケアモデルを用いた看護過程の応用的視点を理解する。			
	5	精神看護理論④	精神分析（フロイト）、成長発達理論（エリクソン）を紹介し、成長発達の前提となる基本的な考えを理解する。			
	6	集団心理と集団行動	集団における心理について概観し、集団行動の前提となる基本的な考えを理解する。			
	7	精神疾患の診断と病態① DSM	精神障害の診断を紹介し、精神看護への応用的視点を理解する。			
	8	精神疾患の診断と病態② 依存	依存について概観し、人間関係の病理の前提となる基本的な考えを理解する。			
	9	精神保健医療の現状と課題① 法制度と歴史的変遷	精神保健福祉法の変遷について概観し、精神医療の課題への応用的視点を理解する。			
	10	精神保健医療の現状と課題②	精神医療の診療報酬について概観し、精神医療の課題への応用的視点を理解する。			
	11	精神保健医療の現状と課題③	地域移行、地域包括的ケアについて精神医療の課題への応用的視点を理解する。			
12-15	演習	それぞれが課題についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 ==== 事前学習：発表する各領域の対応困難事例のレポートを作成する。				
授業外における学習・時間	12-15 回目の講義に向けて、自らの課題について討議するレポートを作成すること。 授業外学習は、1～2 時間程度、配布資料を基に講義内容を整理すること。				1～2 時間	
評価方法	講義への出席状況、レポートの内容を考慮して総合的に評価を決定する。 講義への参加状況（60%） レポート（40%）					
テキスト・参考書	適宜提示する。					
履修上の注意	講義形式の授業にも積極的に、討議に参加することを望む。 発表する各領域の対応困難事例は、A4 用紙 2 枚程度のレポートを作成する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー： 水曜日 12 時から 13 時 Eメール： amagaya@dokkyomed.ac.jp 研究室： 4 階研究室 30 にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習 I (母性看護学) Seminar on Practical Nursing I (Women's health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	島田三恵子		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における臨床研究の主要な意義は、特定の現象をエビデンスに基づいて深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、実践で体験した技法を経験知として深め、このエビデンスを探求しながら定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、臨床疑問を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。学外の研究会や病棟などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。この科目では、女性の健康、母子ケアに関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	臨床疑問を解決する自己教育力を養うことを目的とし、エビデンスの検索と纏め方を獲得する。					
到達目標	<p>1. 各自が体験した実践例を取り上げ、臨床疑問(Clinical Question)を PICO に記述し、それに関するエビデンスを検索して纏め、文献検討・レビューを行う。</p> <p>2. この成果を実践にどのように活かせるかディスカッションを行い、残る疑問・課題は何かを明確にし、研究課題(Research Question)につなげる。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業目標、展開方法を説明する。学生と共に授業計画を立案する。			島田三恵子
	2-30	実践事例の分析・評価に基づく老年急性期看護上の課題のまとめ	各自が順番に事例を持ちより、分析する。 事例は、自分の経験した事例とする。特に印象的な事例や疑問が残ったままの事例など、気になる事例を取り上げる。			
	31-57	臨床疑問を PICO に記述し、それに関するエビデンスを検索して纏める。	まとめたエビデンスの文献レビューを発表する。 文献レビューの発表内容から実践にどのように活かせるか、残る疑問は何かをディスカッションする。			
	58-60	まとめ	自己の関心や課題をプレゼンテーションする。			
授業外における学習・時間	各自が実践上、エビデンスが不明であったり、疑問に思っていたことに関する国内外の論文を検索して、纏める。学習目標に沿った事前学習の資料を全員が作成して出席すること。				1 コマ/30 分	
評価方法	提授業準備・予習 40%、プレゼンテーション・レポート 20%、授業への参加度 (ディスカッション・積極性) 40%、により評価する。					
テキスト・参考書	<p>参考書</p> <p>1. D. F. ポーリット&C. T. ベック ; 近藤潤子監訳 (2010) : 看護研究 原理と方法 第 2 版 医学書院</p> <p>2. Pamela J. Brink , Marilyn J. Wood 著 : Basic step in planning nursing research (4th ed), Jone and Bartlett.</p> <p>3. 山川みやえ・牧本清子 : よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会。</p> <p>他、個々の課題にあった文献を紹介する。</p>					
履修上の注意	自己の看護の体験を言語化する。さらに母性看護・助産の課題を、実践を通して議論する授業であるため、主体的・積極的に、学習計画を立案することが求められる。					
質問への対応 (ワイザー・Email)	授業時に提示する。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（小児看護学） Seminar on Practical Nursing I (Child and Family Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	井上ひとみ		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	この科目では、子どもと家族の支援に必要な、①子どもの成長発達・家族のアセスメント、②育児支援、③社会・文化的環境・家族の中で育つ子どもの心と体の問題、④子どもの健康障害のトピックとその支援について学修する。					
授業目的	子どもの成長・発達と家族のアセスメントや育児声援の演習を通して、「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」および、「高い倫理観に基づいた看護行動をとることができ、複雑な倫理的課題に対応できる調整能力」を獲得する。また、小児看護において重要な『未熟児新生児の蘇生及び小児の発達評価』の技術演習を通し、「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力」を学修する。					
到達目標	② 子どもと家族のアセスメントを適切なツールを使い実施できるようになる。 ② 新生児・未熟児救急蘇生術について、述べることができる。 ③ 子どもと家族を取り巻く社会問題の所在について関心を持つことができる。 ④ 育児支援に必要な気になる子どもの問題やその対応について理解できる。 ⑤ 主な子どもの健康障害のトピックとその支援を理解することができる。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				井上ひとみ
	2-5	小児のヘルスアセスメント	乳児期、幼児期（前期・後期）、学童期、思春期各期のフィジカル・アセスメント、発育の評価を行う。 (テキスト、DVD 視聴)			井上ひとみ
	6-16	小児の発達の評価	発達評価のツールを紹介する。 ブラゼルトン新生児行動評価 プレヒテルの神経機能評価 AIMS アルバータ乳幼児運動発達検査法 子どもの発達検査（デンバー発達検査Ⅱ、K 式発達検査）			井上ひとみ
	17-20	母子相互作用の場面から子どもの CUE を評価する	親子の相互作用～食事と遊びを中心として子どもの非言語的 CUE を理解する。			井上ひとみ
	21-22	新生児・未熟児救急蘇生術	新生児・未熟児の事例をアセスメントする。救急蘇生の技術演習を行う。			井上ひとみ ゲストスピーカー (小西美樹)
	23-28	気になる子どもの支援	子どもの気になる問題について（相談事例）考える。 母乳と断乳、添い寝、抱っこ 飲み込めない子、嘔まない子 遊ばない子、遊べない子 赤ちゃん返り 嘔みつき、乱暴 指しゃぶり、性器いじり等			井上ひとみ
	29-35	子どもの社会問題	①子どもの貧困（国内外の現状と健康障害） ②子どもの性的アイデンティティの発達と問題（ジェンダー、セクシュアリティ、LGBT） ③児童虐待と児童虐待としての DV			井上ひとみ
	36-40	子どもの健康障害	①食生活の問題 食事摂取の偏り（好き嫌い）、欠食、孤食 ②睡眠の問題			井上ひとみ

			睡眠の習慣（体内時計の変調、早寝早起き） 睡眠と環境（夜間のブライトライト、ブルーライトの暴露） 睡眠障害（夜泣き、夜驚症、夜尿症、睡眠時無呼吸症候群等） ③齲歯予防（歯磨き、食習慣） ④視力	
	41-42	小児アレルギーの看護	アレルギー疾患（食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、小児喘息等）を有する子どもと家族が、発達に応じてセルフケアができるように、アレルギーエジュケーターとしての看護の役割や機能を教授する。	井上ひとみ ゲストスピーカー （玉村尚子）
	43-48	小児がん	現在の小児がんの動向 小児がん経験者のQOLを支援すること。 晩期障害小児がんと家族	井上ひとみ
	49-55	発達障害 摂食障害	①自閉症スペクトラムに視点を当て、早期支援（早期発見、早期療育）（について学修する。 ②思春期の心身の問題として、摂食障害（痩せ症、過食症）について学修する。	井上ひとみ
	56-59	家族・子ども・死	子どもの死の概念発達 子どもの死による家族の悲嘆 （子どもを亡くした家族の会「つぼみ」に参加し、家族の体験を聴くことを含む。）	井上ひとみ
	60	まとめ		井上ひとみ
授業外における 学習・時間	DVDの視聴（デンバーII、子どものcue、ブレヒテルの神経機能評価、きみが僕の息子について教えてくれたこと）			1コマ/30分
評価方法	プレゼンテーションおよびその資料（30%）・ディスカッション（30%）・シミュレーション演習（40%）			
テキスト・参考書	①こどものフィジカル・アセスメント、小野田千恵子・土井まつ子金剛出版、2004 ②ブラゼルトン新生児行動評価 3版、T. B. Brazelton（穂山富太郎川崎千里訳）医歯薬出版、1999 ③乳幼児健診マニュアル第5版、福岡地区医師会 乳幼児保健委員会、医学書院、2015 ④デュボヴィッツ新生児神経学的評価法、Lily MS Dubowitz、医歯薬出版株式会社、2015 ⑤乳幼児の運動発達検査（AIMS）、Marthe C. Piper、医歯薬出版株式会社、2010 ⑥デンバーII発達検査法、社団法人日本小児保健協会（テキスト・DVD） ⑦発達相談と新版K式発達検査―子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫 大島剛、明石書店、2013 ⑧小児アレルギーエデュケーターテキスト基礎編、日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会、診断と治療社、2013 ⑨自閉症の僕が跳びはねる理由～会話のできない中学生がつづる内なる心～、東田直樹、エスコアール、2007 ⑩気になる子どものサポート、小沢道子・榊澤尚代、医学書院、1999 ⑪種をまく子どもたち、佐藤律子、ポプラ社			
履修上の注意	主な子どもの評価を講義で紹介する。各自、テキストで復習し、併せて、授業時間外にDVDを視聴し、理解する。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：月～金 12時10分～13時 Email: hitomi-i@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。			

科目名・英名	実践看護学演習 I (セルフケアの再獲得) Seminar on Practical Nursing I (Regaining Self-Care)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	粟生田友子、熊倉みづ子		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、障がいを抱える慢性疾患患者の看護に関するテーマを取り上げ検討を行う。</p>					
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力」を培うために、実践の中からセルフケアの再獲得に関する自己の課題を見出し、ケアのエビデンスを明確にし、ケアを評価し、新たなケアを構築する。					
到達目標	慢性疾患患者やリハビリテーションを必要とする患者を対象に、事例を通して、セルフケア状態のアセスメントおよびセルフケアの再獲得における促進・阻害要因を明らかにし、対象者がもっている対処能力を有効に引き出す支援方法を探求する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1-2	オリエンテーション	看護実践と事例分析			粟生田友子
	3-4	検討事例の作成方法	検討事例の作成方法について学修する			
	5-6	検討事例の分析・評価方法	検討事例の分析・評価方法について学修する			
	7-10	障がいをもつ患者の障がいの受容と支援 (脳卒中患者の事例)	(1) 衝撃状態にある患者 (2) 拒否状態にある患者 (3) 絶望状態にある患者 (4) 承認状態にある患者			
	11-12	障がいの受容	内部障がいとその他の障がいの違い(クローン病者と脊髄損傷者)			
	13-14	障がいの受容	本人と家族 (脳卒中患者事例)			
	15-17	障がいの受容と発達段階	青年期、壮年期、向老期の違い			
	18	価値転換が困難な事例	青年期にある脊髄損傷者			
	19	予後不良な慢性疾患患者と延命の選択	ALS 患者の事例			熊倉みづ子
	20-21	寛解と増悪を繰り返す慢性疾患患者の病との共存 (ノーマライゼーション)	MS(多発性硬化症)患者事例 <一部ゲストスピーカー: MS 患者>			粟生田友子
	22-26	障がいの程度・種類が患者及び家族へ及ぼす影響	脳卒中患者の事例 (失語症、理解力低下、意欲低下、片麻痺、排せつ障がい)			
	27-28	セルフケアの獲得が困難な患者と支援	脳卒中後ADL獲得困難な事例			
	29-30	セルフケアの維持が困難な患者と支援	獲得したADLの維持困難脳卒中患者			
	31-32	ADLの獲得・維持と家族の協力 (介護との問題)	脳卒中患者の事例			
	33-34	積極的リハビリテーション期における活動と休息のバランス	脳卒中患者の事例			
	35-40	セルフケア行動形成・維持の事例	行動分析理論を援用した腎透析患者の運動能改善事例:理論と実践			
	41-50	履修生からの事例提供・プレゼンテーションし、討論から事例について分析検討する。	①家族の協力を得るのが困難な事例 ②障がい者と患者会など2、3事例			
	51-59	フィールドワーク	関連事例の病棟検討会、地域連携部門での活動、患者会、フィールド活動への参加を計画する。			
	60	まとめ				

授業外における 学習・時間	臨床実践における課題達成のために、探究に必要な時間を各自が確保する。授業ごとに1時間程度を確保する。	1コマ/1時間程度
評価方法	提出事例の妥当性 10%、作成した資料の適切性 30%、討論の内容 20%、参加度(積極性)20%、レポート 20%で評価する。レポート課題については授業時に提示する。	
テキスト・参考書	1.水野節夫(2000):事例分析への挑戦、東晋堂. 2.中村隆一編(2002):臨床運動学、医歯薬出版株式会社. 3.Shirley P. Hoeman(2007): Rehabilitation Nursing: Prevention, Intervention, and Outcomes (REHABILITATION NURSING: PROCESS & APPLICATION), Mosby. 4.Rebecca Jester(2007): Advancing Practice in Rehabilitation Nursing, Wiley-Blackwell.	
履修上の注意	分析する事例は履修者自身の実践を取り上げた方が望ましい。	
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー: 12時~13時 E-mail: aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。	

科目名・英名	実践看護学演習 I (がん看護学) Seminar on Practical Nursing I (Cancer Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	藤野彰子	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見出す。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>この科目では、がん看護（特に緩和ケア、終末期看護）に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	がん看護に関する看護実践事例をとおして、事例の分析、評価方法を習得するとともに、自己の課題を見出すことを目的とする。					
到達目標	がんの治療過程における、苦痛症状及び苦悩を緩和するための身体的、精神的、社会的、霊的に側面に関して、看護実践事例を取り上げ、分析・評価する。この過程をとおして、事例の分析・評価方法を修得するとともに、自己の課題とがん看護上の課題を見出す。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				藤野彰子
	2-5	がん看護学における臨床判断に関わる事例分析の方法	自らの経験のなかから、臨床判断に関わる事例をまとめプレゼンする。			
	6-9	がん患者の苦痛症状のアセスメント及びマネジメントの事例分析	自らの経験のなかから、苦痛症状のアセスメント及びマネジメントの事例をまとめプレゼンする。			
	10-13	がん治療をうける患者が体験する有害事象とその看護に関する事例分析	自らの経験のなかから、がん治療をうける患者が体験する有害事象に関する事例をまとめプレゼンする。			
	14-17	がん患者の生存の意味、及び霊的な苦痛の緩和に関する事例分析	自らの経験のなかからがん患者の生存の意味、及び霊的な苦痛の緩和に関する事例をまとめプレゼンする。			
	18-33	がん患者とその家族に対する援助過程(悲嘆と喪失)に関する事例分析	自らの経験のなかからがん患者とその家族に対する援助過程(悲嘆と喪失)に関する事例をまとめプレゼンする。			
	34-37	実践事例の分析・評価に基づくがん看護上の課題のまとめ	事例分析から得られた知見を統合し、がん看護上の課題を考察する。			
	38-45	終末期看護ケアシステム(緩和ケア病棟、緩和ケアチーム)に関する事例分析	自らの経験のなかから、関わる事例をまとめプレゼンする。			
	46-53	がん患者の意思決定支援と倫理的ジレンマに関する事例分析	自らの経験のなかからがん患者の意思決定支援と倫理的ジレンマに関する、臨床判断に関わる事例をまとめプレゼンする。			
	54-57	実践への参加と成果の報告	履修者の事例検討から導かれた関心や課題を、フィールド活動や研究会等へ参加し、その成果を確認・報告する。			
58-60	まとめ	がん看護上の課題と自己の課題について討議する。				
授業外における学習・時間	自らの体験の中から主題毎に事例をまとめる。自らの関心のあるテーマに関する実践の場を探すこと。					1 コマ/30 分
評価方法	提出事例の選択の妥当性 10%、看護過程の展開の妥当性 40%、討論の内容と適切性 20%、事例レポート 30%で評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 黒田裕子: よくわかる中範囲理論第2版、学研、2015. C. アギュララ/小松源助他訳: 危機介入の理論と実際、川島書店、2004. p. ベナー/難波卓志: 現象学的人間論と看護、医学書院、1999. L. イートン他・鈴木志津子他監訳: がん看護 PEP リソース、医学書院、2013. 他、個々の課題にあった文献を紹介する。					
履修上の注意	自己の看護の体験を言語化する。さらにはがん看護学上の課題を、実践を通して確認する授業であるため、主体的・積極的に学修する。事例を作成するための積極的に教員を活用し、施設との調整を図り、学習計画を立案することが求められる。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	授業日 (水、木曜日) の 17 時から 18 時、もしくは E メール(藤野 : fujino@dokkyomed.ac.jp) にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（老年看護学） Seminar on Practical Nursing I (Gerontological Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	金子昌子		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>この科目では、老年者の看護（特に入院患者）に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	自己評価や自己教育力を養うことを目的とし、分析方法を獲得する。					
到達目標	中途障がい高齢者や二次障害を発症するリスクの高い入院老年患者の看護実践事例を取り上げ、看護過程に沿って分析・評価し、事例の分析・評価方法を修得するとともに、自己の課題と老年看護上の課題を見出す。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業目標、展開方法を説明する。学生と共に授業計画を立案する。			金子昌子
	2-30	1. 事例分析に向けて 「臨床の知」「ケアの本質」を輪読する	「ケアの本質」を章ごとに分担し、輪読しケアの本質を学ぶ。 「看護ケアの「臨床の知」を章ごとに分担し、輪読するその後、臨床判断についてディスカッションを行い、臨床知に関する理解を深める。			
	31-57	実践事例の分析・評価に基づく老年急性期看護上の課題のまとめ	各自が順番に事例を持ちより、分析する。 事例は、自分の経験した事例とする。特に印象的な事例や疑問が残ったままの事例など、気になる事例を取り上げる。			
	58-60	まとめ	自己の関心や課題をプレゼンテーションする。			
授業外における学習・時間	2冊の抄読会を行うため事前に学習を進める。 ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宣之訳：ケアの本質 生きることの意味、ゆるみ出版。 P. BENNER, P.L. Hooper 他、井上智子 監訳(2005)：看護ケアの臨床知, 医学書院。				1コマ/30分	
評価方法	提出事例の選択の妥当性10%、看護過程の展開の妥当性40%、討論の内容と適切性20%、課題レポート30%で評価する。					
テキスト・参考書	<p>1. 深井喜代子(2006)：ケア技術のエビデンスⅠ，へるす出版。</p> <p>2. 深井喜代子(2010)：ケア技術のエビデンスⅡ，へるす出版。</p> <p>3. 奥川幸子(2007)：身体知と言語，ジュンク堂書店。</p> <p>他、個々の課題にあった文献を紹介する。</p>					
履修上の注意	自己の看護の体験を言語化する。さらに老年看護学上の課題を、実践を通して確認する授業であるため、主体的・積極的に、教員を活用し、施設との調整を図り、学習計画を立案することが求められる。					
質問への対応 (Webメール・Email)	<p>オフィスアワー：原則として毎週水曜 12時10分～13時</p> <p>E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（地域看護学） Seminar on Practical Nursing I (Community Health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	板垣 昭代		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析できる一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、地域住民の集まり、や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、地域看護活動（個人、家族、集団への援助、地区診断、特定集団診断、地域ケアシステムの構築）に関する事例を対象に検討する。</p>					
授業目的	地域看護に関する看護実践例を通して、事例の分析、評価方法を習得するとともに、自己の課題を見出すものとする					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護活動の現象から検討課題を抽出する。 2. 課題を分類整理する。 3. 課題の改善解決方を立案する。 4. 活動全プロセスを評価する。 5. 検討事例をわかりやすくプレゼンテーションする。 6. プレゼンテーションした内容について討論を進める。 7. 理論を用いて事例を分析する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	授業の進め方			板垣昭代
	2-30	地域の実践例の整理	保健所、市町村などの行政機関および産業、学校における地域看護活動の実践例を素材に、地域看護学の機能と看護専門職としての役割を探究し、その成果をプレゼンテーションする。以下に実践例のカテゴリーを示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健所、市町村、産業、学校などにおける保健活動 2) 地域(領域)における健康危機管理活動 3) 地域包括ケアシステムの構築 4) 保健プログラムの開発・実践 5) 保健師・養護教員の現任教育、卒後教育 6) 保健師教育、実習指導 			
	31-56	事例検討	上記の成果をふまえ、各地の保健所、市町村などの行政機関、産業、学校における地域看護活動における各自の事例を持ち寄り検討する。 必要時、フィールド活動を行う。その場合は、活動の計画立案、評価を行う。			
57-60	本科目のまとめ	全体のまとめを行う				
時間外における学習・時間	毎回の授業につき3時間の時間外学習を要する。					1コマ/3時間
評価方法	授業参加度（準備性・積極性）25%、プレゼンテーション25%、作成資料25%、事例レポート25%で評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. バーバラ・ウォルトン・ズラットレイ 原著、村嶋幸代 他 監訳（1998）：地域看護活動の方法、医学書院。 2. Janice M. Roper, Jill Shapira 原著、麻原きよみ 他 訳（2003）：エスノグラフィ、日本看護協会出版会。 その他、授業中、随時紹介する。					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：12時～13時（水曜日） Email: itagaki@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（在宅看護学） Seminar on Practical Nursing I (Home health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	六角僚子、種市ひろみ、長坂奎英		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析できる一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす、すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、在宅看護学全般（特に終末期がん患者）に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析、評価するため、周辺科目と当該科目を関連させながら、根拠ある看護実践を理解する。					
到達目標	<p>1. 倫理的判断、臨床判断に基づき、地域の特性を考慮した在宅看護過程の事例を査定し、援助方法を探究する。</p> <p>2. 家族内コミュニケーションについて理解し、療養者と家族の把握に応用する。</p> <p>3. 療養者・家族への在宅看護サービスに関する関連機関および多職種とのチームアプローチについて探求する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1・2	在宅看護の概念	日本の在宅看護の変遷 日本の在宅ケアの特徴と現在の課題 在宅看護の倫理			六角 僚子 種市ひろみ
	3・4	神経難病患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1) (2)	ALS を中心とした事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。			
	5・6	終末期がん患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1) (2)	終末期がん患者と家族の事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。			種市ひろみ
	7・8	在宅看護にかかわる患者会の活動現況と課題(1) 在宅看護にかかわる患者会の活動現況と課題(2)	—膠原病の例から— —JPA：日本難病・疾病団体協議会の例から—			六角 僚子 種市ひろみ
	9・10	在宅ホスピスケア、在宅ケアの現状と課題	—訪問診療医師の立場から—			ゲストスピーカー 高瀬義昌
	11・12	在宅ホスピスケアシステム	在宅ホスピスケアシステムの構築の理解を深める。			種市ひろみ
	13・14	在宅療養を支援するケアマネジメント	医療依存度の高い療養者を支える在宅ケアマネジメント			六角 僚子 種市ひろみ
	15	対象別の在宅ケアマネジメント <まとめ①>	これまでの事例を通しての、学びを明確にする。			六角 僚子 種市ひろみ
	16-19	事例検討 (1)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし 討論から事例について検討する。(1) 例：・療養者と家族との調整に多大なエネルギーを要した事例 ・多機関・多職種との連携で成功したあるいは失敗した事例など			長坂 奎英
	20-23	事例検討 (2)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(2)			ゲストスピーカー 秋山 初江
	24-27	事例検討 (3)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(3)			ゲストスピーカー 高瀬 義昌
	28-31	事例検討 (4)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(4)			六角 僚子
	32-35	事例検討 (5)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(5)			六角 僚子 種市ひろみ

	36-40	事例検討 ＜まとめ②＞	これまでの事例を通しての、学びを明確にする。	六角 僚子 種市ひろみ
	41-59	フィールド活動 学会・研究会の成果報告	院生の希望にそって、フィールド活動や学会・研究会 などへの参加を促し、その成果を共有し、討論によっ て内容を深める。	六角 僚子 種市ひろみ
	60	院生による主体的 seminar ＜まとめ ③＞	討議のうえ、教員と共に決定する。	六角 僚子 種市ひろみ
授業外における 学習・時間	単元前に授業内容について関連する文献や最新の記事を収集し、レポートにまとめる。			1コマ 1時間
評価方法	授業への参加度（準備性・積極性）30%、授業への貢献度やプレゼンテーション 40%、レポート（授業でその都度課 題を提出する）30%			
テキスト・参考書	1. 鈴木和子, 渡辺 裕子 (2006) : 家族看護学 理論と実践, 日本看護協会出版会. 2. 新田 國夫(2007) : 家で死ぬための医療とケア—在宅看取り学の実践, 医歯薬出版. 3. 宮崎 和加子(2006) : 在宅での看取りのケア—家族支援を中心に, 日本看護協会出版会. その他参考文献および資料は適宜指示する。			
履修上の注意	講義とゼミ形式で行う。主体的な取り組みを期待する。			
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー : 9時～12時 (水曜日) E-mail : rrokaku@dokkyomed. ac. jp にて対応いたします。			

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（精神看護学） Seminar on Practical Nursing I (mental health - psychiatric nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	天賀谷隆	必修・選択	選択	開講年次	1年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>この科目では、精神障害者の看護に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	精神保健医療福祉に関する最新の知見と、根拠に基づいた高度な技術を修得する。					
到達目標	精神障害者とその家族の看護実践事例を取り上げ、看護過程に沿って分析・評価し、事例の分析・評価方法を修得するとともに、自己の課題と精神看護学上の課題を見出す。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				天賀谷 隆
	2-5	精神看護学における臨床判断に関わる事例分析の方法	看護過程（プロセスレコード）を用いて、アセスメントや臨床判断に関わる分析方法を理解する。			
	6-9	看護過程に基づく事例分析・評価①	児童思春期（1）発達障害の事例を紹介し、事例分析・評価の前提となる基本的な考えを理解する。			
	10-13	看護過程に基づく事例分析・評価②	児童思春期（2）パーソナリティ障害の事例を紹介し、事例分析・評価の前提となる基本的な考えを理解する。			
	14-17	看護過程に基づく事例分析・評価③	依存症の事例を紹介し、事例分析・評価の前提となる基本的な考えを理解する。			
	18-33	看護過程に基づく事例分析・評価④	統合失調症の事例を紹介し、事例分析・評価の前提となる基本的な考えを理解する。			
	34-37	看護過程に基づく事例分析・評価⑤	学習者が提示した実践事例（3事例；必要時フィールドワークを行う）の分析・評価を行う。			
	38-45		実践事例の分析・評価に基づく精神障害児者の看護上の課題のまとめを行う。			
	46-53	精神障害者の安全管理対策と看護管理	行動制限について概観し、患者の権利や人権擁護の前提となる基本的な考えを理解する。			
	54-57	演習	履修者の事例検討から導かれた関心や課題を、フィールド活動や研究会等へ参加し、その成果を確認・報告する。			
58-60	まとめ	自己の課題と精神看護学上の課題を明らかにする。				
授業外における学習・時間	34-37回目の講義、58-60回目の講義に向けて、実践事例および自らの課題について討議するレポートを作成すること。 授業外学習は、1～2時間程度、配布資料を基に講義内容を整理すること。					1～2時間
評価方法	提出事例の選択の妥当性10%、看護過程の展開の妥当性40%、討論の内容と適切性20%、課題レポート30%で評価する。					
テキスト・参考書	1. P. BENNER, P.L. Hooper 他、井上智子 監訳(2005)：看護ケアの臨床知, 医学書院。 他、個々の課題にあった文献を紹介する。					
履修上の注意	自己の看護の体験を言語化する。さらに精神障害者の看護学上の課題を、実践を通して確認する授業であるため、主体的・積極的に、教員を活用し、施設との調整を図り、学習計画を立案することが求められる。 発表する自己の課題と課題のレポートは、A4用紙2枚程度のレポートを作成する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー： 水曜日 12時から13時 Eメール： amagaya@dokkyomed.ac.jp 研究室： 4階研究室30にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ (がん看護学) Seminar on Practical Nursing I (Cancer Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	小西敏子		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関するテーマを対象とし検討する。</p>					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力を養成するため、事例を分析する一連の能力を身につけ自己の課題を明確にするとともに、改善するための方法を見いだす。					
到達目標	がん患者の各病期における看護実践事例を取り上げ、看護過程のプロセスに沿ってその看護実践を論理的科学的に分析評価し、自己の課題およびがん看護における課題を明らかにする。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	全体計画、演習の進め方について説明する。			小西敏子
	2-6	検討事例の作成方法 検討事例の分析・評価方法	検討事例の作成方法、分析・評価方法について教授する。			
	7-15	がん患者の各病期における事例分析・評価① がんの診断期及び治療法の選択期	履修者は、各病期にあるがん患者の事例について、看護過程に基づき自らの看護実践を分析・評価する。それらを資料にまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。			
	16-24	がん患者の各病期における事例分析・評価② がんの治療期 (手術療法・化学療法・放射線療法)	授業は、プレゼンテーション者が主体となり、発表と討論に責任を持ち運営する。			
	25-33	がん患者の各病期における事例分析・評価③ がんの安定期	<発表方法及び発表者の役割> 1. 授業開始までに、発表に必要な資料を全員に配布する。 2. 発表後、看護実践と評価、今後の課題について全員で討論する。			
	34-45	がん患者の各病期における事例分析・評価④ がんの終末期	<授業参加者の役割> 1. 事前に発表資料を精読する。 2. 討論に積極的に参加する。			
	46-47	フィールド活動計画・調整	履修者の事例検討から導かれた関心や課題を、フィールド活動や研修会等へ参加し、その成果を確認・報告する。			
	48-55	フィールド活動				
	56-59	フィールド活動の報告				
60	まとめ	がん患者の各病期における看護実践について事例検討、その後のフィールド活動、研修会等への参加を通して総括し、自らの今後の課題を検討する。				
授業外における学習・時間	7 回～45 回 事例の振り返りおよびプレゼンテーションに向けた資料の作成と発表の準備を行う。 46 回～59 回 フィールド活動のための計画立案、フィールドとの調整を行うと共に、報告会に向け、活動を通しての学びと成果についてまとめ、資料を作成する。					1 コマ/30 分
評価方法	①提出事例の選択の妥当性 (10%) ②作成した資料の適切性 (30%) ③討論の内容・適切性 (20%)		④課題レポート (講義の中で提示する。) (20%) ⑤授業への参加度 (20%)			
テキスト・参考書	適宜紹介する。					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー 水曜日 12 時～13 時(研究室 16 小西) E-mail:konishit@dokkyomed.ac.jp(随時) にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（老年看護学） Seminar on Practical Nursing I (Gerontological Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	丸井 明美		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす。すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、家族の会、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、高齢者施設に入所している高齢者と家族、施設ケア全般に関するテーマを対象として検討する。</p>					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力に関する知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	高齢者施設に入所している高齢者と家族、施設ケアに関する実践事例を取り上げ、事例の分析・評価方法を修得するとともに、自己の課題と老年看護上の課題を見出す。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業目標、展開方法を説明する。学生と共に授業計画を立案する。			丸井明美
	2-30	1. 事例分析に向けて 「臨床の知」「ケアの本質」を輪読する	「ケアの本質」を章ごとに分担し、輪読しケアの本質を学ぶ。 看護ケアの「臨床の知」を章ごとに分担し、輪読する。その後、臨床判断についてディスカッションを行い、臨床知に関する理解を深める。			
	31-57	実践事例の分析・評価に基づく老年急性期看護上の課題のまとめ	各自が順番に事例を持ちより、分析する。事例は、自分の経験した事例とする。特に印象的な事例や疑問が残ったままの事例など、気になる事例を取り上げる。			
	58-60	まとめ	自己の関心や課題をプレゼンテーションする。			
授業外における学習・時間	2冊の抄読会を行うため事前に学習を進める。 ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宣之訳：ケアの本質 生きることの意味、ゆるみ出版 P. BENNER, P. L. Hooper 他、井上智子 監訳(2005)：看護ケアの臨床知、医学書院。				1コマ/30分	
評価方法	提出事例の選択の妥当性10%、看護過程の展開の妥当性40%、討論の内容と適切性20%、課題レポート30%で評価する。					
テキスト・参考書	1. 深井喜代子(2006)：ケア技術のエビデンスⅠ，へるす出版。 2. 深井喜代子(2010)：ケア技術のエビデンスⅡ，へるす出版。 3. 奥川幸子(2007)：身体知と言語，ジュンク堂書店。 他、個々の課題にあった文献を紹介する。					
履修上の注意	自己の看護の体験を言語化する。さらに老年看護学上の課題を、実践を通して確認する授業であるため、主体的・積極的に教員を活用し、施設との調整を図り、学習計画を立案することが求められる。					
質問への対応(マイナー・Email)	オフィスアワー：12時～13時 E-mail：marui@dokkyomed.ac.jpにて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅰ（在宅看護学） Seminar on Practical Nursing I (Home health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	種市ひろみ、六角僚子、長坂奎英		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>看護における事例分析の主要な意義は、特定の事例を深く理解し、その後の実践に活かすことである。すなわち、個人が体験した実践を経験知として深め、定着する作業である。この積み重ねにより、実践力の向上につながるものである。</p> <p>本科目では、事例を分析できる一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす、すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のあるテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。</p> <p>ここでは、在宅看護学全般（特に終末期がん患者）に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析、評価するため、周辺科目と当該科目を関連させながら、根拠ある看護実践を理解する。					
到達目標	<p>1. 倫理的判断、臨床判断に基づき、地域の特性を考慮した在宅看護過程の事例を査定し、援助方法を探究する。 2. 家族内コミュニケーションについて理解し、療養者と家族の把握に応用する。</p> <p>3. 療養者・家族への在宅看護サービスに関する関連機関および多職種とのチームアプローチについて探求する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1・2	在宅看護の概念	日本の在宅看護の変遷 日本の在宅ケアの特徴と現在の課題 在宅看護の倫理			種市ひろみ 六角 僚子
	3・4	神経難病患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1) (2)	ALS を中心とした事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。			
	5・6	終末期がん患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1) (2)	終末期がん患者と家族の事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。			種市ひろみ
	7・8	在宅看護にかかわる患者会の活動現況と課題(1) 在宅看護にかかわる患者会の活動現況と課題(2)	—膠原病の例から— —JPA：日本難病・疾病団体協議会の例から—			種市ひろみ 六角 僚子
	9・10	在宅ホスピスケア、在宅ケアの現状と課題	—訪問診療医師の立場から—			ゲストスピーカー 高瀬義昌
	11・12	在宅ホスピスケアシステム	在宅ホスピスケアシステムの構築の理解を深める。			種市ひろみ
	13・14	在宅療養を支援するケアマネジメント	医療依存度の高い療養者を支える在宅ケアマネジメント			種市ひろみ 六角 僚子
	15	対象別の在宅ケアマネジメント<まとめ①>	これまでの事例を通しての、学びを明確にする。			種市ひろみ 六角 僚子
	16-19	事例検討 (1)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし 討論から事例について検討する。(1) 例：・療養者と家族との調整に多大なエネルギーを要した事例 ・多機関・多職種との連携で成功したあるいは失敗した事例など			長坂 奎英
	20-23	事例検討 (2)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(2)			ゲストスピーカー 秋山 初江
	24-27	事例検討 (3)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(3)			ゲストスピーカー 高瀬 義昌
	28-31	事例検討 (4)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から事例について検討する。(4)			種市ひろみ 六角 僚子
32-35	事例検討 (5)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし、討論から			種市ひろみ	

		事例について検討する。(5)	六角 僚子
36-40	事例検討 <まとめ②>	これまでの事例を通しての、学びを明確にする。	種市ひろみ 六角 僚子
41-59	フィールド活動 学会・研究会の成果報告	院生の希望にそって、フィールド活動や学会・研究会などへの参加を促し、その成果を共有し、討論によって内容を深める。	種市ひろみ 六角 僚子
60	院生による主体的 seminar <まとめ ③>	討議のうえ、教員と共に決定する。	種市ひろみ 六角 僚子
授業外における 学習・時間	単元前に授業内容について関連する文献や最新の記事を収集し、レポートにまとめる。		1コマ 1時間
評価方法	授業への参加度(準備性・積極性) 30%、授業への貢献度やプレゼンテーション 40%、レポート(授業でその都度課題を提出する) 30%		
テキスト・参考書	1. 鈴木和子, 渡辺 裕子 (2006): 家族看護学 理論と実践, 日本看護協会出版会. 2. 新田 國夫(2007): 家で死ぬための医療とケア-在宅看取り学の実践, 医歯薬出版. 3. 宮崎 和加子(2006): 在宅での看取りのケア-家族支援を中心に, 日本看護協会出版会. その他参考文献および資料は適宜指示する。		
履修上の注意	講義とゼミ形式で行う。主体的な取り組みを期待する。		
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	E-mail : taneichi@dokkyomed. ac. jp オフィスアワー : 水曜日 11:00~12:00 研究室 : 4階 研究室 15 にて対応いたします。		

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（母性看護学） Seminar on Practical Nursing II (Women's Health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	島田三恵子		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することにより、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、④研究方法の良否の参考になる、などのメリットがある。</p> <p>本科目は、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が読解する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。ここでは、女性の健康、母子ケアに関するテーマとする。</p>					
授業目的	文献を構造的に読解するための基礎的な能力を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性保健、母子保健または助産の英文原著論文を読んで、STROBEに沿って論文の各構成要素をクリティークできる。 2. クリティークした論文のサブストラクション（変数の整理）を作成できる。 3. クリティークした論文を通して、研究手法・デザイン、統計、結果、考察など、一連の研究方法を学ぶ。 4. 女性の健康や母子ケアに関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造や書き方を学修する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業計画を学生と立案する。			島田三恵子
	2-30	研究論文のクリティークに必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。	自己の関心あるテーマを、自由討論する。さらに研究課題をブラウジングし、その結果をプレゼンテーションする。			
	31-50	<p><文献講読の内容と方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の関心に沿って、母性看護・母子保健に関連する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。 	<p>文献を取り上げ、クリティークする。</p> <p>文献は、自分の発表の2週前にメンバーへ配布する。クリティーク内容は、担当者がプレゼンテーションし、その後ディスカッションを行う。</p>			
	51-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(1～2回程度)	自分の関心ある領域の学会あるいは研究会に参加し、その学修成果を発表する。			
60	まとめ					
授業外における学習・時間	学生が関心のある国内外の論文を選択して予習し、発表の2週間前にゼミ参加者に配布し、学習目標に沿った事前学習の資料を全員が作成して出席すること。					1コマ/30分
評価方法	授業準備・予習40%、プレゼンテーション・レポート20%、授業への参加度（ディスカッション・積極性）40%、により評価する。					
テキスト・参考書	<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. D. F. ポーリット&C. T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院. 2. 高木廣文 他：看護研究の読み方・進め方, 中山書店. 3. 山川みやえ・牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会. 4. Steven R. Cummings, 木原正博監訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンス・インターナショナル 2004. 5. 石井京子、他：ナースのための質問紙調査とデータ分析、医学書院 2002. <p>その他、適宜授業内に紹介する。</p>					
履修上の注意	ゼミ形式で行う。第1回のゼミで、各学生が関心のある論文を選択して発表する順番・日程を決定する。主体的に学生相互に学び合う機会とする。					
質問への対応 (Webster・Email)	授業時に提示する。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（小児看護学） Seminar on Practical Nursing II Child Health and development		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	井上 ひとみ		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>1. 前半（40回まで）は、子どもと家族に関連する社会学、心理学、教育学の主要な文献を精読し、多様な分析視角を理解する。</p> <p>2. 後半（41回以降）は、関心のあるテーマを選び、国内外の論文をレビューし、研究の背景や動機、方法論、結果、考察について解説し、研究の条件と論文の執筆方法を学ぶ。</p>					
授業目的	子どもの成長・発達、子どもと家族に関する社会文化的な分析視角から「看護現象を科学的に精読し・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を学修する。					
到達目標	<p>1. 子どもと家族に関連する社会学、心理学、教育学の主要な分析視角を理解する。</p> <p>2. 子どもと家族に関する主要な質的研究論文をクリティークすることができる。</p> <p>3. 関心のあるテーマを検索し、文献レビューを実施できる。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				井上ひとみ
	2-25	子どもと家族の基盤になる分析視角	<ul style="list-style-type: none"> ・ラベリング論（ベッカー） ・スティグマ（ゴッフマン） ・再生産/ハビトウス（ブリュデユ） ・社会構成主義（ガーゲンラ） ・ナラティブ（グリーンハル） ・複雑性（ルーマン） 			井上ひとみ
	26-40	子どもに関する質的研究文献をクリティークする	闘いの軌跡 小児がんを生きる がんで子どもを亡くした親の悲嘆 障害者差別の社会学 以上のプレゼンテーションとディスカッション			井上ひとみ
	41-59	関心あるテーマに関する文献レビュー	各自が、自分のテーマに沿って文献検索し、ゼミでプレゼンする。			
	60	まとめ				
授業外における学習・時間	提示した研究文献を精読する。文献レビュー（テーマに沿った文献検索、文献検索とリストの作成、クリティーク）とプレゼンテーション資料の作成を行う。					1コマ/30分
評価方法	プレゼンテーションおよびその資料70%、ディスカッション30%					
テキスト・参考書	<p>① スティグマの社会学、アーウィン・ゴッフマン</p> <p>② 社会構成主義の理論と実践、K・J・ガーゲン、ナカニシヤ出版、2004</p> <p>③ トリシャ・グリーンハル：ナラティブ・ベイスド・メディスン、金剛出版、2001</p> <p>④ 闘いの軌跡—小児がんによる子どもの喪失と母親の成長 戈木クレイグヒル滋子、川島書店、1999</p> <p>⑤ 小児がん患者の心理社会的問題と適応に及ぼす影響、武井優子、風間書房、2015</p> <p>⑥ 小児がんを生きる、廣田佳典、ゆるみ出版、2012</p> <p>⑦ 小児がんで子供を亡くした親の悲嘆、三輪久美子、生活書院、2010</p> <p>⑧ 家族崩壊と子どものスティグマ、田中理絵、九州大学出版会、2009</p> <p>⑨ 障害者差別の社会学、岩波書店、1999</p> <p>⑩ 信頼、ニコラス・ルーマン、勁草書房、1997</p> <p>⑪ やまだようこ他、質的心理学ハンドブック、新曜社、2013</p>					
履修上の注意	参考文献は、できるだけ精読し、視野を広げる努力をしてください。文献は、研究室から貸し出します。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：月～金 12時10分～13時 Email:hitomi-i@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（セルフケアの再獲得） Seminar on Practical Nursing II (Regaining Self-Care)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	粟生田友子、武藤孝司		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が読解する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、障がいを抱える慢性疾患患者の看護に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	「最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践能力」を培うこと、ならびに「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を培うために、基盤となる文献を活用する能力を獲得する。					
到達目標	<p>国内外の文献講読を通して次にあげることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手する。(少なくとも半数は海外文献とする。) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションする。 3. 研究論文をクリティークする。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、今後の授業のイメージ化を図る。			粟生田友子 武藤 孝司
	2-30	研究論文をクリティークするための基礎知識	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。			
	31-59	文献クリティークの実際 履修者が選択した慢性疾患患者、看護に関連した研究論文の紹介とクリティーク	<p><論文講読の内容と方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者の関心や経験に沿って、セルフケア再獲得の必要な患者看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 <p><講読対象論文></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 難病患者の体験に関する研究論文 2. 脳卒中患者のリハビリテーション看護に関する論文 3. 透析患者の心身の廃用症候群の防止支援に関する論文 4. 難病患者や慢性的経過をたどる患者の症状マネジメントに関する研究 5. 成人慢性疾患患者に関する論文 <p><その他></p> <p>学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)</p>			
	60	まとめ	文献クリティークの方法、看護実践への有用性等について討論する。			

授業外における 学習・時間	臨床実践における課題達成のために、探究に必要な時間を各自が確保する。各自の課題にあわせ、授業ごとに1時間程度を確保する。	1コマ/1時間程度
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。レポート課題については授業時に提示する。	
テキスト・参考書	<テキスト> 1. ポーリット, D.F, ベック, C. T, ; 近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院 2. NKデボン&I.S.ルカ; 平山満義監訳: 質的研究ブック1~3巻 北大路書房 <参考書> 1. アーサー・クライマン, ; 江口重幸 五木田紳 上野豪志訳 (1996) : 病の語り, 誠言書房 その他、参考文献は適宜紹介する。	
履修上の注意	発表論文を理解する基礎的な知識についても調べ、プレゼンテーションに反映させてほしい。	
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィスアワー：12時～13時 E-mail : aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。	

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ (がん看護学) Seminar on Practical Nursing II (Cancer Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	藤野彰子	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が読解する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、がん患者の看護（特に緩和ケア、終末期看護）に関するテーマとする。</p>					
授業目的	がん看護に関する文献を読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。					
到達目標	がん患者、特に緩和ケア、終末期看護に関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造や書き方を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				藤野彰子
	2-30	研究論文のクリティーク	研究論文のクリティークに必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書2, 3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。			
	31-50	文献講読	<文献講読の内容と方法> 1. 履修者の関心に沿って、がん看護に関する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。			
	51-59	学会、研究会、勉強会での学修	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2～3回程度)			
	60	まとめ	緩和ケア、終末期看護における課題を明らかにする。			
授業外における学習・時間	学生は、テーマに沿って授業に参加するための資料を準備する。					
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション 30%、ディスカッション 30%、レポート（自分の読んだ文献のクリティーク 5～8 編程度）20%により評価する。					
テキスト・参考書	<テキスト> 1. D.F. ポーリット&C.T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 2. Pamela J. Brink, Marilynn J. Wood 著；小玉香津子他訳：看護研究計画書一作成の基本ステップ. 日本看護協会出版会. 3. N. バーンズ;黒田裕子他 監訳(2011)：看護研究入門. エルゼビア・ジャパン. <参考書> 1. L.O. ウォーカー, K.C. アバンツ；中木高夫他訳：看護における理論構築の方法. 医学書院 2. J.K. Itano et al；小島操子他監訳：がん看護コアカリキュラム. 医学書院 その他、適宜授業内に紹介する。					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィス・Email)	質問への対応は、授業日（水、木曜日）の17時から18時もしくはEメール(藤野：fujino@dokkyomed.ac.jp)にていつでも対応いたします。					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（老年看護学） Seminar on Practical Nursing II (Gerontological Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	金子昌子、武藤孝司		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に解読するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が解読する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、老年者の看護（特に入院患者）に関するテーマとする。</p>					
授業目的	文献を構造的に解読するための基礎的な能力を獲得する。					
到達目標	がん、脳卒中による中途障がい高齢者や二次障害を発症するリスクの高い入院老年患者の看護に関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造や書き方を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業計画を学生と共有し、授業計画を立案する。			金子昌子 武藤孝司
	2-30	研究論文のクリティークに必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。	自己の関心あるテーマを、自由討論する。さらに研究課題をブラウジングし、その結果をプレゼンテーションする。			
	31-50	<p><文献講読の内容と方法></p> <p>1. 履修者の関心に沿って、老年急性期看護に関する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。</p> <p>2. 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。</p> <p>3. 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。</p> <p>4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。</p>	<p>文献を取り上げ、クリティークする。</p> <p>文献は、自分の発表前の週にメンバーへ配布する。</p> <p>クリティーク内容は、担当者がプレゼンテーションし、その後ディスカッションを行う。</p>			
	51-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(1～2回程度)	自分の関心ある領域の学会あるいは研究会に参加し、その学修成果を発表する。			
	60	まとめ				
授業外における学習・時間						
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <p>1. D.F. ポーリット&C.T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院</p> <p>2. 高木廣文 他：看護研究の読み方・進め方, 中山書店.</p> <p><参考書></p> <p>1. Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood 著：Basic step in planning nursing research (4th ed), Jones and Bartlett.</p> <p>2. P. Benner, P. L. Hooper 他；井上智子 監訳：看護ケアの臨床知, 医学書院.</p> <p>その他、適宜授業内に紹介する。</p>					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む					
質問への対応 (Webメール・Email)	<p>オフィスアワー：原則として毎週水曜 12時10分～13時</p> <p>E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（地域看護学） Seminar on Practical Nursing II (Community Health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	板垣昭代		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が読解する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、地域看護活動（個人、家族、集団への援助、地区診断、特定集団診断 地域ケアシステムの構築など）に関するテーマを取り扱う。</p>					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な地域看護実践力を有するための手法を学ぶ。					
目標	<p>国内外の文献講読を通して次にあげることができる。1. 関心ある文献を検索し、入手する。2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションする。3. プレゼンテーション内容について、討論を通して深め、広げる。4. 研究論文をクリティークする。5. プレゼンテーションや討論を通して研究課題を明確にする。6. 研究課題に適するデータ収集・分析方法を探索する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	オリエンテーション	授業の進め方			板垣昭代
	2-30	文献クリティークするための基礎知識	研究や論文に関する成書を題材に、院生が主体的に抄読会を開催する。			
	31-59	文献クリティークの実際	<p>履修者は、地域看護学に関する内外の文献に関心に沿って検索入手し、プレゼンテーションを行う。その後、討論を通して内容を深め、広げる。</p> <p>授業は、文献プレゼンテーション者が主となって、発表と討論に責任を持って運営する。</p> <p>第1回目の授業後、履修者間でプレゼンテーションの順番を決め、スケジュール表を作成し、参加者全員に配布する。</p> <p><発表方法及び発表者の役割></p> <ol style="list-style-type: none"> 発表者は授業1週間前に参加者全員に文献を配布する。 発表者は発表授業時必要な資料を全員に配付する。 資料は発表する研究論文を構造的にまとめ、わかりやすい内容として作成する。 発表後、発表内容について全員で討論する。 教員は必要に応じ助言を行う。 <p><授業参加者の役割></p> <ol style="list-style-type: none"> 事前に必ず発表文献を精読する。 討論は積極的に参加する。 			
	60	まとめ	文献クリティークから得られた成果と地域看護実践力についてまとめる。			
授業外における学習・時間	毎回の授業につき3時間の学習を要する。				1 コマ/3 時間	
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> バーバラ・ウォルトン・ズラットレイ 原著、村嶋幸代 他 監訳(1998):地域看護活動の方法, 医学書院. Janice M. Roper, Jill Shapira 原著, 麻原きよみ 他 訳(2003):エスノグラフィ, 日本看護協会出版会. APA(アメリカ心理学会), 江藤裕之 他 監訳(2004):APA 論文作成マニュアル, 医学書院. バーンズ&グローブ 著, 黒田裕子, 中木高夫, 小田正枝, 逸見功 監訳(2009):看護研究入門, エルゼビア・ジャパン. John W. Creswell, 操華子・森岡 崇 訳 (2007):研究デザイナー-質的・量的・そしてミックス法, 日本看護協会出版会. 					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー: 12時~13時(水曜日)</p> <p>Email: itagaki@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（在宅看護学） Seminar on Practical Nursing II (Home Health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	六角僚子		必修・選択	選択	開講年次	1年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が解読する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、在宅看護学領域における最新の研究の動向と知識を学ぶため、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、在宅看護学全般に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	関心領域の看護現象を科学的に分析し、創造的な実践を開発する研究能力を獲得するため、本科目では、文献を構造的に解読するための基礎的な能力を養うことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある文献を検索し、入手する。 2. 文献を読解し、プレゼンテーションする。 3. 論文をクリティークする。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				六角僚子
	2-30	研究論文のクリティークの基礎知識を学修する	在宅看護学で興味関心のある研究や論文に関する成書2, 3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し、要約・発表を行い討論を深める。			
	31-60	プレゼンテーション フィールドワーク 学会・研究会参加 討論	院生は自分の関心に沿って文献検索し、授業においてプレゼンテーションを行う。さらに当該論文の批判的吟味を行い、論文の見方や書き方のレベルアップをはかる。これらの鍛錬の中で、論文の読解力を高め、研究論文の作成に活用する。研究課題の内容によっては、必要時フィールドワークを計画する。 また、学会、研究会等へ計画的に参加する。これらの活動についてもプレゼンテーションを行い、討論を通して理解を深める。			
授業外における学習・時間	クリティークについての事前学習をする。					1時間/回
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート（授業でその都度課題を提示する）20%により評価する。					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グレグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 医歯薬出版株式会社. 2. Marlene Zichi Cohen 他(2005): 解釈学的現象学による看護研究, インタビュー事例を用いた実践ガイド, 日本看護協会出版会. 3. Janice M. Roper, Jill Shapira(2003): エスノグラフィー, 日本看護協会出版会. <p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本訪問看護振興財団事業部(2002): 訪問看護白書 訪問看護 10年の歩みとこれからの訪問看護, 日本訪問看護振興財団. <p>その他、必要な専門参考文献は適宜紹介していく。</p>					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー: 9時~12時(水曜日)</p> <p>E-mail: rrokaku@dokkyomed.ac.jpにて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（精神看護学） Seminar on Practical Nursing II (mental health-psychiatric nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	天賀谷 隆、武藤孝司		必修・選択	選択	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に解説するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が解説する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、児童思春期を含む精神障害者の看護に関するテーマとする。</p>					
授業目的	精神保健医療福祉に関する最新の知見と、根拠に基づいた高度な技術を修得する。					
到達目標	児童思春期を含む精神障害者の看護に関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造や書き方を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				天賀谷 隆 武藤 孝司
	2-30	研究論文のクリティーク	精神看護学に必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書2, 3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。			
	31-50	文献講読の内容と方法	<ol style="list-style-type: none"> 履修者の関心に沿って、児童思春期を含む精神障害者の看護に関する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。 			
	51-59	演習	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2～3回程度)			
	60	まとめ	授業の総括と履修者の研究テーマを明らかにする。レポートの課題は授業内で提示する。			
授業外における学習・時間	60 回目の講義に向けて、自らの研究テーマを明らかにできるように討議に参加すること。授業外学習は、1～2 時間程度、配布資料を基に講義内容を整理すること。					1～2 時間程度
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> D. F. ポーリット&C. T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 高木廣文 他：看護研究の読み方・進め方、中山書店。 <p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood 著：Basic step in planning nursing research (4th ed), Jone and Bartlett. P. Benner, P. L. Hooper 他；井上智子 監訳：看護ケアの臨床知, 医学書院。 <p>その他、適宜授業内に紹介する。</p>					
履修上の注意	<p>討議には積極的に参加することを望む。</p> <p>発表するレポートの課題は、A4 用紙2 枚程度のレポートを作成する。</p>					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー： 水曜日 12 時から 13 時</p> <p>Eメール： amagaya@dokkyomed.ac.jp</p> <p>研究室： 4 階研究室 30 にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ (がん看護学) Seminar on Practical Nursing II (Cancer Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4 単位
教員名	小西敏子	必修・選択	選択	開講年次	1 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に読解するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が読解する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関するテーマを担当する。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発するための基礎として、文献を構造的に読解するための能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある文献を検索・入手する。 2. 文献を構造的に読解する。 3. 文献をプレゼンテーションする。 4. 研究論文をクリティークする。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	全体計画、演習の進め方について説明する。			小西敏子
	2-30	研究論文クリティークの基礎	研究論文をクリティークの基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書 2, 3 冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担して要約・発表し討論を深める。			
	31-59	文献購読 文献クリティーク	<p>履修者は、がん患者の各病期における看護実践及び研究に関する国内外の文献の中から、関心のある文献を検索・入手し、プレゼンテーション、クリティークを行なう。その後、討論を通して内容を深め、研究論文の作成に活用する。</p> <p>授業は、プレゼンテーション者が主体となり、発表と討論に責任を持ち運営する。</p> <p><発表方法及び発表者の役割></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は授業 1 週間前までに参加者全員に講読する文献を配布する。 2. 授業開始までに、発表に必要な資料を全員に配布する。 3. 資料は発表論文を構造的にまとめ、クリティークした内容とする。 4. 発表後、発表内容について全員で討論する。 <p><授業参加者の役割></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に発表文献を精読する。 2. 討論に積極的に参加する。 <p><その他></p> <p>学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2, 3 回程度)</p>			
	60	まとめ	文献クリティークを通して、自己の研究テーマの焦点化に至るプロセスを振り返り、更なる研究疑問の明確化を図る。			

授業外における 学習・時間	2回～30回 研究や論文に関する成書2,3冊を読みこみ、抄読会に向け、要約して発表資料を作成する。 31回～59回 がん患者に関する文献を検索・入手し、プレゼンテーション、クリティークに向けた資料を作成する。	1コマ/60分
評価方法	①選択した文献の適切性 (10%) ②プレゼンテーション資料・内容・方法 (40%) ③討論内容・参加度 (30%) ④課題レポート (講義の中で提示する) (20%)	
テキスト・参考書	<テキスト> D.F. ポーリット, C.T. ベック (2010) : 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院 <参考書> 適宜紹介する。	
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。	
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー 水曜日 12時～13時(研究室16 小西) E-mail:konishit@dokkyomed.ac.jp(随時) にて対応いたします。	

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（老年看護学） Seminar on Practical Nursing II (Gerontological Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	丸井 明美	必修・選択	選択	開講年次	1年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、文献を構造的に解説するための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生が解説する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、研修会、研究会、学会等へも参加する。ここでは、高齢者施設に入所している高齢者と家族、施設ケアに関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	最新の知見と技術を有し、根拠に基づいた高度な看護実践力に関する知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	高齢者施設に入所している高齢者と家族、施設ケアに関連する文献を講読し、文献クリティークの方法や論文の構造、書き方を学修する。					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	本科目の授業計画を学生と共有し、授業計画を立案する。			丸井明美
	2-30	研究論文のクリティークに必要な基礎知識を学修するために、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに発表・討論を深める。	自己の関心あるテーマを、自由討論する。さらに研究課題をブラウジングし、その結果をプレゼンテーションする。			
	31-50	<p><文献講読の内容と方法></p> <p>1. 履修者の関心に沿って、高齢者施設に入所している高齢者と家族、施設ケアに関する文献を検索・精読し、プレゼンテーションのための資料を作成する。</p> <p>2. 発表の前週までに講読論文を授業参加者全員に配布する。</p> <p>3. 発表者はクリティークの基準に沿って資料作成し、当日全員に配布する。</p> <p>4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。</p>	<p>文献を取り上げ、クリティークする。</p> <p>文献は、自分の発表前の週にメンバーへ配布する。</p> <p>クリティーク内容は、担当者がプレゼンテーションし、その後ディスカッションを行う。</p>			
	51-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(1~2回程度)	自分の関心ある領域の学会あるいは研究会に参加し、その学修成果を発表する。			
	60	まとめ				
授業外における学習・時間	各授業におけるプレゼンテーションの準備					
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート20%により評価する。					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <p>1. D. F. ポーリット&C. T. ベック；近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院</p> <p>2. 高木廣文 他：看護研究の読み方・進め方, 中山書店.</p> <p><参考書></p> <p>1. Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood 著：Basic step in planning nursing research (4th ed), Jones and Bartlett.</p> <p>2. P. Benner, P. L. Hooper 他；井上智子 監訳：看護ケアの臨床知, 医学書院.</p> <p>その他、適宜授業内に紹介する。</p>					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。					
質問への対応 (Webページ・Email)	<p>オフィスアワー：12時～13時</p> <p>E-mail：marui@dokkyomed.ac.jpにて対応いたします。</p>					

科目名・英名	実践看護学演習Ⅱ（在宅看護学） Seminar on Practical Nursing II (Home Health Nursing)		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	種市ひろみ	必修・選択	選択	開講年次	1年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>関心のある領域やテーマに関する文献を多数かつ丁寧に読解することで、①研究成果を実践に活用できる、②その領域やテーマに関する最新の知見を得る、③研究テーマを見いだす、などのメリットがある。これらのいずれも専門家として備えるべき要件である。</p> <p>本科目は、学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、グループ別に授業を進める。授業の進め方として、学生のテーマに関連する文献を検索し、それをプレゼンテーションし、グループ討論を通して、当該研究に対する理解を深める。また、在宅看護学領域における最新の研究の動向と知識を学ぶため、研修会、研究会、学会等へも参加する。</p> <p>ここでは、在宅看護学全般に関するテーマを対象とする。</p>					
授業目的	関心領域の看護現象を科学的に分析し、創造的な実践を開発する研究能力を獲得するため、本科目では、文献を構造的に解読するための基礎的な能力を養うことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある文献を検索し、入手する。 2. 文献を読解し、プレゼンテーションする。 3. 研究論文をクリティークする。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				種市ひろみ
	2-30	研究論文のクリティークの基礎知識	研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し、要約・プレゼンテーションし、討論を深める。			
	31-50	文献クリティークの実践	自分の関心に沿って文献検索し、授業においてプレゼンテーションを行う。さらに当該論文の批判的吟味を行い、論文の見方や書き方のレベルアップをはかる。これらの鍛錬の中で、論文の読解力を高め、研究論文の作成に活用する。			
	51-60	フィールドワーク 学会・研究会参加	研究課題の内容によっては、必要時フィールドワークを計画する。 学会、研究会等に計画的に参加する。 これらの活動についてもプレゼンテーションを行い、討論を行う。			
授業外における 学習・時間	クリティークについての事前学習をする。				1時間/回	
評価方法	授業への参加度（授業準備と積極性）20%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート（授業でその都度課題を提示する）20%により評価する。					
テキスト・参考書	<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グレグ美鈴、麻原きよみ、横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方、医歯薬出版株式会社。 2. Marlene Zichi Cohen 他(2005)：解釈学的現象学による看護研究、インタビュー事例を用いた実践ガイド、日本看護協会出版会。 3. Janice M. Roper, Jill Shapira(2003)：エスノグラフィー、日本看護協会出版会。 <p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本訪問看護振興財団事業部(2002)：訪問看護白書 訪問看護10年の歩みとこれからの訪問看護、日本訪問看護振興財団。 <p>その他、必要な専門参考文献は適宜紹介していく。</p>					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>E-mail：taneichi@dokkyomed.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日 11:00～12:00</p> <p>研究室：4階 研究室15にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	山口久美子		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、II として学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究 II に対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>ここでは、看護管理者が抱える現場のジレンマや看護管理上の問題に関することを研究課題とし、看護管理に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に必要な知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1-15	ガイダンス	・年間の予定と授業の進め方			山口久美子
		研究課題の決定	・課題の抽出と焦点化 ・課題に関連した文献検索 ・自組織の組織分析			
		研究計画の立案	・問題意識の明確化のための関連分野の文献レビュー ・研究方法の検討			
		第1回研究計画書提出 第1回中間発表会への準備と発表	・様式に則って計画書を作成 ・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備			
	16-30	研究計画書の修正	・研究テーマに焦点化した再文献レビュー ・仮説の設定および概念図 ・研究方法の選択 ・予備調査、フィールド活動によるデータ収集及び分析方法の検討など			
第2回中間報告書提出 第2回中間発表会への準備と発表		・様式に則って計画書を作成 ・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備				
研究倫理審査申請書の作成と提出		・研究倫理審査申請書を作成し、完成レベルまで達成した場合は、研究倫理委員会に提出				
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					
評価方法	授業参加状況(20%)、プレゼンテーション内容(20%)、研究計画書(40%)、研究倫理審査申請書の作成及び提出(20%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. D.F. ベック;近藤潤子 監訳(2010)：看護研究 原理と方法, 医学書院 2. 大木秀一 (2009)：基本からわかる看護統計学入門, 医歯薬出版株式会社 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィス：水曜日 17:00~18:00 研究室 NO. 11 Email : yama-k@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究 I Research course of Women's Health Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	島田三恵子	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学習する。</p> <p>本科目は1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づけられるものである。</p> <p>学習方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出までとする。</p> <p>その間、研究課題の選定から、研究方法（研究デザイン、研究対象、データ収集方法、分析方法）の選定、研究計画書の作成、など一連の研究プロセスを経て学習する。</p> <p>女性の健康、および妊娠・出産・育児期の母子ケアを研究課題とし、母性看護および助産に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	研究課題の選定、研究方法（研究デザイン、対象、データ収集方法、分析方法）の選定、研究計画書の作成、倫理委員会審査申請書など、一連の研究経過を体験して学修し、研究能力を獲得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス			島田三恵子
	2-15	文献クリティーク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の関心に沿って、女性の健康、および妊娠・出産・育児期の母子ケアに関する研究、支援方法に関する研究などの関連分野の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに資料を授業参加者全員に配布する。 3. 授業参加者はあらかじめ資料に目を通し、討論に備える。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者とディスカッションを行う。 <p>これらを通して、自分の研究課題が研究に値する重要事項が否かを検討して、研究課題を選定し、第1回研究計画書を作成する。</p>		
		第1回研究計画書の提出			
		第1回中間発表会	1. 中間発表会にてプレゼンテーション		
	16-30	研究計画の立案 倫理申請書類の書き方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に基づき、第2回中間報告書を完成するために、看護学研究方法及び倫理的課題に関する文献レビューを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。 		
		第2回中間報告書の提出			
		第2回中間発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間発表会にてプレゼンテーション 2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 		
授業外における学習・時間					1コマ/30分
評価方法	授業参加状況(20%)、プレゼンテーション内容(20%)、研究計画書(40%) 研究倫理審査申請書の作成及び提出(20%)をもって評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一、数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D.F. ベック; 近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. 				
履修上の注意	主体的学修を望む。				
質問への対応(ウェブ・Email)	授業時に提示する。				

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	専門科目	単位数	2 単位
教員名	井上 ひとみ		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	講義・演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、II として学修する。</p> <p>本科目は、1 年次の通年科目であり、特別研究 II に対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>ここでは、子どもと家族の看護（乳幼児の発達の援助、育児不安や児童虐待予防の看護、がんの子どもと家族の看護、子どもを亡くした家族のグリーフケアなど）を研究課題とし、子どもと家族の看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	研究科で定めた研究計画にそって、研究のプロセスを行うことにより、「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				
	2-14	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回研究計画書の作成 2. 第 1 回研究計画書に基づく進捗状況の発表 	履修者が関心のある課題（子どもと家族の健康問題や対象の理解に関する研究、支援方法、マネジメントと評価に関する研究など）の情報収集、関連文献レビューを行い、ゼミにて、プレゼンテーションを行う。討議を通じて、研究課題を決定する（資料作成・配布）。			
	15-26	第 2 回研究計画書を作成する。	研究課題に基づき、第 2 回研究計画書を完成するために、研究方法及び倫理的課題に関して、文献レビューを行い資料にまとめ、ゼミにてプレゼンテーション・ディスカッションを行う。			
	27-30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 2 回中間発表会 2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 	第 2 回研究計画書に基づく、プレゼンテーション準備と発表 研究倫理審査申請に向けて、研究計画書、必要書類の作成と提出			
授業外における学習・時間	参考書を精読して、研究及び文献のクリティークについて学修する。(Susan K. Grove, Nancy Burns, バーンズ&グローブ看護研究入門 [第 7 版]、ELSEVIER)			1 コマ/30 分		
評価方法	研究課題に関する知識 と取組み状況 (20%)・プレゼンテーション内容 (20%)・研究計画書 (30%)・研究倫理審査申請書の作成および提出 (30%) をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウヴェ・フリック、新版 質的研究入門（人間の科学のための方法論）、春秋社、2011 2. Susan K. Grove, Nancy Burns, バーンズ&グローブ看護研究入門（第 7 版）、ELSEVIER、2015 3. アメリカ心理学会、APA 論文作成マニュアル [第 2 版]、医学書院、2013 4. 文献レビューのきほん、大木秀一、医歯薬出版株式会社、2013 5. 山川みやえ・牧本清子、よくわかる看護研究論文のクリティーク（研究手法別のチェックシートで学ぶ）、日本看護協会出版会、2013 					
履修上の注意	参考図書等の文献を熟読し、主体的に研究の基礎を構築する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー：月～金 12 時 10 分～13 時 Email: hitomi-i@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	粟生田友子		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、II として学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究 II に対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>ここでは、障がいを抱える慢性疾患患者の体験を理解するための質的研究および行動理論を援用したセルフケアの再獲得を促進する看護支援に関する課題を研究し、慢性期看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を培うために、研究課題を焦点化し、研究計画書を策定する一連のプロセスを学修し、実践する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決定する。 2. 研究課題に関連した文献レビューをする。 3. 研究課題に適する研究方法を選定する。 4. 研究計画を立案する。 5. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院で定めた修士論文作成スケジュールを概説する。 ・本科目の進め方を説明する。 			粟生田友子
	2-7	研究課題の決定	研究動機、研究課題（仮）、文献検討について、プレゼンテーションし、討論により、自己の取り組む研究課題を明確化する。			
	8-13	研究計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識の明確化のための関連分野の文献レビュー ・研究方法の検討 			
	14	第1回研究計画書提出	第1回研究計画書を完成する。			
	15	第1回中間発表会への準備と発表	第1回中間発表会の準備と発表を行う。			
	16-26	研究計画書の修正	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに焦点化した再文献レビュー ・仮説の設定 ・研究方法の選定 ・予備調査、フィールド活動によるデータ収集及び分析方法の検討等 			
	27	第2回中間報告書提出	第2回中間報告書を完成する。			
	28-30	第2回中間発表会への準備と発表	研究倫理審査申請書を作成し、完成レベルまで達した場合、研究倫理委員会へ提出する。			
授業外における学習・時間	個別の研究課題に必要な学修を、自らが企画し、達成する時間を確保する。授業ごとに1時間程度とする。					
評価方法	研究計画作成のプロセスにおける取り組み(60%)、研究計画書及び研究倫理審査申請書(提出した場合)の作成、提出(40%)を評価の対象とする。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ARN；奥宮暁子 監訳(2005)：リハビリテーション看護の実践 概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム，日本看護協会出版会。 2. D.F. ベック，；近藤潤子 監訳(2010)：看護研究 原理と方法，医学書院 					
履修上の注意	問題を自分で解決できないときには、随時相談にきてください。					
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィスアワー：12時～13時 E-mail：aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	藤野彰子	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、II として学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究 II に対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化をはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。ここでは、がん患者の看護のうち緩和ケア、終末期看護を主に研究課題とし、がん看護に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	がん看護に関する研究に必要な能力を獲得し、研究計画書を作成し、研究倫理審査申請書を提出することのできる能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス			藤野彰子
	2-15	関心のあるテーマに関する文献レビュー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の関心に沿って、がん患者の看護のうち緩和ケア、終末期看護を主に研究課題とし、看護実践を通して、関心のあるテーマに関連した文献レビューを行い、研究の動向を概観する。それらをもとにプレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに資料を授業参加者全員に配布する。 3. 授業参加者はあらかじめ資料に目を通し、討論に備える。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者とディスカッションを行う。 <p>これらを通して、みずからの研究課題の焦点化を図り、第1回研究計画書を作成する。</p>		
		研究課題の焦点化			
	研究計画書の作成				
	第1回中間発表会	1. 中間発表会にてプレゼンテーションを行う。			
16-30	第2回中間報告書の提出	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に基づき、第2回中間報告書を完成するために、がん看護学研究方法及び倫理的課題に関する文献レビューを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。 2. 第2回中間報告書を作成する。 			
	第2回中間発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間発表会にてプレゼンテーションを行う。 2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 			
第2回中間発表会	1. 中間発表会にてプレゼンテーションを行う。				
研究倫理審査申請書の作成	2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。				
授業外における学習・時間	各授業におけるプレゼンテーションの準備				1 コマ/30 分
評価方法	授業参加状況(20%)、プレゼンテーション内容(20%)、研究計画書(40%) 研究倫理審査申請書の作成及び提出(20%)をもって評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. N. バーンズ;黒田裕子他 監訳(2011) : 看護研究入門. エルゼビア・ジャパン. 2. D.F. ベック;近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院 				
履修上の注意	主体的学修を望む。				
質問への対応 (Webメール)	質問への対応は、授業日(水、木曜日)の17時から18時、もしくはEメール(藤野: fujino@dokkyomed.ac.jp)にていつでも対応いたします。				

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	金子昌子	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。ここでは、老年入院患者の看護（急性期看護、リハビリテーション看護、がん看護など）を研究課題とし、老年看護に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経験的に学修し、研究能力を獲得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス			金子昌子
	2-15	文献クリティーク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の関心に沿って、急性疾患・がんの発症により侵襲的治療を受け危機的状態にある成人・老年者の理解に関する研究、支援方法、環境管理とマネジメント・評価などに関する研究などの関連分野の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに資料を授業参加者全員に配布する。 3. 授業参加者はあらかじめ資料に目を通し、討論に備える。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者とディスカッションを行う。 <p>これらを通して、みずからの研究課題の焦点化を図り、第1回研究計画書を作成する。</p>		
		第1回研究計画書の提出 第1回中間発表会	1. 中間発表会にてプレゼンテーション		
16-30	研究計画の立案 倫理申請書類の書き方 第2回中間報告書の提出	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に基づき、第2回中間報告書を完成するために、急性看護学研究方法及び倫理的課題に関する文献レビューを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。 			
	第2回中間発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間発表会にてプレゼンテーション 2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出あるいは提出の準備をする。 			
授業外における学習・時間					1 コマ/30 分
評価方法	授業参加状況(20%)、プレゼンテーション内容(20%)、研究計画書(40%) 研究倫理審査申請書の作成及び提出(20%)をもって評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一，数間恵子：QOL 評価学，中山書店。 2. D.F. バック；近藤潤子 監訳(2010)：看護研究 原理と方法，医学書院。 				
履修上の注意	主体的学修を望む。				
質問への対応 (オフィス・Email)	<p>オフィスアワー：原則として毎週水曜 12 時 10 分～13 時</p> <p>E-mail s-kaneko@dokkyomed. ac. jp にて対応いたします。</p>				

科目名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	板垣昭代		必修・選択	必修	開講年次	1 学次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、II として学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究 II に対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>この科目では、保健所や市町村等行政機関に所属する保健師の活動評価や地域における健康づくりのキーパーソンとしての保健師、養護教諭の専門性を課題として研究し、これらの課題に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力を有するために必要な手法を学ぶ。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決定する。 2. 研究課題にあった文献を検索し、研究方法を検討する。 3. 研究計画を立案する。 4. 倫理申請書を作成し、委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	授業の進め方について			板垣昭代
	5-7	研究課題分野の決定	指導教員の決定			
	8-15	研究計画の立案 ・文献検索、文献抄読	・研究方法の検討			
		第1回研究計画書提出				
		第1回中間発表				
16-28	第2回研究計画書提出	研究の実施 ・文献検索 ・先行研究の整理 ・仮説の設定 ・研究方法の選定 ・調査、フィールド活動によるパイロットスタディー				
29・30	第2回中間発表会 倫理審査	発表資料作成				
時間外における学習・時間	毎回の授業につき5時間の学習を要する。					1コマ/5時間
評価方法	研究計画作成のプロセスにおける取り組み(60%)やプレゼンテーション(40%)を評価の対象とする。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Karen Saucier Lundy, Sharyn Janes (2005): Community Health Nursing - Caring for the Public' s Health, Janes and Bartlett Publishers. 2. D. F. ポーリット, C. T. ベック (2010): 看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 					
履修上の注意	質問はメール・オフィスアワーで対応する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー: 12時~13時(水曜日) Email: itagaki@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	六角僚子		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>この科目では、在宅看護領域において、終末期がん患者の看護、在宅ホスピスケアシステムの構築、在宅療養患者と家族への支援を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にする。 2. 研究計画書を作成する。 3. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				六角僚子
	2-15	・担当教員による個別指導の形で行う。 文献レビュー 研究テーマの明確化	・問題意識を明確化するための、関連分野の文献レビューを行い、研究課題を吟味し、研究テーマを明確にする。			
		研究方法、分析方法の選定	・研究テーマに適した研究方法、分析方法を選定する。			
		第1回研究計画書提出	・第1回研究計画書を作成し、提出する。			
	16-30	第1回中間発表会	・中間発表会への準備を行い、発表する。			
第2回中間報告書提出		・第1回研究計画書を修正し、第2回研中間報告書を作成し、提出する。				
第2回中間発表会		・中間発表会への準備を行い、発表する。				
	研究倫理申請書作成・提出	・作成した研究計画書（第2回中間報告書）に基づいて、研究実践の前段階として、対象の選定、同意書の内容等の検討を行い、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。				
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。				60～90分	
評価方法	研究計画書及び倫理審査申請書を作成、提出する過程での学修への取り組み(40%)、研究計画書(30%)、倫理審査申請書(30%)から総合的に評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉本正子 他(2007):在宅看護論—実践をこぼしに 第4版, スーヴェルヒロカワ. 2. グレグ美鈴 他:よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 医歯薬出版株式会社. 3. ウンベルト・エコ; 谷口勇訳:論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順, 而立書房. 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー: 9時～12時(水曜日)</p> <p>E-mail: rrokaku@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	天賀谷 隆	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成などを経るものとする。ここでは、精神障害者の看護を研究課題とし研究指導を行う。</p>				
授業目的	精神保健医療福祉の動向や精神障害者の看護の現象を分析・評価する研究を学修する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス			天賀谷 隆
	2-15	研究課題の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の抽出と焦点化 ・課題に関連した文献検索 		
		研究計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識の明確化のための関連分野の文献レビュー ・研究方法の検討 		
		第1回研究計画書提出	<ul style="list-style-type: none"> ・様式に則って計画書を作成 		
		第1回中間発表会への準備と発表	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備 		
	16-30	研究計画書の修正	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに焦点化した再文献レビュー ・仮説の設定および概念図 ・研究方法の選択 ・予備調査、フィールド活動によるデータ収集及び分析方法の検討など 		
		第2回中間報告書提出	<ul style="list-style-type: none"> ・様式に則って報告書を作成 		
		第2回中間発表会への準備と発表	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備 		
		研究倫理審査申請書の作成と提出	<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査申請書を作成し、完成レベルまで達成した場合は、研究倫理委員会に提出 		
授業外における学習・時間	研究スケジュールを作成し、自らの研究課題について討議およびプレゼンテーションできるように準備すること。				
評価方法	授業参加状況(20%)、プレゼンテーション内容(20%)、研究計画書(40%) 研究倫理審査申請書の作成及び提出(20%)をもって評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D.F. バック;近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院 				
履修上の注意	研究計画書の作成は、研究動機に基づく実践的な研究テーマであることを望む。				
質問への対応 (オフィスワーカー・Email)	<p>オフィスアワー： 水曜日 12 時から 13 時</p> <p>Eメール： amagaya@dokkyomed.ac.jp</p> <p>研究室： 4階研究室 30 にて対応いたします。</p>				

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	板倉朋世	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>ここでは、療養環境の中で発生する様々な臭気の中で、排泄物臭や体臭の制御に関する手法の開発を研究課題とし、医療や福祉施設などの療養環境の「におい」に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の論文を読解し、研究課題に関連する文献レビューを行う。 2. 医療福祉施設内におけるにおいに関する問題を理解する。 3. 室内臭気の測定・評価技術を修得し、快適な療養環境を創出するための要素を明確化し、研究テーマを決定する。 4. 研究テーマに適する研究方法を選び、研究計画書を作成する。 5. 研究計画書に基づき、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス	研究の進め方、本科目の進め方について		板倉朋世
	2-15	研究課題の決定①	関連分野の文献レビュー 療養環境、回復を促進する要因、臭気などに関する文献レビュー 日頃から感じている研究の問いと研究課題についてのディスカッション		
		研究方法の検討①	室内臭気の測定技術 対象臭気の検討と測定のタイミングに合わせた臭気測定方法		
		研究方法の検討②	室内臭気の評価技術 客観的評価と感覚評価		
		研究方法の検討③	におい・かおりと心理の関係を分析・評価する手法		
		研究計画の立案①	研究背景・目的の明確化		
		研究計画の立案②	研究方法（対象者の選定・倫理的配慮・調査項目、評価方法）の決定		
		第1回研究計画書提出	研究計画書の修正・確認 提出期限に提出		
		第1回中間発表会準備、中間発表	発表会用パワーポイントの作成と発表内容の整理		
	16-30	研究方法の検討④	消脱臭メカニズムの基礎と原理 分析機器使用に関する演習（大同大学）		
		研究方法の検討⑤	芳香技術のメカニズム		
		研究方法の検討⑥	室内臭気の制御に関するケア技術 分析方法に関する演習（大同大学）		
		研究課題の決定②	フィールドワーク 療養環境における臭気の実態調査		
		研究計画の立案③	第1回研究計画書の修正		
		第2回中間報告書提出	中間報告書の最終確認		
		第2回中間発表会準備、中間発表	発表会用パワーポイントの作成と発表内容の整理		
		研究倫理審査申請書の作成、研究倫理委員会への提出	倫理審査書類の記載方法 特に配慮すべき内容・対象者が理解しやすい表現について		

		での検討	
授業外における 学習・時間	論文の書き方、プレゼンテーション方法については自己学習しておく。		2時間
評価方法	授業全般に関わる参加度〔準備性・積極性、誠実性（期日の厳守）〕40% 研究計画書及び研究倫理審査申請書の作成、提出60%で評価する。		
テキスト・参考書	1. 堀内哲嗣郎(2006): におい かおり 〈実践的な知識と技術〉, フレグランスジャーナル社 2. 川崎通昭 他(2005): 嗅覚とにおい物質, 社団法人におい・かおり環境協会.		
履修上の注意	主体的学修を望む。		
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー: 16時~18時 メール (itakura@dokkyoumed.ac.jp) にて対応いたします。		

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I	科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	小西敏子	必修・選択	必修	開講年次	1 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究 I、IIとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究IIに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化をはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>ここでは、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関することを研究課題とし、研究指導を行う。</p>				
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発するため、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関することを研究課題として研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する文献レビューを行う。 2. 研究課題を明確にし研究テーマを決定する。 3. 研究テーマを明らかにするための研究方法を選択する。 4. 研究計画書を作成する。 5. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス	全体計画、演習の進め方について説明する。		小西敏子
	2-15	関連分野の文献レビュー 研究課題の明確化 研究計画の立案 第1回研究計画書提出 第1回中間発表会の準備と発表	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の各病期における看護、あるいは終末期看護の中で、履修者の関心のあるテーマについて文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに、授業参加者に資料を配布する。 3. 授業参加者は、予め資料を読み、討論に備える。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションを行い、その後、参加者とディスカッションを行う。 これらを通して、自らの研究課題の焦点化を図り、第1回研究計画書を作成する。		
16-30	フィールド選定のための調査 研究計画書の修正 第2回中間報告書提出 第2回中間発表会の準備と発表 研究倫理審査申請書の作成及び研究倫理委員会への提出	研究課題に基づき、再度、文献レビューを行い、プレゼンテーション、ディスカッションを繰り返す。これらを通して研究計画書の追加・修正を行うことで、第2回中間報告書を作成する。			
授業外における学習・時間	2回～15回 関心のあるテーマに関する文献を入手して内容を解読し、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンテーションの準備を行う。また、中間発表会に向け、プレゼンテーションの準備を行う。				1 コマ/30 分
	16回～30回 再度、文献レビュー、プレゼンテーションの準備を行うと共に、研究倫理審査申請書の作成準備を進める。				
評価方法	①文献レビューの実施と研究課題の明確化 (20%)		④期日の厳守 (20%)		
	②研究計画書の作成 (30%)		⑤研究への主体的な取り組み (20%)		
	③研究倫理審査申請書の作成及び提出 (10%)				
テキスト・参考書	D. F. ボーリット, C. T. バック (2010) : 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院 その他、適宜紹介する。				
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。				
質問への対応 (オフィス・Email)	オフィスアワー 水曜日 12 時～ 13 時(研究室 16 小西) E-mail:konishit@dokkyomed.ac.jp (随時) にて対応いたします。				

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	丸井 明美		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成などを経るものとする。</p> <p>ここでは、高齢者施設に勤務する職員や高齢者や家族を対象とした施設ケアを研究課題とし、老年看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程を理解する。 2. 関連分野の文献レビューを行うことができる。 3. 研究方法を選定できる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究上の倫理的問題への対処を理解し、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				丸井明美
	2-15	文献クリティーク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の関心に沿って、関連分野の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。 2. 発表の前週までに資料を授業参加者全員に配布する。 3. 授業参加者はあらかじめ資料に目を通し、討論に備える。 4. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者とディスカッションを行う。 			
		第1回研究計画書の提出	これらを通して、自らの研究課題の焦点化を図り、第1回研究計画書を作成する。			
		第1回中間発表会	1. 中間発表会にてプレゼンテーション			
16-30	研究計画の立案 倫理申請書類の書き方 第2回中間報告書の提出	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に基づき、第2回中間報告書を完成するために、看護学研究方法及び倫理的課題に関する文献レビューを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。 				
	第2回中間発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間発表会にてプレゼンテーション 2. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出あるいは提出の準備をする。 				
授業外における学習・時間	プレゼンテーションの準備				1 コマ/30 分	
評価方法	文献レビューを行い研究課題を焦点化 (20%)、研究計画書の作成 (40%)、プレゼンテーション内容 (20%)、研究倫理審査申請書の作成及び提出 (20%) をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D.F.バック;近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. <p>その他、適宜授業内で紹介する。</p>					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (Webメール・Email)	<p>オフィスアワー: 12 時~13 時</p> <p>E-mail: marui@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究 I Research Methodology in Nursing I		科目区分	研究科目	単位数	2 単位
教員名	種市 ひろみ		必修・選択	必修	開講年次	1 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>特別研究は、研究に必要な能力を身につけるために、共通科目や専門科目の学修を統合し、2年間かけて修士論文を完成させる科目である。修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する。</p> <p>本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。</p> <p>学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。</p> <p>本科目の到達目標は、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出するところまでとする。その間のプロセスとして、研究課題の焦点化にはじめ、研究方法（研究対象、データ収集方法、データ分析方法）の選定、研究計画書の作成、などを経るものとする。</p> <p>この科目では、在宅看護領域において、終末期がん患者の看護、在宅ホスピスケアシステムの構築、在宅療養患者と家族への支援を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にする。 2. 研究計画書を作成する。 3. 研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				種市ひろみ
	2-15	・担当教員による個別指導の形で行う。 文献レビュー 研究テーマの明確化 研究方法、分析方法の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を明確化するための、関連分野の文献レビューを行い、研究課題を吟味し、研究テーマを明確にする。 ・研究テーマに適した研究方法、分析方法を選定する。 			
		第1回研究計画書提出 第1回中間発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究計画書を作成し、提出する。 ・中間発表会への準備を行い、発表する。 			
	16-30	第2回中間報告書提出 第2回中間発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究計画書を修正し、第2回研中間報告書を作成し、提出する。 ・中間発表会への準備を行い、発表する。 			
研究倫理申請書作成・提出		<ul style="list-style-type: none"> ・作成した研究計画書（第2回中間報告書）に基づいて、研究実践の前段階として、対象の選定、同意書の内容等の検討を行い、研究倫理審査申請書を作成し、研究倫理委員会に提出する。 				
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					60～90分
評価方法	研究計画書及び倫理審査申請書を作成、提出する過程での学修への取り組み(40%)、研究計画書(30%)、倫理審査申請書(30%)から総合的に評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉本正子 他(2007):在宅看護論—実践をこぼに 第4版, ヌーヴェルヒロカワ. 2. グレグ美鈴 他:よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 医歯薬出版株式会社 3. ウンベルト・エコ; 谷口勇訳:論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順, 而立書房. 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	E-mail taneichi@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー:水曜日 11:00~12:00 研究室:4階 研究室15 にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	山口久美子		必修・選択	必修	開講年次	2年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、看護管理者が抱える現場のジレンマや看護管理上の問題に関することを研究課題とし、看護管理に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に必要な知識・技術・態度を修得する。					
到達目標	<p>1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。</p> <p>2. 実施した研究を、論文としてまとめる。</p> <p>3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。</p>					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	・授業の進め方			山口久美子
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<p>1. 研究フィールドへの依頼</p> <p>2. 該当施設における倫理手続きの実施</p> <p>3. 対象の選定</p> <p>4. 研究データの収集</p> <p>5. 研究結果の分析</p> <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書提出 第3回中間発表会への準備と発表	<p>様式に則って計画書を作成</p> <p>パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備</p>			
	31-53	研究論文を作成する	<p>1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。</p> <p>2. 研究方法及び結果について論述する。</p> <p>3. 研究結果を目的と対応し、考察する。</p> <p>4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。</p>			
	54	修士論文(審査用)の提出	・様式に則って論文を作成			
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備	・今回の研究概要の要約(成果と課題など)			
	2月中旬	修士論文発表会(最終試験)	・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備			
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					
評価方法	研究への取り組み状況(20%)・期日の厳守(20%)・研究論文(30%)・発表内容(30%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<p>1. D.F.ベック;近藤潤子 監訳(2010):看護研究 原理と方法,医学書院</p> <p>2. 大木秀一(2009):基本からわかる看護統計学入門,医歯薬出版株式会社</p>					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィス・Email)	<p>オフィス:水曜日 17:00~18:00 研究室NO.11</p> <p>Email:yama-k@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Course of Women's Health Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4単位
教員名	島田三恵子		必修・選択	必修	開講年次	2年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づけられるものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。</p> <p>その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会から承認された段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>女性の健康、および妊娠・出産・育児期の母子ケアを研究課題とし、母性看護・助産に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	研究過程を経験として学修し、課題解決に向けた科学的手法を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				島田三恵子
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書の提出	様式に則って計画書を作成			
		第3回中間発表会	中間発表会にてプレゼンテーション			
	31-53	研究論文を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文(審査用)の提出				
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備				
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)					
授業外における学習・時間						1コマ/30分
評価方法	研究への取り組み状況(20%)・研究計画に沿った研究の遂行状況(20%) 研究論文(30%)・発表内容(30%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D.F. ベック; 近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応(ワイズワール・Email)	授業時に提示する。					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II	科目区分	専門科目	単位数	4単位
教員名	井上 ひとみ	必修・選択	必修	開講年次	2年次
				開講学期	通年
授業形態	講義・演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半に位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成と発表までとする。その研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p>				
授業目的	修士論文の完成と発表を通し、「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」および、「高い倫理観に基づいた看護行動をとることができ、複雑な倫理的課題に対応できる調整能力」を獲得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス			井上ひとみ
	2-30	《研究計画書に基づく研究の実施》	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究用紙の作成・インタビュー訓練などの事前準備を行う。 ・研究フィールドの依頼を行う。 ・該当施設における倫理審査の手続きを実施する。 ・対象選定とデータ収集 ・データ分析計画を立て分析を行う。 ・分析結果を読み取り、解釈する。 ・考察のストーリーと結論について考える。 		
	31-53	《修士論文の作成》	<p>問題の所在・研究の動機、研究目的を論述する。</p> <p>研究方法・結果を論述する。</p> <p>研究結果を研究目的に照らし、考察する。</p> <p>研究課題で明らかになったこと、研究の限界と今後の課題について論述する。</p>		
	54	修士論文（審査用）の提出			
	55-60	研究成果の発表（修士論文審査、最終試験）準備			
	2月中旬	修士論文発表会（最終試験）			
授業外における学習・時間	先行研究のまとめ、研究計画の作成、データ収集、分析、論文の執筆				1コマ/30分
評価方法	研究への取り組み姿勢(20%)、研究計画に沿った研究の遂行状況(20%) 研究論文(30%) 発表内容(30%)をもって評価する。				
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大木秀一看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、医歯薬出版、2013 2. バーンズ&グローブ看護研究入門〔第7版〕、ELSEVIER 3. アメリカ心理学会（前田樹海訳）APA論文作成マニュアル 第2版、医学書院、2011 				
履修上の注意					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー：月～金 12時10分～13時</p> <p>Email:hitomi-i@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>				

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II	科目区分	研究科目	単位数	4単位
教員名	粟生田友子	必修・選択	必修	開講年次	2年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、障がいを抱える慢性疾患患者の体験を理解するための質的研究および行動理論を援用したセルフケアの再獲得を促進する看護支援に関する課題を研究し、慢性期看護に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	「看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力」を培うために、立案した研究計画書に沿って、一連の研究過程を実践し、論文を完成・発表する。				
到達目標	1. 研究計画に沿って研究を遂行する（データ収集、データ分析）。 2. 修士論文を作成する。 3. 修士論文を発表する。				
授業内容	回	単元主題	授業内容	教員名	
	1	ガイダンス	本科目について、目的、授業方法、スケジュールについて説明を行い、修士論文作成までの過程のイメージ化を図る。	粟生田友子	
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	研究倫理審査申請書がまだ完成していない場合、まず作成し委員会の承認を得る。		
			1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。		
			第3回中間報告書の作成	第3回中間報告書を作成し、提出する。	
		第3回中間発表会の準備と発表	第3回中間発表会への準備を行い、発表する。		
	31-53	研究論文を作成する	1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。		
	54	修士論文(審査用)の提出	本文、図・表、資料を揃え、修士論文(審査用)を完成する。		
55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備	最終試験に向け、研究成果をパワーポイントにわかりやすくまとめる。			
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)	取り組んだ看護研究について、わかりやすく発表し、質問の意味を考え、自己の考えを述べる。			
授業外における学習・時間	研究論文作成プロセスに必要な時間を、個別に企画し、課題を達成する。授業ごとに1時間程度は確保する。			1コマ/1時間程度	
評価方法	① 研究への主体的な取り組み(20%) ② 期日の厳守(20%) ③ 修士論文作成〔研究への動機、研究テーマの視点、研究方法の検討過程(指導事項の受け入れも含む)〕(30%) ④ 発表の準備・実施(30%)				
テキスト・参考書	1. ARN, 奥宮暁子 監訳(2005): リハビリテーション看護の実践 概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム,				

	日本看護協会出版会. 2. D. F. ベック, 近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院
履修上の注意	困ったときには随時相談するようにして下さい。
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー : 12 時～13 時 E-mail : aohda@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing Ⅱ		科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	藤野彰子	必修・選択	必修	開講年次	2 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、がん患者の看護のうち、緩和ケア、終末期看護を主に研究課題とし、がん看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	がん看護に関する研究を計画書に基づき実施し、論文にまとめるための能力を養うことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				藤野彰子
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書提出	第3回中間報告書を作成する。			
		第3回中間発表会	中間発表会にてプレゼンテーションを行う。			
	31-53	研究論文の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文(審査用)の提出				
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備				
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)					
授業外における学習・時間	各授業におけるプレゼンテーションの準備、研究の実施と論文にまとめる作業。					1 コマ/30 分
評価方法	研究への取り組み状況(20%)・研究計画に沿った研究の遂行状況(20%)・研究論文(30%)・発表内容(30%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. I. N. バーンズ; 黒田裕子他 監訳(2011) : 看護研究入門. エルゼビア・ジャパン. 2. D. F. ベック; 近藤潤子 監訳(2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院 3. APA アメリカ心理学会/江藤裕之訳(2004) : APA 論文作成マニュアル, 医学書院 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応(オフィス・Email)	質問への対応は、授業日(水、木曜日)の17時から18時もしくはEメール(藤野 : fujino@dokkyomed. ac. jp)にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4単位
教員名	金子昌子		必修・選択	必修	開講年次	2年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、老年入院患者の看護（急性期看護、リハビリテーション看護、がん看護など）を研究課題とし、老年看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	研究過程を経験として学修し、課題解決に向けた科学的手法を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				金子昌子
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書の提出	様式に則って計画書を作成			
		第3回中間発表会	中間発表会にてプレゼンテーション			
	31-53	研究論文を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文(審査用)の提出				
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備				
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)					
授業外における学習・時間						1コマ/30分
評価方法	研究への取り組み状況(20%)・研究計画に沿った研究の遂行状況(20%) 研究論文(30%)・発表内容(30%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D. F. ベック; 近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応(ウェブサイト・Email)	<p>オフィスアワー: 原則として毎週水曜 12時10分~13時</p> <p>E-mail s-kaneko@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	板垣昭代	必修・選択	必修	開講年次	2 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、保健所や市町村等行政機関に所属する保健師の活動評価や地域における健康づくりのキーパーソンとしての保健師、養護教諭の専門性を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力の向上を目指して、その研究過程の基本を理解する。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画にそって研究を実施する。 2. 研究プロセスを構造的に表現し、プレゼンテーションする。 3. 修士論文を作成する。 4. 修士論文を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	授業の進め方			板垣昭代
	2-30	研究計画に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 研究倫理審査申請書作成 申請認定 3. データ収集 4. 結果の分析 			
		第3回中間発表報告書の作成	報告書作成 提出			
		第3回中間発表会の準備と発表	準備、発表			
	31-53	修士論文の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法・結果について論述する。 3. 研究結果を目的、方法と対応して考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと、示唆された。課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文提出	必要な内容を満たし、完成する。			
	55-60	修士論文発表 修士論文審査および最終試験準備	最終試験に向けて研究結果をスライドにまとめる。			
2月中旬	修士論文発表会	わかりやすく発表し、自分の意見を述べる。				
時間外における学習	毎回の授業につき 10 時間の学習を要する。					1 コマ/10 時間
評価方法	<p>修士論文の審査において合格していることとする。</p> <p>合格している者は、次の項目に沿って評価する。</p> <p>①研究への動機 ②研究テーマの視点 ③研究方法の検討過程（指導事項の受け入れも含む） ④期日の厳守 ⑤プレゼンテーションの準備・実施、の各項目について 20%とする。</p>					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Karen Saucier Lundy, Sharyn Janes (2005): Community Health Nursing - Caring for the Public' s Health, Janes and Bartlett Publishers. 2. D. F. ポーリット, C. T. ベック (2010): 看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院 					
履修上の注意	主体的学習を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー：12時～13時（水曜日）</p> <p>Email: itagaki@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing Ⅱ		科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	六角僚子	必修・選択	必修	開講年次	2 年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、在宅看護領域において、終末期がん患者の看護、在宅ホスピスケアシステムの構築、在宅療養患者と家族への支援などのテーマを研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に沿って、研究を実施する。 2. 論文を完成する。 3. 研究の成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	担当教員による個別指導の形で行う。			六角僚子
	2-30	研究を実施	特別研究Ⅰで作成した研究計画書に沿って、研究を実施し、報告と討議をしていく。			
		第3回中間報告書の作成	第3回中間報告書を作成し、提出する。			
		第3回中間発表会	中間発表会への準備を行い、発表する。			
	31-49	実施した研究を論文として記述し、論文を作成する。	論文作成段階で、討議を行い、論文の精度を上げる。			
	50-54	抄録（論文要旨）を作成する。 修士論文（審査用）を提出する。	抄録の作成指導 審査用修士論文指導			
	55-60	発表原稿、発表媒体等を作成し、論文発表（論文審査、最終試験）の準備をする。	発表用原稿や最終試験への指導			
2月中旬	修士論文発表会（最終試験）					
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。					60～90分
評価方法	論文、発表媒体及び発表内容の作成過程での学修状況（課題や提出物の期日厳守含む）（20%）、研究への積極的な取り組み（20%）、論文（40%）、発表媒体及び発表内容（20%）から総合的に評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウンベルト・エコ；谷口勇訳：論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順、而立書房. 2. グレック美鈴 他：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方、医歯薬出版株式会社 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー：9時～12時（水曜日）</p> <p>E-mail：rrokaku@dokkyomed.ac.jpにて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4単位
教員名	天賀谷 隆	必修・選択	必修	開講年次	2年次	
				開講学期	通年	
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する			
		教室	受講生との協議により決定する			
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、精神障害者の看護を研究課題とし、研究指導を行う。</p>					
授業目的	精神保健医療福祉の動向や精神障害者の看護の現象を分析・評価する研究を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				天賀谷 隆
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書の提出	第3回中間報告書を作成し、提出する。			
		第3回中間発表会	中間発表会への準備を行い、発表する。			
	31-53	研究論文を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文(審査用)の提出	・様式に則って論文を作成			
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備	・今回の研究概要の要約(成果と課題など)			
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)	・パワーポイントと発表原稿の作成および発表準備				
授業外における学習・時間	研究スケジュールを作成し、自らの研究課題について討議およびプレゼンテーションできるように準備すること。					1コマ/30分
評価方法	研究への取り組み状況(20%)・研究計画に沿った研究の遂行状況(20%) 研究論文(30%)・発表内容(30%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D. F. バック; 近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. 					
履修上の注意	研究計画書の作成は、研究動機に基づく実践的な研究テーマであることを望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	<p>オフィスアワー: 水曜日 12時から13時</p> <p>Eメール: amagaya@dokkyomed.ac.jp</p> <p>研究室: 4階研究室30にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing Ⅱ	科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	板倉朋世	必修・選択	必修	開講年次	2 年次
				開講学期	通年
授業形態	演習	曜日時限	受講生との協議により決定する		
		教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、第2学年の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、療養環境の中で発生する様々な臭気の中で、排泄物臭や体臭の制御に関する手法の開発を研究課題とし、医療や福祉施設などの療養環境の「におい」に関する研究指導を行う。</p>				
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 快適な療養環境の創造に向けて、作成した研究計画書に沿って調査を実施する。 2. 室内臭気の測定・評価技術を用い、データの収集と分析ができる。 3. 実験的検討により、効果的な室内臭気の制御方法を見出せる。 4. 論理的な考察をもとに論文を記述し、提出できる。 5. 研究で得た知見を医療福祉施設内の臭気問題にリンクさせて考察し、今後の課題を明確にできる。 6. 発表資料を作成し、効果的な発表ができる。 				
授業内容	回	単元主題	授業内容		教員名
	1	ガイダンス	研究スケジュールの確認 論文作成に向けてのスケジュール作成		板倉朋世
	2- 30	(研究の実施) 調査施設の選定と依頼 調査施設への説明 調査対象者への説明と同意 実測（調査結果の再現性が図れるよう、複数の測定場面を設定する。） 実験的検討（消臭技術・芳香技術・ケア技術を適用し、効果的な臭気の制御方法を見出す） データの集計・解析 調査結果の発表	研究計画に従って研究を進める。 実験結果および調査結果を随時まとめ、プレゼンテーションをする。 有効な測定結果が得られない場合は、条件を変更し再調査する。 臭気分析結果については専門家の助言を得る。 調査実施の過程で、随時、結果と考察をまとめ、修士論文のベースとなるようにする。 データの分析		
		第3回中間報告書の作成	第3回中間報告書を作成し、提出する。		
		第3回中間発表会	中間発表会への準備を行い、発表する。		
		31-53	(修士論文の作成) 研究の背景、目的 研究の枠組み 研究方法 研究結果 考察 結論 要旨	9月までに第1章、第2章を作成する。 研究計画書をベースに研究方法（第3章）を修正する。 11月までにデータの分析を終了し、結果（第4章）を記載する。 12月中旬までに考察（第5章）を行い、記載する。	
	54	修士論文（審査用）提出	提出期限に提出する。		
	55-60	修士論文発表（修士論文審査、最終試験）準備	審査会に向けて、研究結果の整理 発表会に向けて、パワーポイントを作成する。		
	2月中旬	修士論文発表会（最終試験）			
授業外における学習・時間	統計ソフトの使用方法を学習しておく。			2 時間	

評価方法	①期日の厳守 (20%) ②研究への主体的な取り組み (20%) ③修士論文作成 (研究への動機、研究テーマの視点、研究方法の検討過程) (30%) ④修士論文発表の準備・実施 (30%)
テキスト・参考書	1. 堀内哲嗣郎(2006): におい かおり 〈実践的な知識と技術〉, フレグランスジャーナル社 2. 川崎通昭 他(2005): 嗅覚とにおい物質, 社団法人におい・かおり環境協会.
履修上の注意	主体的学修を望む。
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー: 16時~18時 メール (itakura@dokkyomed.ac.jp) にて対応いたします。

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4単位
教員名	小西敏子		必修・選択	必修	開講年次	2年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関することを研究課題とし、研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発するため、がん患者の各病期において、特に終末期看護に関することを研究課題として研究計画書に沿って研究を実施し、研究論文の要件を充たすよう完成させて発表する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に沿って研究を実施する。 2. 論文を完成する。 3. 研究の成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	全体計画、演習の進め方について説明する。			小西敏子
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 研究施設における倫理手続きの実施 3. 対象者の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 			
			第3回中間報告書の作成			
			第3回中間発表会			
	31-54	研究論文の作成 修士論文（審査用）の提出	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機、研究背景、研究目的について論述する。 2. 研究方法、結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 5. 書式、体裁を整え、修士論文（審査用）を提出する。 			
			修士論文発表（修士論文審査、最終試験）準備			
55-60	修士論文発表（修士論文審査、最終試験）準備	修士論文発表会に向け、準備を行う。				
2月中旬	修士論文発表会（最終試験）					
授業外における学習・時間	2回～30回 研究計画書に基づいて研究を実施するための調整・準備を行う。 31回～60回 研究論文の体裁に基づき作成する準備を行う。				1コマ/30分	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ①研究計画に沿った実施（10%） ②データの分析と結果の抽出（20%） ③結果について根拠に基づく考察の記述（15%） ④一貫性のある論文の作成（15%） ⑤発表の準備・実施（10%） ⑥期日の厳守（15%） ⑦研究への主体的な取り組み（15%） 					
テキスト・参考書	D. F. ポーリット, C. T. ベック（2010）：看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院 その他、適宜紹介する。					
履修上の注意	主体的な取り組みを期待する。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	オフィスアワー 水曜日 12時～13時(研究室16 小西) E-mail: konishit@dokkyomed.ac.jp (随時) にて対応いたします。					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing II		科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	丸井 明美		必修・選択	必修	開講年次	2 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、高齢者施設に勤務する職員や高齢者や家族を対象とした施設ケアを研究課題とし、老年看護に関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な実践を開発する研究能力に関する知識・技能・態度を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究上の課題を解決するために、研究計画書に基づき、研究を実施する。 2. 実施した研究を、論文としてまとめる。 3. 研究の課題や限界を踏まえ、研究成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス				丸井明美
	2-30	研究計画書に基づく研究の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究フィールドへの依頼 2. 該当施設における倫理手続きの実施 3. 対象の選定 4. 研究データの収集 5. 研究結果の分析 <p>以上の内容の中で、データ収集及び結果についてプレテストを行い、評価し、必要に応じて計画を修正し、本調査を行う。</p>			
		第3回中間報告書の提出	様式に則って計画書を作成			
		第3回中間発表会	発表会の準備を行い発表する			
	31-53	研究論文を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究動機・研究背景・研究目的について論述する。 2. 研究方法及び結果について論述する。 3. 研究結果を目的と対応し、考察する。 4. 研究課題に対して明らかになったこと及び示唆された課題と研究の限界について論述する。 			
	54	修士論文(審査用)の提出				
	55-60	研究成果の発表(修士論文審査、最終試験)準備	修士論文の審査となる発表会に向けて、資料・媒体等を吟味し洗練させる。			
2月中旬	修士論文発表会(最終試験)					
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。				1 コマ/30 分	
評価方法	研究への取り組み状況(課題や提出物の期日厳守含む)(20%)、研究計画に沿った研究の遂行状況(20%) 研究論文(40%)・発表内容(20%)をもって評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原俊一, 数間恵子: QOL 評価学, 中山書店. 2. D.F. ベック; 近藤潤子 監訳(2010): 看護研究 原理と方法, 医学書院. 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応(ウェブ・Email)	<p>オフィスアワー: 12 時~13 時</p> <p>E-mail: marui@dokkyomed.ac.jp にて対応いたします。</p>					

科目名・英名	特別研究Ⅱ Research Methodology in Nursing Ⅱ		科目区分	研究科目	単位数	4 単位
教員名	種市 ひろみ		必修・選択	必修	開講年次	2 年次
					開講学期	通年
授業形態	演習		曜日時限	受講生との協議により決定する		
			教室	受講生との協議により決定する		
科目概要	<p>本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。</p> <p>本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。</p> <p>ここでは、在宅看護領域において、終末期がん患者の看護、在宅ホスピスケアシステムの構築、在宅療養患者と家族への支援などのテーマを研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。</p>					
授業目的	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に沿って、研究を実施する。 2. 論文を完成する。 3. 研究の成果を発表する。 					
授業内容	回	単元主題	授業内容			教員名
	1	ガイダンス	担当教員による個別指導の形で行う。			種市ひろみ
	2-30	研究を実施	特別研究Ⅰで作成した研究計画書に沿って、研究を実施し、報告と討議をしていく。			
		第3回中間報告書の作成	第3回中間報告書を作成し、提出する。			
		第3回中間発表会	中間発表会への準備を行い、発表する。			
	31-49	実施した研究を論文として記述し、論文を作成する。	論文作成段階で、討議を行い、論文の精度を上げる			
	50-54	抄録（論文要旨）を作成する。 修士論文（審査用）を提出する。	抄録の作成指導 審査用修士論文指導			
	55-60	発表原稿、発表媒体等を作成し、論文発表（論文審査、最終試験）の準備をする。	発表用原稿や最終試験への指導			
2月中旬	修士論文発表会（最終試験）					
授業外における学習・時間	受講生との協議により決定する。				60～90分	
評価方法	論文、発表媒体及び発表内容の作成過程での学修状況（課題や提出物の期日厳守含む）（20%）、研究への積極的な取り組み（20%）、論文（40%）、発表媒体及び発表内容（20%）から総合的に評価する。					
テキスト・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウンベルト・エコ；谷口勇訳：論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順、而立書房。 2. グレッグ美鈴 他：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方、医歯薬出版株式会社。 					
履修上の注意	主体的学修を望む。					
質問への対応 (オフィスアワー・Email)	E-mail taneichi@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー：水曜日 11：00～12：00 研究室：4階 研究室15 にて対応いたします。					